

164

20

Deutsche Jugendschriften.

獨逸文學叢書

第五編

ステーエンフォルの窟

東京外國語學校教授

水野繁太郎 註譯

京都醫學專門學校講師

奥野七郎 註譯

Die Höhle von Steenfol.

Lathe:

Guhodo.

164
205

Deutsche Jugendschriften.

V. Band.

ステーエンフォルの窟

東京外国語學校教授
水野繁太郎 譯註

京都醫學專門學校講師
奥野七郎 譯註

Die Höhle von Steenfol.

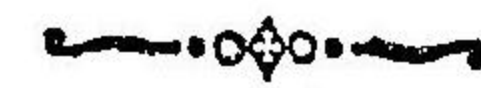
Tokyo:
Yuhodo.

明治
43. 7. 23
内交



沈没船々長船員一同を従へ海底より現れステーフオル
の窟にてウキルムと會見す

叢書序



本叢書は我が讀書子の爲め、その小説なると、譚なると、傳記類なるとに論なく、苟くも平易にして趣味あるものは凡て選んで、此れに懇切なる譯註を附し、以て一は獨逸語研究の伴呂たらしめ、一は獨逸文の興趣を諸子に紹介せんと欲す。

外國語を學ばんとする者が、單に文法や一字一字の字義を解し得たりしを以て満足すべきものに非ず、更に一步を進めて其の豊富なる熟語、成句に通曉せざる可からざるなり、これ外國語修習者の常に念頭に置かざるべからざる所にして本叢書の意を用るし處なり。

それ獨逸語が諸科學界に、哲學界に、文學界に、藝術界に、政治經濟界に、工業界に將た實業界に幾何の地歩を占めつ、ありやは茲に贅するの要を見ず、

而して其の語を學ばんとするもの數、決して鮮少に非ずして、然かも此れを學ぶべき機會と便宜との、其の要求に比して極めて少なきは吾子が諸子と歎を同じうする所なり。初學の士が一度、世の文法書を讀了して漸くその難澁なる文法組織を窺ひし後、當然起り來るべき要求は平易にして趣味ある書を讀まんとすることなり、然るに現今日本の獨逸語界は此の要求に對して果して遺憾なかるべきか。今や我邦に於ける英語學界の進歩發達を見、翻つてわが獨逸語學界を見來れば、寥々寂寞の感なき能はず、人、英語を學ばんと欲して第一に感ずるの困難は『如何なる書を讀むべきか』『如何なる書を擇んで可なる可きか』といふにあり、然るに獨逸語を修了せんとする人が先づ蓬着する苦痛は『讀むべき書は何處にありや』『讀むべき書は一もあるなし』といふにあり、比較的便宜多く機會多き帝都に於てすらなほ且つ然り、然るを況んや僻遠の地、學ぶに師なく知るに友なきの地にあるの人に於ておや、かくて篤學の士が空し

く斯語の研究を放擲するあるを悲しむ。これ本叢書が出づる所以にして、依つて以て渴えたる厚學の諸子が所望の幾分を滿たすを得ば 嘗に吾子が本懐のみに非ざるなり。

叢書擇べる所は已に説ける如く平易にして趣味あるもの、諸子が反履熟讀して此れを應用せば、日常の會話、作文に便する大なるべきは言をまたすと雖も、又獨文和譯、和文獨譯を學ぶに便益少なからざる可し、その冊子をして小ならしめたるが如きも、要するに諸子が携帶の便を慮りしが爲めに外ならざるなり。

著者は譯文に際し原文の意義を十分に譯出し、日本文の許す限りは原文の一字一句をも 苟めにせざらんことに努め、又譯文中には殆んど原文を挿入して原文との關係を示したり、然りと雖、嚴密なる意味に於て原文と譯文と其の間、決して差異なしと云ふべからず、これ獨逸語と日本語との性質に本源の差あればなり。原文が言ひ表はせる眞の感じに至つて

は到底譯文よりして得ることを得ずして、原文それ自身より掬み取らざるべからざるなり、茲を以て諸子が先づ原文と譯文とを對照して其の意義を解したる後、更らに原文のみを數回精讀してその眞の感じを味はれんことを希望す、羅甸の古諺に曰く

Repetitio est mater studiorum.

(反覆は修學の母なり)。

と、以て諸子に薦む。

終りに臨んで吾子は諸子が此の眇たる小冊子を出來得る限り利用せられんことを望まずんば非ざるなり、以て序となす。

譯 註 者 識 す

本 編 は し が き

巖嶮々たる蘇格蘭の海岸、澎湃たる大西洋の怒濤、寄せては返し返しては寄す、碎けては噴雪飛んで雲を捲き、激しては閃電轟いて地軸を擡かす、荒涼の觀、凄壯の極、誰か此の巖頭に立て此の激浪を覗望するものぞ、貪欲にして冒險を好み、猗頓の富は以て手に唾して取る可しと爲す、ウキルム フアルケは波間浪影より幻出し來れる靈魔の一隊あると見るまに、其幽妙なる音樂、奇異なる服裝、遂には彼を圍周して踴躍舞踏するを覺ゆるなり、靈魔の一人は先づ其青白き唇を破りて、我等こそはその昔ヅタビヤより歸航の途次、この荒海のほとりにて沈没したる船員どもなり、海底深くステーエンフォルの巖窟の内に、カルミルハンの寶は鬱積して山の如し、今御身の欲望禁じ難き心中を窺知して告げ參らするのみと、

睜々として笑ひ、媛々として招く、此に於てかウキルム
 は寶は得たし命は惜し、恐怖の爲めに躊躇しつゝも、
 欲望の爲めに迷惑せざるを得んや、彼は遂に親友カ
 スバル ストルンプの諫めも聽かず、深き遠き黒き暗
 き海底に跳り入りぬ、嗚呼果して彼はカルミルハン
 の寶を手裏に收めたる乎否乎、猶ほ後人の相想に残
 されたりし今は昔の物語は、茲に獨逸文學叢書第五
 編として讀書子の左右に紹介す、讀書子暑を青松白
 沙の邊に避けられし夕、或は氣を深山幽谷に涵ふの
 晨、或は又學窓の行餘に此冊子を繙かば、文豪ハウフ
 に因て寫し出されたる曉々たる其岩、澎湃たる其濤、
 冒險の人、溫厚の友、凄々たる氣、幽々たる靈の子
 等の眼前に髣髴し來らむ乎。

明治四十三年七月

西大久保の村居にて

譯註者識す

注 意

- (1) 獨逸語に精通せんとする者が熟語、成句、語法の意味を明かにし文法上の關係を會得せざる可からざるは論を俟ず、故に本叢書中に於て同一の熟語、成句等並見する時は可成的其の所在を明示しすることに力めたり、讀者は之れを對照比較して種々の場合に活用するを怠るべからず
- (2) 上記の目的を以て本叢書第四編以降は註に番號を附し參考に便ならしめたり、第一編より第三編までは不得已參考すべき頁數を示しおけり
- (3) 參考の際文法とあるは水野著獨逸文法自修書を指し自修前若しくは自修後とあるは獨逸語自修書前(後)編の意なり、又た例せば二六、卅五等を見よとあるは讀者が讀みつゝある叢書の註二六、卅五と云ふことなり、四の二〇、五の七〇等とあれば叢書四編の註二〇、五編の註七〇の謂なり

Die Höhle von Steentoff.

ステーエンホルの窟



Auf einer der Felseninseln Schottlands lebten vor vielen Jahren zwei Fischer in glücklicher Eintracht. Sie waren beide unverheiratet, hatten auch sonst keine Angehörigen, und ihre gemeinsame Arbeit, obgleich verschieden angewendet, nährte sie beide.

(譯) スコットランドの (Schottlands) 多き島嶼の内の (der Felseninseln) 或る島に (auf einer) 二人の漁師が (zwei Fischer) 久しき昔 (vor vielen Jahren) 仲善く幸福に (in glücklicher Eintracht) 暮して居りました (lebten) 彼等は兩人共 (sie.....beide) 結婚せず (.....waren.....unverheiratet) 亦其外の (auch sonst) 家族も持ちませんでした (hatten..... keine Angehörigen) [仕事は] 異なつては居るが (obgleich

verschieden angewendet) 兩人共同して働いて (ihre gemeinsame Arbeit) 生活して行きました (nährte beide)。

(註一) der Felseninsel は複数第二格で「島嶼等の」 auf einer は「一つの上に」。— ihre gemeinsame Arbeit nährte beide を直譯すれば「彼等の共同の仕事が彼等兩人を養いぬ」なり。— obgleich verschieden angewendet は略した文章であるが之れを完全の文章にすれば分かり良し = obgleich sie verschieden angewendet wurde 即ち「彼等の (ihre gemeinsame Arbeit の事) が種々に (verschieden) 用ゐられた (angewendet wurde) けれども (obgleich) 其の意味は「彼等の仕事の種類は異なつて居たが」。

Im Alter kamen sie einander ziemlich nahe, aber von Person und an Gemütsart glichen sie nicht mehr, als ein Adler und ein Seefalch.

(譯) 年齢の點よりすれば (im Alter) 兩人は (sie) 相互に (einander) 可なり (ziemlich) 相似た年頃でしたが (kamen nahe, aber) 人格 (Person) 及び性情 (Gemütsart) の點から曰へば (von.....an.....) 鷲と (ein Adler) 海鵠 (ein Seefalch) と [相類似せざる] よりも (als) 更に甚だしく似て居りませぬ (nicht mehr glichen) でした。

(註二) 「.....點よりすれば」と云ふにも年齢の點よりすればは im, 人格の點よりすればは von 性情の點よりすればは an と云ふ風に前置詞が違ふことに注意すべし。—glichen sie nicht mehr, als ein Adler und ein Seefalch を直譯すれば「鷲と海鵠 [が相類似せざる] より (als) より多く (mehr) 似て居らなんだ (glichen nicht)。

Raspar Strumpf war ein kurzer, dicker Mensch mit einem breiten, fetten Vollmondsgezicht und gutmütig lachenden Augen, denen Gram und Sorge fremd zu sein schienen. Er war nicht nur fett, sondern auch schläfrig und faul, und ihm fielen daher die Arbeiten des Hauses, Kochen und Backen, das Stricken der Netze zum eigenen Fischfang und zum Verkaufe, auch ein großer Teil der Bestellung ihres kleinen Feldes anheim.

(譯) カスパル ストルンプは身長短く (kurzer) 肥満せる (dicker) 男で (ein.....Mensch) 顔は (mit einem.....=gezicht) 廣くフックリして (breiten) 脂肪ぎつて (fetten) 満月の如く (Vollmondsgezicht) 眼は人のよさそうに笑を含んで居る (gutmütig lachenden Augen) 而して其眼は [世の] 憂き苦勞

を未だ嘗て知らぬ様うに見えた (denen Gram und Sorge fremd zu sein schienen)。此 カスバル ストルンブ (er) は肥満せるのみならず、亦 (nicht nur fett, sondern auch) 眠むがりで (schläfrig) 怠惰者 (faul) でした、夫れだから (unddaher) 家内の仕事 (die Arbeiten des Hauses) [ものを] 煮たり (Kochen) パンを焼いたり (Baden) [すること] 及び 自分達の漁に用ひたり (zum eigenen Fischfang) [他人に] 賣る (und zum Verkaufe) 網を編むこと (das Stricken der Netze) 又た 兩人の有せる小さき畑の (ihres kleinen Feldes) 耕作の (der Bestellung) 大部分も (ein großer Teil) 彼の 役でした (fielen ihm.....anheim)。

(註三) Augen, denen Gram und Sorge fremd zu sein schienen を直譯すれば「眼、それには憂きと苦勞とが知られずに (fremd) あるべく (zu sein) 見えた (schienen)」。—— Jemandem etwas anheimfallen 「ある人にあるものが依託せられる」茲では ihm fielen daher die Arbeiten.....anheim 「彼れにそれ故に家内の仕事.....が任がされた」。—— nicht nur....., sondern auch は「.....のみならず又.....も」といふ接續詞。

Ganz das Gegenteil war sein Gefährte; lang und hager, mit kühner Habichtsnase und scharfen Augen, war er als der tätigste und

glücklichste Fischer, der unternemendste Kletterer nach Vögeln und Daunen, der fleißigste Feldarbeiter auf den Inseln, und dabei als der geldgierigste Händler auf dem Markte zu Kirchwall bekannt;

(譯) カスバルの對手 (Gefährte 連) は 全く之と反對 でした (ganz das Gegenteil war) [身長は] 高く (lang)、[身體は] 瘠せ (hager) 鼻は鷹の如く勇敢に聳え (mit kühner Habichtsnase) 兩眼は鋭かつた (mit scharfen Augen); 彼は此[邊]の島の内では (auf den Inseln) 最も有爲にして (der tätigste) 上手な (glücklichste) 漁師 (Fischer)、禽鳥や (nach Vögeln) 鳥の幼毛を (Daunen) [とるために][岩角を] 攀ち上るものの内の最も企業心に富める人 (der unternemendste Kletterer)、農夫としては最も勤勉なる人 [として評判男] (der fleißigste Feldarbeiter) であつた、其上 (dabei) キルヒワールの市場では (auf dem Markte zu K.) 最も金銭に抜け目なき (geldgierigste) 商人 (Händler) との (als) 評判者 であつた (war.....bekannt)。

(註四) der unternemendste Kletterer nach Vögeln und Daunen は直譯すれば「禽鳥や鳥の幼毛の方への (nach) 最も企業心に富める (unternemendste) 攀ち上り手 (der..... Kletterer) [であつた]。

aber da seine Waren gut und sein Wandel frei von Betrug war, so handelte jeder gern mit ihm, und Wilm Falke (so nannten ihn seine Landsleute) und Kaspar Strumpf, mit welchem ersterer trotz seiner Habsucht gern seinen schwer errungenen Gewinn teilte, hatten nicht nur eine gute Nahrung, sondern waren auch auf gutem Wege, einen gewissen Grad von Wohlhabenheit zu erlangen.

(譯) 併し (aber) 彼の品物は良く (seine Waren gut) 彼の行ひに偽りが無かつたから (da.....sein Wandel frei von Betrug war) 皆好んで (jeder gern) 彼と取引した (.....handelte mit ihm)、而して ウィルム フアルケ (恣の如くに [so] 郷人は [seine Landsleute] 彼を呼んで居た [.....nannten ihn]) と カスパル ストルンプとは フアルケが (Ersterer) 吝嗇なるにも關らず (trotz seiner Habsucht) 自分の骨を折つて得たる利益を (seinen schwer errungenen Gewinn) カスパルと (mit welchem) 喜んで分け (.....gern.....teilte)、充分喰べるものがあつたのみならず (.....hätten nicht nur eine gute Nahrung, sondern.....auch) 多少の (einen gewissen Grad von) 餘裕をも (Wohlhabenheit) 望

んでは得可き (zu erlangen) 幸福なる境遇にあつた (.....waren auf gutem Wege)。

(註五) da.....sein Wandel frei von Betrug war は直譯すれば「彼れ之行ひは偽りから自由であつた」で偽りの無いと云ふこと尙ほ例を擧ぐれば「君の作文には誤がない」は „Ihr Aufsatz ist frei von Fehlern. — ersterer は前者 (後者は letzterer と云ふ)、文章中にて二個の人名が出で來た場合其の次の文章に於て其の名をくり返へず代りに往々始めの名を指して ersterer 後の名を指して letzterer と云ふことがある。

Aber Wohlhabenheit allein war es nicht, was Falke's habfüchtigem Gemüte zusagte; er wollte reich, sehr reich werden, und da er bald einsehen lernte, daß auf dem gewöhnlichen Wege des Fleißes das Reichwerden nicht sehr schnell vor sich ging, so verfiel er zuletzt auf den Gedanken, er müßte seinen Reichtum durch irgend einen außerordentlichen Glückszufall erlangen,

(譯) 併し フアルケの飽くことを知らぬ心に (habfüchtigem Gemüte) 満足を與へたものは (was zusagte) 生活に事を缺かぬ (Wohlhabenheit) [と云ふこと] ばかりでは

(allein) なかつた (.....war es nicht)、彼は富み (reich) [而も] 非常に金持 (sehr reich) にならんと思ふた (er wollte..... werden) 而して間もなく (bald) 普通に稼いで居ては (auf dem gewöhnlichen Wege des Fleißes) さう急に (sehr schnell) 金持になれぬ (das Reichwerden nicht vor sich ging) と曰ふことを (daß) 悟る様うになつたから (da er.....einssehen lernte) 遂に (zuleht) 何か (irgend) 非常なる僥倖によりて (durch einen außerordentlichen Glückszufall) 富を得る [より外ないと] (müßte seinen Reichtum erlangen) 考へ付くやうになつた (verfiel er auf den Gedanken)。

(註六) Aber Wohlhabenheit allein war es nicht, was Falke.....zusagte の直譯は「併し裕福のみが フアルケ の.....に満足を與へた處の (was) もの (es) ではなかつた (war nicht)」で es は後の was を受ける語。— Auf dem gewöhnlichen Wege des Fleißes の直譯: 「勉強の通常の方法の上では」 — vor sich gehen 「自分の前に進む」で意味は「進行する」「はか取る」 — auf den Gedanken verfallen 「斯々の考へに成る」 — er müßte 「彼が斯々せねばならぬ」とで er muß 云々の文を間接に言ひたるなり。

und da nun dieser Gedanke einmal von seinem heftig wallenden Geiste Besitz genommen, fand er für nichts anderes Raum darin, und er

sing an mit Kaspar Strumpf davon, als von einer gewissen Sache zu reden.

(譯) 而して今や (nun) 此考へが (dieser Gedanke) 兎に角 (einmal) 彼の烈しく動搖せる精神を占領したから (von seinem heftig wallenden Geiste Besitz genommen) 彼は亦他を考ふる餘裕なく (fand er für nichts anderes Raum darin) 此考へに付て (davon) 確實なる事として (als von einer gewissen Sache) カスパル ストルンプと (mit) 語り始めた。

(註七) Besitz von etwas nehmen=あるものを占領する。.....fand er für nichts anders Raum darin を直譯すれば「彼はその中に (darin=in dem Geiste) 何も外のもののため (für nichts anders) 場所を (Raum) 見出さなかつた」で「彼れの精神は此の考へに占領されたから何にも他のものを考へる餘地(場所)が精神の中に (darin) なかつた」の意。

Dieser, dem alles, was Falke sagte, für Evangelium galt, erzählte es seinen Nachbarn, und bald verbreitete sich das Gerücht, Wilm Falke hätte sich entweder wirklich dem Bösen für Gold verschrieben oder doch ein Anerbieten dazu von dem Fürsten der Unterwelt bekommen.

(譯) 此のストルンプには (dem) フアルケの曰ふことが皆 (alles, was Falke sagte) 福音であるのであるから (für Evangelium galt) 彼は (dieser) 其の話を (es) 隣人に話して聞かせた (erzählte.....seinen Nachbarn) 之れが爲に (und) 忽ち (bald) フアルケが實際 (wirklich) 黄金の爲に (für Gold) 悪魔に心を賣つ (.....hätte sich.....dem Bösen.....verschrieben) たとか或は (entweder....., oder) すくなくとも (doch) 冥界の王から (von dem Fürsten der Unterwelt) 心を買うと曰ふ (dazu) 申込を受けたんだ (ein Anerbieten bekommen) とか曰ふ悪い噂 (das Gerücht) が擴がつた (sich verbreitete)。

(註八) dieser, dem alles, was Falke....., für.....galt, erzählte..... の文章では dieser erzählte が主文章である全體を直譯すれば「此の者 dieser, そのものに dem 凡て alles, 何でも was フアルケが.....た處の (was) [凡てが] 福音の價があつた (für Evangelium galt) 處の此の者が (dieser) 物語つた (.....erzählte)。—— Wilm Falke hätte.....は ウイルム フアルケの言を間接に引用したものである (自修後編 2 57-59)。—— Fürst der Unterwelt 冥界の王とは基督教で所謂悪魔である。—— Anerbieten = 提供、申し込み。

Anfangs zwar verlachte Falke diese Gerüchte, aber allmählich gefiel er sich in dem Gedanken, daß irgend ein Geist ihm einmal

einen Schatz verraten könne, und er widersprach nicht länger, wenn ihn seine Landsleute damit aufzogen.

(譯) フアルケは始めは成程 (anfangs zwar) 此等の噂を (diese Gerüchte) 輕蔑して居た (verlachte) けれど (aber) 次第次第に (allmählich) 何かある精靈が (irgend ein Geist) 何かの折に (einmal) 自分に (ihm) 寶[のあり處]を明かして (einen Schatz verraten) 呉れることがあるかも知れぬと (könne.....) 曰ふ如うな考を起して喜ぶ如うになつた (.....gefiel er sich in dem Gedanken, daß.....)、夫れだから (und) 郷人が (seine Landsleute) 此事で (damit 即ち悪魔と交通せりとの評判なり) 擲掬かつても (wenn.....ihu.....aufzogen) 最早抵抗しない如うになつた (nicht länger widersprach)。

(註九) einen mit etwas aufziehen 人を何々だとして擲掬する、茲に尙ほ他の一例を擧ぐれば: Er zieht mich mit dem Mädchen auf (彼は私が此娘と怪い仲だと擲掬する)の如し。—— zwar があると其の次の文章には必ず aber がある zwar aber は aber の強きもの時としては「成程かくかくであるが然し」忤どと云ふ意味になる。

Er trieb zwar noch immer sein Geschäft fort, aber mit weniger Eifer, und verlor oft einen

großen Teil der Zeit, die er sonst mit Fischfang oder anderen nützlichen Arbeiten zuzubringen pflegte, in zwecklosem Suchen irgend eines Abenteurers, wodurch er plötzlich reich werden sollte.

(譯) 彼は相變らず (noch immer) 自分の職業を (sein Geschäft) 續けて往つた (trieb.....fort) けれども (zwar.....aber) に就いては上の註を見よ) 熱心は亦以前の如くならず (mit weniger Eifer) 而して恁る事を考へ出さない時は (sonst) 漁獲 (Fischfang) 又は他の有用なる仕事 (anderen nützlichen Arbeiten) で (mit) 送るを常としてゐた (die.....zuzubringen pflegte) 時間の大部分を (einen großen Teil der Zeit) 急に金満家になる可き (plötzlich reich werden sollte) 何かある冒険を目當もなく探す事の爲めに (im zwecklosen Suchen irgend eines Abenteurers) 往々失ふた (.....verlor oft)。

(註一〇) mit weniger Eifer 直譯: より僅かの熱心を以て。—— sonst=他の時は。—— die Zeit zubringen 時を過ごす、送る、暮らす。——Abenteurers, wodurch er plötzlich reich werden sollte 直譯: 冒険、それに依つて (wodurch) 彼れが忽にして金持ちに成るべき處の (wodurch に返へる)。

Nach wollte es sein Unglück, daß, als er eines

Tages am einsamen Ufer stand und in unbestimmter Hoffnung auf das bewegte Meer hinausblickte, als solle ihm von dorther sein großes Glück kommen, eine große Welle unter einer Menge losgerissenen Mooses und Gesteins eine gelbe Kugel — eine Kugel von Gold zu seinen Füßen rollte.

(譯) 或る日 (eines Tages) 淋しき海岸に停立し (am einsamen Ufer stand) 果敢なき希望を抱きて (in unbestimmter Hoffnung) [遙か]彼方より (von dorther) 自分の大なる幸福が (sein großes Glück) 來でもする如くに (als solle ihm.....kommen) 動搖せる海の面を見渡して居た (auf das bewegte Meer hinausblickte) 時に (als) 大きな波が (eine große Welle) さらばれたる蘚苔や砂石の (losgerissenen Mooses und Gesteins) 群の間より (unter einer Menge) 黄金色の球 (eine gelbe Kugel) — 黄金の球を (eine Kugel von Gold) 彼の足下に轉がし出したのが (zu seinen Füßen rollte) 亦更に彼の不幸となつた (auch wollte es sein Unglück)。

(註一一) Auch wollte es sein Unglück, daß eine große Welle.....zu seinen Füßen rollte までが一つの文章で之れを直譯すれば: 「大きな波が.....を彼れの足下に轉がし出した (rollte) 事を (daß)、亦た (auch) 彼れの不幸が欲した。」

— in unbestimmter Hoffnung 不確定なる希望に於て。—
als solle..... は als ob.....solle と同じ (自修後、§ 92)。

Wilm stand wie bezaubert; so waren denn seine Hoffnungen nicht leere Träume gewesen, das Meer hatte ihm Gold, schönes, reines Gold geschenkt, wahrscheinlich die Überreste einer schweren Barre, welche die Wellen auf dem Meeresgrund bis zur Größe einer Flintenkugel abgerieben.

(譯) ウキルムは魔術にかかった如うになつて (wie bezaubert) 停ずんで居た (stand)、斯く成り來れば (so..... denn) 彼の希望たるや (seine Hoffnungen) [遂に]空しき夢ではなかつた (nicht leere Träume gewesen)、大洋 (das Meer) は自分に (ihm) 黄金、[則ち]華麗にして純粹なる黄金を送つた (.....hatte schönes, reines Gold geschenkt)、察する所 (wahrscheinlich) (此金塊は)重き金貨の (einer schweren Barre) 名残りにして (die Überreste) それを (welche) 幾多の波濤が (die Wellen) 海底に於て (auf dem Meeresgrund) 銃丸程の大きさに成る迄 (bis zur Größe einer Flintenkugel) 摩り減らしたものである (abgerieben)。

Und es stand klar vor seiner Seele, daß einmal

irgendwo an dieser Küste ein reichbeladenes Schiff gescheitert sein muß, und daß er dazu ersehen sei, die im Schoße des Meeres begrabenen Schätze zu heben.

(譯) [かくて]何時か (einmal) 此海岸の何處かで (irgendwo an dieser Küste) [貴重品を]満載せし船が (ein reichbeladenes Schiff) 難破したものに相違がない (gescheitert sein muß)、而して自分は (und er) 此海底に (im Schoß des Meeres) 埋れて居る寶を浮せる (begrabene Schätze zu heben) 役に (dazu) 選ばれたものだ (ersehen sei) と曰ふことが (daß) 自分の心に明かになつた (es stand klar vor seiner Seele)。

(註一)es stand klar vor seiner Seele は「彼れの心の前に明らかに立つた」が直譯「何處そこで難破する」のでは、an 茲では an dieser Küste。— gescheitert sein muß の直譯は「難破してあらねばならぬ」であるが邦語の「.....したに相違なし」に當る。— dazu ersehen sei,.....zu heben は「何々を浮かせることの其の爲めに (dazu) 選ばれた」で「.....を浮かせる役に選ばれた」と譯して當る。— Im Schoß des Meeres は海の膝で「海底」のこと、Im Schoß der Erde は地下のこと。

Dies ward von nun an sein einziges Streben; seinen Fund sorgfältig, selbst vor seinem Freunde verbergend, damit nicht auch Andere seiner Entdeckung auf die Spur kämen, verläumte er alles Andere und brachte Tage und Nächte an dieser Küste zu, wo er nicht sein Netz nach Fischen, sondern eine eigens dazu verfertigte Schaufel — nach Gold auswarf.

(譯) 此の海底の寶をとり上げることが (dies) 此時から (von nun an) 自分の唯一の目的となつた (ward.....sein einziges Streben) 自分の拾つたものを (seinen Fund) 小心翼々自分の一人の朋友にさへ (sorgfältig, selbst vor seinem Freunde) 隠して (verbergend) 他人も亦 (auch andere) 自分の発見を嗅き出すことのなきやうにし (.....nicht.....seiner Entdeckung auf die Spur kämen) 凡て他の事は等閑に附して (verläumte er all's Andere und) 晝夜此濱に日を送り (.....brachte Tage und Nächte an dieser Küste zu) 濱にては (wo) 網を投げて魚を捕ふに非ずして (nicht sein Netz nach Fischen, sondern.....) わざわざ (eigens) 之が爲めに作つた 「コマ漈」 (eine.....dazu verfertigte Schaufel) を投げては — 黄金を漁つて居た (nach Gold auswarf)。

(註一三) 前の文章全體を受けて「此の事が」と云ふ時

には dies, dieses, Das 等を用ふ。—— Streben = 努力、damit は「.....する爲めに」「.....する様に」。—— einer Sache auf die Spur kommen 或るものに足跡の上に来る (茲では「彼の発見の足跡の上に来る」とは「あるものを嗅き出す」。——sein Netz nach Fischen の次に auswarf が略されたのである。

Aber er fand nichts, als Armut; denn er selbst verdiente nichts mehr, und Kaspar's schläfrige Bemühungen reichten nicht hin, sie beide zu ernähren. Im Suchen größerer Schätze verschwand nicht nur das gefundene Gold, sondern allmählich auch das ganze Eigentum der Junggesellen.

(譯) 併し彼は貧賤より他には何も (nichts als Armut) 発見しなかつた、と曰ふのは (denn) 彼は最う些とも [金を] 儲けず (er verdiente nichts mehr)、さりとてカスパーが懸命に働いたとて遲鈍なれば (.....schläfrige Bemühungen) 彼等兩人を養ふに (sie beide zu ernähren) 足りないからである (reichten nicht hin) 拾つた黄金は (das gefundene Gold) 更に大なる寶を (größerer Schätze) 探がして居る内に (im Suchen) 無くなつたのみならず (verschwand nicht nur..... sondern.....auch) 兩寡夫の (der Junggesellen) 財産の全部

も (das ganze Eigentum) だんだんと (allmählich) 消えて無くなつた (前の verschwand)。

(註一四) Kaspar's schläfrige Bemühungen の直譯は「カスパルの眠むたい努力」なれど schläfrig には懶惰、遲鈍の意味ある故に茲では「カスパルは懸命に努力はすれど遲鈍なれば」と云ふことになる。

Aber so wie Strumpf früher stillschweigend von Falke den besten Teil seiner Nahrung hatte erwerben lassen, so ertrug er auch jetzt schweigend und ohne Murren, daß die zwecklose Tätigkeit desselben sie ihm jetzt entzog; und gerade dieses sanftmütige Dulden seines Freundes war es, was jenen nur noch stärker anspornte, sein rastloses Suchen nach Reichtum fortzusetzen.

(譯) 併し ストルンプ は以前 黙々として (früher stillschweigend) フアルケに (von) 自分の生活資料の大部分を (den besten Teil seiner Nahrung) 儲けさせて置いたが如く (so wie.....hatte erwerben lassen) 此場合になつても亦 (auch jetzt) 黙爾として不平を鳴らさず (schweigend und ohne Murren) フアルケの (desselben) 的無き働作が (die zweck-

lose Tätigkeit) 今度は (jetzt) 自分より (ihm) 食を取り去るのを (entzog) 忍んで居た (ertrug) (自分の食をフアルケに分けるを曰ふ也 則ちフアルケを養つてゐることなり) 而して 當さに (gerade) 這個の朋友のやさしき耐忍が (dieses sanftmütige Dulden seines Freundes) フアルケを (jenen) [して] [心を翫がへさせずして反つて] 更に強く (nur noch stärker) 彼の間斷なき (sein rastloses) 富の探求を (Suchen nach Reichtum) 續ける如うに (fortzusetzen) 刺撃したものである (anspornte)。

(註一五) nur noch stärker の nur は [フアルケが友の親情を見て心を翫がへさず] 反つて益々 此情に報ゆる所あらんとて益々深間へ陥入るを曰ふなり、即ち nur は「反つて益々」 gerade dieses sanftmütige..... の gerade は [外のものではない] 當さに 這個の朋友のやさしき耐忍が.....。—— nur と云ひ gerade と云ひ其文章を明瞭に現せるを見る、學者須らく憚る文字を輕々に看過す勿れ。

Was ihn aber noch tätiger machte, war, daß, so oft er sich zur Ruhe niederlegte und seine Augen sich zum Schlummer schlossen, etwas ihm ein Wort ins Ohr raunte, das er zwar sehr deutlich zu vernehmen glaubte und das

ihm jedes Mal dasselbe schien, das er aber niemals behalten konnte.

(譯) されど (aber) 彼をして (ihn) 更に (noch) 活動せしめた (tätiger machte) ものは (was) 彼が身を横へて休息し (sich zur Ruhe niederlegte) 眼を閉ちて微睡(マドロ)まんとする (seine Augen sich zum Schlummer schlossen) 度毎に (so oft) 何だか知らぬ (etwas) 自分の耳へ (ihm.....ins Ohr) 一つの言葉を囁く (ein Wort raunte) こと (daß) である (war) 其言葉たるや (das) 自分は (er) 甚だ明かに (sehr deutlich) 聞いた如うに思ひ (zu vernehmen glaubte) 又何度聞いて見ても (jed:smal) 同一の[言葉] (dasselbe) であるらしい (schien) が (aber) 一度でも (niemals) 其が (das) 頭に残つた (behalten konnte) ことがない。

(註一六) 此文章の主要部分は was ihn noch tätiger machte, war, daß,, etwas ihm ein Wort ins Ohr raunte 此れだけで他は皆之れに附隨して其説明をして居るのである、この直譯は「何でも (was) 彼をして (ihn) 尙一層活動せしめた (noch tätiger machte) 所のものは (was) 斯々のこと (daß) である (war) と云つて即ち etwas 以下は daß の説明である。—— sich zur Ruhe niederlegen の直譯は「休息に迄身を横へる」と云ふので zu なる前置詞は目的を示すのだから「休息せんとて身を横へた」と譯すべきである、zur

は zu der の約なること勿論である。—— seine Augen sich zum Schlummer schlossen (彼の眼が自からを微睡に迄閉ちる) 茲の zu も上と同じ用法で結果を示すから即ち微睡する爲め (zum Schlummer) 閉ちた (sich schlossen) と譯す seine Augen が主客となつて居るが之れは擬人法で歐文の特色とも云ふべきものである邦文では主客を變じて彼が閉目してとしてよろしい。—— im. ein Wort ins Ohr raunen は誰某に一言を囁く im. ins Ohr は in sein Ohr と同じである。—— behalten は記憶するを云ふ、例 Behalten Sie noch seinen Namen? (君は彼の名を記憶して居ますか)。

Zwar wußte er nicht, was dieser Umstand, so sonderbar er auch war, mit seinem jetzigen Streben zu tun haben könnte; aber auf ein Gemüt, wie das Falke's, mußte alles wirken, und auch dieses geheimnisvolle Flüstern half ihm in dem Glauben bestärken, daß ihm ein großes Glück bestimmt sei, das er nur in einem Goldhaufen zu finden hoffte.

(譯) 此事情が (dieser Umstand) 不思議ではあるが (so sonderbar er auch war) 自分の現今の仕事と (mit seinem jetzigen Streben) 甚麼關係があり得るか (was.....zu tun

haben könne) 知らなかつた (wußte er nicht) が (zwar....., aber) [凡そ] フアルケの (das Falckes) 如うな (wie) 性情には (auf ein Gemüt) 凡ての事が (alles) 作用を及ぼす (wirken) 如うになつてゐる (mußte) (即ち凡てを自分の都合良きやうに解釋し、箸から落つる點滴にも意味を附するが如きを云ふ也) 夫れだから (und) 此氣味悪き囁きも亦た (auch dieses geheimnisvolle Flüßtern) 自分には (ihm) 大なる幸福が (ein großes Glück) 定まつて居る (bestimmt sei) との (daß) 信仰を強むるの (ihn in dem Glauben bestärken) 助けとなつた (half) [而して] 彼は此大なる幸福を (das) 只黄金堆裏にのみ (nur in einem Goldhaufen) 発見せんことを (zu finden) 希望して居た (hoffte) のである。

(註一七) zwar....., aber (doch) は wohl....., aber (doch) と同じく「成程.....ではあるが併し.....」と云ふ意なり。— so sonderbar er (der Umstand) auch war は「縱令如何に此事情が不思議であつたにしろ」の意、(四の三) so.....auch..... は「縱令.....に.....せよ」の熟語也。— mit etwas zu tun haben は「何々と關係ある」の意。— auf etwas (od. in.) wirken は或物又は人に影響を及ぼすなり。— half ihn in dem Glauben bestärken に於て half は直接に ihn に係れるものに非ず ihn in dem Glauben bestärken (彼を其信仰に於て強むる) の全體に係れり、(注意 helfen は三格支配なり) 何々するの助けとなるといふ場合に於て helfen を用

ふれば Infinitiv を用ゐ helfen に直ちに其の Infinitiv を附してよし、schreiben helfen (書方の手傳する)、(文法自 § 185 の 4; 叢四の 4, 10, 11, 24, 49 等を見よ)。

Eines Tages überraschte ihn ein Sturm am Ufer, wo er die Goldfugel gefunden hatte, und die Heftigkeit desselben trieb ihn an, in einer nahen Höhle Zuflucht zu suchen. Diese Höhle, welche die Einwohner die Höhle von Steenfohl nennen, besteht aus einem langen, unterirdischen Gange, welcher sich mit zwei Mündungen gegen das Meer öffnet und den Wellen einen freien Durchgang läßt, die sich beständig mit lautem Brüllen schäumend durch denselben hinarbeiten.

(譯) ある日 (eines Tages) 彼が黄金球を発見せし (wo er die Goldfugel gefunden hatte) 濱に (am Ufer) 暴風雨起つて彼を驚かした (überraschte ihn ein Sturm)、而して (und) 其暴風雨の (desselben) 激烈なる (die Heftigkeit) 彼を驅つて (trieb ihn an) 近傍の窟へ (in einer nahen Höhle) 避難せねばならぬ如うにした (Zuflucht zu suchen) 此窟たるや (diese Höhle) 住民は (die Einwohner) 之を (welche) 稱

して (nennen) ステーンフォールの窟 (die Höhle von Steenfoll) と曰ひ 長き墜道にして (besteht aus einem langen, unterirdischen Gange) 此墜道は (welcher) 二個の入口を以て (mit zwei Mündungen) 海と通じ (sich.....gegen das Meer öffnet) 自由に波浪の通過を許して居る (den Wellen einen freien Durchgang läßt) 而して此處を通過する波は (die) 怒號し (mit lautem Brüllen) 白き泡を立てながら (schäumend) 間斷なく (beständig) 此處を通り抜けて居る (sich beständig durch denselben hinarbeiten)。

(註一八) eines Tages は成語で「或日」といふ副詞句である。—— überraschen に就ては (叢四の廿八、五四) を見よ。—— am Ufer, wo..... の wo は場所的時間的關係副詞となることある今茲の例について見ても Ufer 其物の説明をするなら須く welches 若くは das といふ關係代名詞を用ふるのであるが茲では其場所に於ける或出來事が主となつて夫れについて述べるのだから wo は場所的關係副詞である。—— trieb ihn an,.....Zusucht zu suchen 避難するやうに (Zusucht zu suchen) 彼を驅つた (trieb ihn an) で意味は「彼を驅つて避難せしめた」と云ふ事になる。—— besteht aus は「.....より成る」。—— sich gegen das Meer öffnet 「海洋の方に開いて居る」。—— im. (od. einer Sache) einen freien Durchgang lassen は誰某又は或物に自由に通行を許す。

Diese Höhle war nur an einer Stelle zugänglich, und zwar durch eine Spalte von oben her, welche aber selten von jemand anderem, als mutwilligen Knaben, betreten ward, indem zu den eigenen Gefahren des Ortes sich noch der Ruf eines Geisterpuffs gefellte.

(譯) 此窟へ這入る途は只一箇所のみ (diese Höhle war nur an einer Stelle zugänglich) 更に詳しく曰へば (und zwar) 一つの缺裂を通つて (durch eine Spalte) 上から (von oben her) [下りるのである] 併し (aber) 此缺裂たるや (welche) 本來場所の危険なるが上に (zu den eigenen Gefahren des Ortes) 尙ほ更に (noch) 妖魔(オバケ)が出る (sich.....der Ruf eines Geisterpuffs gefellte) から (indem) 腕白な童兒より (als mutwilligen Knaben) 外の人 (von jemand anderem) 足を踏み入れること (betreten ward) 至つて稀な (selten) [處である]。

(註一九) An einer Stelle zugänglich sein は einen Zugang haben (通路を有す) と同じである。—— und zwar は獨逸語にては屢々用ひらるゝ言ひ方である尙一つ例を示す、Er wohnt in Tokyo, und zwar in Kanda 「彼は東京に、[其の東京も實に詳しく言へば] 神田に住む」。—— von oben her を完全にすれば von oben (her) herunterzukommen

である即ち *Diese Höhle war* (durch eine Spalte) von oben (her) herunterzukommen (此窟は一つの缺裂を通つて上から下りる様になつて居る) とすれば解り易い。— von jm. betreten werden は誰某に依りて足跡を止めらる即ち誰某が來り見るを云ふ。anderen, als 「……より以外の他の者」。— indem は茲では原因を表はす接續詞として用ゐられて居る。— Geist には精神又は妖魔てふ意味あり。— sich zu etwas gesellen = 「何々に伴ふ」「加はるゝ」。

Mit Mühe ließ Wilu sich in denselben hinab und nahm ungefähr zwölf Fuß tief von der Oberfläche auf einem vorspringenden Stein und unter einem überhängenden Felsenstück Platz, wo er mit den brausenden Wellen unter seinen Füßen und dem wütenden Sturm über seinem Haupte in seinen gewöhnlichen Gedanken zug verfiel,

(譯) ウキルムは辛ふじて (mit Mühe) 此窟へ (in denselben) 身を降ろし (ließ sich……hinab) 表面より (von der Oberfläche) 約十二呎 [も降りたらんと思ふ頃] (ungefähr zwölf Fuß tief) 一個の突出せる石の上 (auf einem vorspringenden Stein) 掩はれかゝれる岩の下に (unter einem

überhängenden Felsenstück) 座を占めた (nahm……Platz) 此處で (wo) 彼は (er) 足下には (unter seinen Füßen) 波浪澎湃たり (mit den brausenden Wellen) 頭上には (über seinem Haupte) 暴風雨荒れ狂ふ (mit dem wütenden Sturm) 間に在りて (mit) 例の思案の緒(イト)を [辿つて] (in seinen gewöhnlichen Gedanken zug) 餘念なかつた (verfiel)。

(註二〇) mit Mühe は成語で「辛ふじて」と譯す、mit Mühe und Not (辛ふじて) など云ふ言方もある。— sich hinablassen は降下する。— zwölf Fuß tief, von der Oberfläche 表面より十二呎の深さとは即ち表面より十二呎も下りた比である。— nahm……Platz (Platz nehmen) は座を取つた即ち座を占めた、(四の九十) 例 Nehmen Sie, bitte, Platz (何卒御掛けなさい)。— mit den brausenden Wellen 波浪澎湃たり、brausenden は brausen (激怒する) なる動詞からなつたのである。— Gedanken zug の Zug は ziehen (曳く) より來る曳くには長き線の意ありこれより線、絲の意となる、Gedanken zug は即ち思緒である。

nämlich von dem gescheiterten Schiff, und was für ein Schiff es wohl gewesen sein möchte; denn trotz allen seinen Erkundigungen hatte er selbst von den ältesten Einwohnern von

feinem an dieser Küste gescheiterten Fahrzeuge
Nachricht erhalten können.

(譯) 即ち (nämlich) 難破した船の事に就いて「であつて」
(von dem gescheiterten Schiff) 又 (und) 其船が (es) 果して
(wohl) 甚麽な船で (was für ein Schiff) あつたらうか (ge-
wesen sein möchte) [と云ふことを考へて居るのである]、こ
れは (denn) 自分は百方尋ねて見ても (trotz allen seinen
Erkundigungen) 古老の口からさへも (selbst von den ältesten
Einwohnern) 此岸で (an dieser Küste) 難破した (gescheiter-
ten) 船に就いては些かの情報をも得ることが出来なかつた
(hatte er von keinem.....Fahrzeuge Nachricht erhalten
können) [からである]。

(註二一) was für ein Schiff es gewesen sein möchte, の
was für ein と云ふのは三語で「如何なる種類の」と云ふ疑
問形容詞句をなして居る、此文は又 was es für ein Schiff
gewesen sein möchte と書變へる事も出来る、(文法自修、§
84, III, 4)。— denn は weil, da, indem などと同じく理
由を表はす接續詞として用ひらるゝが此等と異なる處は
denn で包んで居る文章が副文でないことである従つて語の
配置も副文の如く動詞が後に來る事はない、(自修後 § 65)。
— trotz は troffen (逆ふ) と云ふ三格支配の動詞の影響を
蒙つて三格を支配することがあるけれども元來 Trotz (抵

抗) から來たので即ち名詞から來たのであるから二格支配
なるべきである、「何々なるに拘らず」と譯す。— Fahrzeug
は乗用具即ち茲では船のこと。— von etwas Nachricht
erhalten は或事に就て報道を得ること。— scheitern は
「難破する」何處其處で難破するの「で」は前置詞 an を用
ひ茲では an dieser Küste。

Wie lange er so gefessen, wußte er selbst
nicht; als er aber endlich aus seinen Träu-
mereien erwachte, entdeckte er, daß der Sturm
vorüber war; und er wollte eben wieder
emporsteigen, als eine Stimme sich aus der
Tiefe vernehmen ließ und das Wort Garmil-
han ganz deutlich in sein Ohr drang.

(譯) 斯の如くにして (so) 何時間 (wie lange) 坐つて居
た (gefessen) かに (wie) 自分自らも (selbst) 知らなうだ
(wußte er nicht)、併し遂に (endlich) 夢想より (aus seinen
Träumereien) 醒めた (erwachte) 時には (als) 暴風雨 (der
Sturm) の過ぎ去つた (vorüber war) こと (daß) に氣が
附いた (entdeckte er)、而して自分が恰度 (eben) 再び (wieder)
上へ昇らん (emporsteigen) とした (er wollte) 時に (als)
底の方に聲あり (eine Stimme sich aus der Tiefe vernehmen

ließ) カルミルハンといふ言葉が (das Wort) 全然明瞭に (ganz deutlich) 自分の耳へ (in sein Ohr) 響き渡つた (drang)。

(註二二) wie lange は漠然と時間の長さを示す、確定的に述ぶる時は wie viel Stunden と云ふ。—— 夢から醒むる aus dem Traum erwachen、aus langem Schlaf erwachen は長夜の寐より醒むるを云ふ。—— als er aber endlich aus seinen Träumereien erwachte, entdeckte er, daß der Sturm vorüber war は直譯すれば「彼が夢想から醒めた時彼は暴風雨が過ぎ去つてあつたことを発見した」となるのであるが即ち夢想から醒めた時は既に暴風雨は収まつて居つたとの意である。—— eine Stimme sich vernehmen lassen は一聲が自分を聞かした即ち一聲が聞えたの意。—— in sein Ohr drang は ihm ins Ohr drang と同義で「耳へ響く」。

Erschrocken fuhr er in die Höhe und blickte in den leeren Abgrund hinab. „Großer Gott!“ schrie er, „das ist das Wort, das mich in meinem Schlafe verfolgt! Was, ums Himmels willen, mag es bedeuten?“ — „Carmilhan!“ seufzte es noch einmal aus der Höhle

herauf, als er schon mit einem Fuße die Spalte verlassen hatte, und er floh wie ein geschlechtes Reh seiner Hütte zu.

(譯) 吃驚して (erschrocken) 彼は飛び上り (fuhr er in die Höhe) 空虚なる深底を (in den leeren Abgrund) 瞰下ろした (blickte.....hinab) 「オヤオヤ」 (Großer Gott) と彼は叫び (schrie er) 「これこそ (das) 睡眠中 (in meinem Schlafe) 私に付き纏うて離れなかつた (mich verfolgt) 例の言葉 (das Wort) である (ist) 一體全體 (um Himmels willen) 此言葉の意義は何であらう (was mag es bedeuten?)」と云つた、彼が片足の (mit einem Fuße) 既に (schon) 此缺裂を (die Spalte) 去つた (verlassen hatte) 時 (als) (即ち出づること一步) 再び (noch einmal) 窟の内から (aus der Höhle) 唸るが如く「カルミルハン」と云ふ言葉が上つて來た („Carmilhan“ seufzte es herauf) 而して自分は驚かされた鹿の如に (wie ein geschlechtes Reh) 自分の小屋を指して (seiner Hütte) 逃げた (floh er zu)。

(註二三) erschrocken は erschrecken (吃驚する) と云ふ動詞の過去分詞であるが茲では副詞として用ゐられ fuhr er in die Höhe を形容して居る、又斯の如き例は geritten kam er (馬に跨つて彼はやつて來た) でも見ることが出来る。—— hinabblicken は瞰下(ニオロ)すで其反對は hinaufblicken

である。—— uns Himmels willen も großer Gott (又は單に Gott) も共に驚愕悲嘆の際に發する間投詞である。—— scufzte es herauf は唸るが如き聲が下から聞えて來た、而して誰が唸るか其の主語なき爲め es を用ひたる也。

Wilm war indessen keine Memme; die Sache war ihm nur unerwartet gekommen, und sein Geldgeiz war auch überdies zu mächtig in ihm, als daß ihn irgend ein Anschein von Gefahr hätte abschrecken können, auf seinem gefährvollen Pfade fortzuwandern.

(譯) かく逃げは逃げたが (indessen) ウキルムは決して 女々しい男では無い (keine Memme) 只 (nur) 事が (die Sache) 自分にとつて (ihm) 不意に (unerwartet) 起つた (war gekommen) からである加之 (und.....überdies) 彼の 金錢に對する盲執は (sein Gelogeiz) 非常に強く (war zu mächtig in ihm) 依然從來の危険極まる行路を辿りて (auf seinem gefährvollen Pfade fortzuwandern) 危険の徴候 (irgend ein Anschein von Gefahr) あるも顧みなかつた (als daß ihn.....hätte abschrecken können)。

(註二四) die Sache は事柄、事件である。—— ihm は茲では für ihn と同一意義である。—— in ihm は彼の心中で

ある。—— sein Geldgeiz war zu mächtig, als daß ihn irgend ein Anschein von Gefahr hätte abschrecken können, auf seinem gefährvollen Pfade fortzuwandern は直譯すれば「彼の金錢に對する盲執は何かある危険の徴候が (irgend ein Anschein von Gefahr) 彼を (ihn) 驚かし得る (abschrecken können) には (als daß) [從來] の危険多き途を行くべく (auf seinem gefährvollen Pfade fortzuwandern) 餘りに強かつた (war zu mächtig)」である。

Einst, als er spät in der Nacht beim Mondschein der Höhle von Steenfohl gegenüber mit seiner Schaufel nach Schätzen fischte, blieb dieselbe auf einmal an etwas hängen.

(譯) ある時 (einst) 小夜更けて (spät in der Nacht) 月明をたよりに (beim Mondschein) ステーンフォルの窟に向つて (der Höhle von Steenfohl gegenüber) 例のコマ漈を以て (mit seiner Schaufel) 寶を漁つて居た (nach Schätzen fischte) 時に (als) 此コマ漈が (dieselbe) 忽ち (auf einmal) 何か (an etwas) 引きかいつて動かなくなつた (blieb hängen)。

(註二五) spät in der Nacht (小夜更けて)、又 tief in der Nacht とも云ふ。—— beim Mondschein は月明に乗じての意、bei は際の際を表はす、例 bei Gelegenheit (機會あら

ば)、beim Regenwetter (雨天の際に)。— gegenüber は三格支配の前置詞である二箇の物体が相向き合つて在るを示す普通は名詞又は代名詞の後に置く、前に置く場合も少くない文法上孰れも正しい只口調による。— nach Schänen fischen, nach がある爲め搜索の意あり、auf einmal は成語、an etwas hängen は或物に掛かる。

Er zog aus Leibeskräften, aber die Masse blieb unbeweglich. Inzwischen erhob sich der Wind, dunkle Wolken überzogen den Himmel, heftig schaukelte das Boot und drohte umzuschlagen; aber Wilm ließ sich nicht irre machen; er zog und zog, bis der Widerstand aufhörte, und da er kein Gewicht fühlte, glaubte er, sein Seil wäre gebrochen.

(譯) 彼は全力を込めて (aus Leibeskräften) 曳いた (zog) が (aber) 此塊は (die Masse) 依然として動かない (blieb unbeweglich) 此間に (inzwischen) 風 (der Wind) 起り (erhob sich) 黒雲 (dunkle Wolken) 天を (den Himmel) 覆ひ (überzogen) 小船は (das Boot) 烈しく (heftig) 動搖し (schaukelte) 覆らんとした (drohte umzuschlagen) 併し (aber) ウキルムは 些とも騒がず (ließ sich nicht irre machen) 引きに引いた

(er zog und zog) [ので]、遂に (bis) 抵抗が (der Widerstand) 止むだ (aufhörte)、而して (und) 少しの重みをも感じなかつた (er kein Gewicht fühlte) から (da) 綱が (sein Seil) 切れたものと (wäre gebrochen) 思つた (glaubte er)。

(註二六) aus Leibeskräften は「一生懸命」「力の限りに」の意。— drohte umzuschlagen (覆らんとした)、drohen+Infinitiv は「將に何々せんとす」の意、例 es droht zu regnen (雨が降りさうだ)。— sich irre machen lassen の直譯は「自分自身を (sich) 迷は (irre machen) さしめる (lassen)」で即ち騒ぐの意、(四の九三)。— er zog und zog, bis der Widerstand aufhörte,..... は直譯「風が止んだ迄彼は曳きに曳いた」で bis は其結果となり時間上、後になるから譯文の如く「曳きに曳いたので遂に (bis) 抵抗力が止んだ」と云へば了解し易い。— sein Seil wäre gebrochen (綱が切れたものと) の wäre gebrochen は間接に言つた丈の事で事實は war と變りはない。

Aber gerade, als die Wolken sich üb.r dem Monde zusammenziehen wollten, erschien eine runde, schwarze Masse auf der Oberfläche, und es erklang das ihn verfolgende Wort Carmilhan!

(譯) 併し (aber) 雲が (die Wolken) 月を掩はんとする

(sich über dem Monde zusammenziehen wollten) 恰度其時 (gerade, als) 水面に (auf der Oberfläche) 一個の圓くして 黒き塊が (eine runde, schwarze Masse) 現はれ (erschien) 自分に五月蠅く付き纏ふ (ihn verfolgende) カルミルハンと 云ふ言葉が (das..... Wort) 響き渡つた (es erklang)。

(註二七) die Wolken sich über dem Monde zusammenziehen の直譯は「雲が月の上に凝集する (sich zusammenziehen)」で即ち月を掩ふこととなる。—— die Oberfläche は表面の意であるが 茲では海上での出来事に就て述べて居るから即ち水面の意である。—— es erklang das ihn verfolgende Wort は直譯すれば「夫れが彼れを追ひ廻す (ihn verfolgende) 言葉が響いた」であるが茲で此 es は文法上の主格 (grammatisches Subjekt [文法 § 243, 2 と 249]) であり das..... Wort は事實上の主格 (logisches Subjekt [文法 § 243, 1 及び 249]) であるから es は譯するに及ばぬ、所謂虚辭である、ihn verfolgende は Wort を説明せる形容句で das と Wort との間に挟さんだ丈の事である。

Hastig wollte er nach ihr greifen, aber eben so schnell, als er den Arm darnach ausstreckte, verschwand sie in der Dunkelheit der Nacht, und der eben losbrechende Sturm zwang ihn, unter den nahen Felsen Zuflucht zu suchen.

(譯) 急いで (hastig) 其塊を (nach ihr) 執らうとした (wollte er.....greifen) が (aber) 自分が (er) [それを取らんとして] 片腕を (den Arm) 伸ばした (ausstreckte) と同じ速力で (eben so schnell, als) 其塊は (sie) 夜の (der Nacht) 暗黒中に (in der Dunkelheit) 消えてなくなつた (verschwand)、而して (und) 恰度此時 (eben) 端緒を切つた (losbrechende) 暴風雨は (der Sturm) 彼をして (ihn) 近傍の岩窓の間に (unter den nahen Felsen) 避難せ (Zuflucht zu suchen) ねばならぬ如うにした (zwang)。

(註二八) nach etwas greifen 或物を執る。—— so schnell, als er den Arm danach ausstreckte の直譯は「其方へ (danach) 片腕を (den Arm) 伸ばした (ausstreckte) ほど (als) 左様に (so) 速に (schnell)」で so schnell, als は so schnell, wie と同一である。—— der Sturm losbrechen は暴風雨の起ること、losbrechend は losbrechen から成つた動詞狀形容詞である。—— zwang ihn.....Zuflucht zu suchen 避難すべく (Zuflucht zu suchen) 彼を餘儀なくした (zwang ihn) は「彼がどうしても避難せねばならなくなつた」の意。zwingen は通例 Infinitiv を伴ふこと、Zuflucht suchen は成語なることに注意せよ、(十八)。

Hier schlief er vor Ermüdung ein, um im Schlafe, von einer ungezügelten Eindrückungs-

kraft gepeinigt, aufs Neue die Qualen zu erdulden, die ihm sein rastloses Streben nach Reichtum am Tage erleiden ließ.

(譯) 疲勞したが爲めに (vor Ermüdung) 此處で (hier)、ケツスリ睡込んで仕まつた (schief er ein) 奔放不羈な想像力の爲めに (von einer ungezügelten Einbildungskraft) 苦しめられて (gepeinigt) 眠中にも (im Schlaf) 富を求めて (nach Reichtum) 休むことなき努力 sein rastloses Streben) が晝間にも (am Tage) 彼に蒙らした (ihm erleiden ließ) 苦惱 (die Qualen) を更に (aufs Neue) 堪えんが爲め (um.....zu erdulden) である。

(註二九) vor Ermüdung 疲勞した爲め、vor は原因を示す。—— einschlafen は寐込む、寐入る意、(四の六七)。—— Zügel は手綱、zügeln は手綱を持つ、制御するの意で ungezügelt は zügeln の變化から出來た動詞狀形容詞で「制御し難き」である。—— von.....gepeinigt,..... より.....苦しめられて、gepeinigt は peinigen (苦しめる) の過去分詞で茲では von..... と共に副詞句となつて居る。—— aufs Neue は成語で「更に」と譯す。—— sein.....Streben nach etwas は或「事に對する努力」茲では nach Reichtum 故富貴に對する努力。

Die ersten Strahlen der aufgehenden Sonne

fielen auf den jetzt ruhigen Spiegel des Meeres, als Falke erwachte. Eben wollte er wieder hinaus an die gewohnte Arbeit, als er von ferne etwas auf sich zukommen sah.

(譯) さし昇る (aufgehenden) 太陽の (der.....Sonne) 初光が (die ersten Strahlen) 今や (jetzt) 靜かに鏡の如くなれる海面に (auf den ruhigen Spiegel des Meeres) 落ちた (fielen) 時 (als) フアルケは眼をさました (erwachte)、當さに (eben) 再び (wieder) 例の仕事に (an die gewohnte Arbeit) 趣かんとした (wollte er.....hinaus) 時に (als) 何だか知らぬが (etwas) 遙か彼方から (von ferne) 自分の方へ (auf sich) 向つて來るのを (zukommen) 見た (sah)。

(註三〇) die Strahlen fallen auf den Spiegel des Meeres 平靜にして鏡面の如く澄み渡れる海を der Spiegel des Meeres と云ふのである、die Strahlen fallen auf..... 光線が[海面に]落つとは[海面]に輝くを云ふ。—— 仕事にかゝるは aus Werk (an die Arbeit) gehen である、茲では gehen を略してあるが hinaus は外に出掛けて仕事するから云ふのである。er wollte hinaus an die Arbeit 丈けて gehen なくとも充分解る、他の例を擧ぐれば Wollen Sie hinaus? (御出掛ですか)。—— von ferne 遙か向うから。—— auf sich zukommen は自分の方に近寄り來る意之れに sehen が附く

と近寄りくるのを見ることとなる尙一例を擧ぐれば Ich habe heute Morgen auf dem Bahnhof Shimabashi ihn abfahren sehen (僕は今朝新橋停車場に彼を見送つた)、(四の四、十、十一、十四、二四、四九、五六; 五の廿九等参考)。

Er erkannte es bald für ein Boot, und in demselben eine menschliche Gestalt; was aber sein größtes Erstaunen erregte, war, daß das Fahrzeug sich ohne Segel oder Ruder fortbewegte, und zwar mit dem Schnabel gegen das Ufer gefehrt, und ohne daß die darin sitzende Gestalt sich im geringsten um das Steuerruder zu bekümmern schien, wenn es ja eins hatte.

(譯) 間もなく (bald) 彼は (er) 夫れが (es) 小船であつて (für ein Boot, und) 其内に (in demselben) 一個の人影 (eine menschliche Gestalt) [のあるの]を見別けた (erkannte) 併し (aber) 最も彼の驚愕を (sein größtes Erstaunen) 惹起した (erregte) のは (was) 此船が (das Fahrzeug) 帆或は楫の力を借らずに (ohne Segel oder Ruder) 進んで来る (sich fortbewegte) こと (daß) であつた (war) 更に詳しく曰へば (und zwar) 船首を岸に向けて (mit dem Schnabel

gegen das Ufer gefehrt) [進み來り]一挺の楫を有して居たとすれば (wenn es ja eins hatte) 内に坐せる人影が (die darin sitzende Gestalt) 此の楫の爲めに (um das Steuerruder) 些とも (im geringsten) 心を勞する如うに (sich zu bekümmern) 見え (schien) なかつたこと (ohne daß) である。

(註三一) er erkannte.....es für ein Boot (彼は夫れが小船であることを分別した)、im. (od. etwas) für.....erkennen は [誰某(又は何々)を何々と認むる]。—— in demselben は in dem Boot の意で Boot を省いたから其代名詞で表はしたのである。—— ja. Erstaunen erregen は直譯すれば「誰某の驚愕を惹起する」と云ふので即ち誰某をして驚愕せしめること。—— mit dem Schnabel gegen das Ufer gefehrt の Schnabel は嘴の意で船で云ふ時は船首である、此句を直譯すれば「岸に對して (gegen) 向けたる (gefahrt) 船首を以て (mit dem Schnabel) で即ち「船首を岸に向けて」になる。—— im geringsten は少しも、毫もの意、何時も打消しの時に用ひ nicht, ohne の如き否定の語と結合す。—— sich um das Steuerruder bekümmern (楫の爲めに心を勞する)、sich um etwas bekümmern は成語で前置詞 um と結合し「或事の爲めに心配する」事で über etwas besorgt sein と同意である、sich (三格) über etwas graue Haare wachsen lassen も同義である。—— wenn es ja eins hatte の直譯は「此小船は (es) 楫を一つは (eins) 持つて居たとせば (wenn.....ja

.....hatte)」、eins は ein Ruder の意で wenn ja は wenn überhaupt などと同意である。

Das Boot kam immer näher und hielt endlich neben Wilms Fahrzeug stille. Die Person in demselben zeigte sich jetzt als ein kleines verschrumpftes, altes Männchen, das in gelbe Leinwand gekleidet und mit roter, in die Höhe stehender Nachtmütze, mit geschlossenen Augen, und unbeweglich wie ein getrockneter Leichnam darsaß.

(譯) 小船は (das Boot) 次第次第に (immer) 近づき来り (kam näher) 遂に (endlich) ウキルムの船の側に (neben Wilms Fahrzeug) 止まつた (hielt.....stille) 中なる人は (die Person in demselben) 今や (jetzt) 小さき皺の寄りたる老人として (als ein kleines, verschrumpftes Männchen) 現はれ (zeigte sich.....) 其の人は (das) 黄色の麻布を身に纏ひ (in gelbe Leinwand gekleidet war) 赤色の聳え立つた頭巾を被り (mit roter, in die Höhe stehender Nachtmütze) 兩眼を閉ぢ (mit geschlossenen Augen) 乾かした死骸の如うに (wie ein getrockneter Leichnam) ゲツト (unbeweglich) 坐つて居た (darsaß)。

(註三二) immer näher は「次第々々に近く」näher kommen は近付くで immer näher kommen は次第々々に近付くのである、例 Kommen Sie näher (もつと御寄りなさい)。stille halten は止る意。— Männchen は Mann に chen を附し且つ a の母音を曲音 (Umlaut) を附したるものでかくする時は縮少、愛撫の意となる。— zeigte sich als..... は直譯「何々として現れた」即ち「見たら何々であつた」の意。— in etwas gekleidet sein は「何々の着物を着て居る」の意。— mit roter in, die Höhe stehender Nachtmütze の in die Höhe stehender は「聳立つたる」で mit roter Nachtmütze の間に此丈の形容句を挟んだのである。

Nachdem er es vergebens angerufen und gestoßen hatte, wollte er eben einen Strick an das Boot befestigen und es wegführen, als das Männchen die Augen aufschlug und sich zu bewegen anfang, auf einer Weise, welche selbst den kühnen Fischer mit Grausen erfüllte.

(譯) ウキルムは (er) 老人を (es) 呼んだり衝いたりした (angerufen und gestoßen hatte) けれども一向應がない (vergebens) からとうとう (nachdem) 一條の綱を (einen Strick) 小船に結び附け (an das Boot befestigen) 曳き去らんとし

た (wollte er es wegführen) 恰度其時 (eben.....als) 此小
 さき人は (das Männchen) 兩眼を (die Augen) ホカリと開
 いて (aufschlag) 身體を動かし始めた (sich zu bewegen
 anfang), 而して其動き方たるや (auf einer Weise, welche)
 勇敢なる此漁夫をさへ (selbst den kühnen Fischer) ヌツト
 させた (mit Grausen erfüllte)。

(註三三) er hatte es vergebens angerufen und angestoßen
 に於て vergebens は vergeblich, erfolglos, ohne Erfolg と
 同じく何々したけれども駄目と云ふ意を表はすのである、
 即ち「無効に呼び掛け又は衝いた、(vergebens angerufen
 und gestoßen) とは呼掛けたり衝いたりしたけれども一向効
 力がない徒勞であつたとの意。— nachdem は元來「.....
 した後」と云う意を表はすのであるが時として茲の如くに
 理由を表す接續詞として用ゐられる事がある。— einen
 Strick an das Boot befestigen (綱を小船に結び附ける)、
 何々に結び附ける、繋ぐ又は掛けると云ふ場合には其場所
 には an の前置詞を取るのである。— auf einer Weise の
 Weise は方法で即ち「かゝる方法に於て」と云つて Welche
 以下其方法の説明である。— in. mit Grausen erfüllen
 は或人を戦慄せしむること。— selbst..... 「.....さへも」。

„Wo bin ich?“ fragte es nach einem tiefen
 Seufzer auf holländisch. Falke, welcher von

den holländischen Heringsfängern etwas von
 ihrer Sprache gelernt hatte, nannte ihm den
 Namen der Insel und fragte, wer er denn
 sei, und was ihn hierher gebracht.

(譯) 「此處は何處ぞ」(wo bin ich?) と老人は (es) 深き
 溜息をして後 (nach einem tiefen Seufzer) 和蘭語で (auf
 holländisch) 尋ねた (fragte) 和蘭の鯨漁夫(ニシントリ)から
 (von den holländischen Heringsfängern) 彼等の言葉を少し
 (etwas von ihrer Sprache) 學んで居た (gelernt hatte) 處の
 (welcher) フアルケは老人に (ihm) 此島の名を (den Namen
 der Insel) 告げ (nannte) 而して (und) 一體 (denn) 彼[即ち
 老人]は何者にして (wer er sei) 何が爲めに此處へ來た (was
 ihn hierher gebracht) のかと尋ねた (fragte)。

(註三四) Wo bin ich? は直譯すれば「私は何處に居るの
 か」と云ふので即ち言換へて「此處は何處であるぞ」と云ふ
 ことになる。— 何々語でと云ふ時は前置詞 auf を用ふ獨
 逸語でと云ふ時は auf deutsch である、(自修、前 54、頁
 176 を見よ)、又 im Deutschen と書いても宜し。— 「何々
 を少し」と云ふ時は etwas von..... の形を用ふ。— und
 fragte, wer er denn sei, und was ihn hierher gebracht は
 問の言葉を間接文に書換へたのである 此の場合には動詞は
 Konjunktiv の形となる (茲では sei) (文法自修 196)、.....

gebracht の次には同じく Konjunktiv の habe が略してある、而して本人の問ふた其儘は Wer bist du denn und was hat dich hierher gebracht? で之を其儘引用するには Gänsefüßen („“) を用ゐればいいのである即ちund fragte: „Wer bist du denn, und was hat dich hierher gebracht?“ の如くである、而して was hat dich hierher gebracht は或事柄を主として擬人法を用ひ「何が汝を此處へ持ち來りたるか」であるが意味は warum bist du hierher gekommen と同じである。

„Ich komme, um nach dem Carmilhan zu sehen.“

„Dem Carmilhan? Um Gottes willen! Was ist das?“ rief der begierige Fischer.

„Ich gebe keine Antwort auf Fragen, die man mir auf diese Weise tut“ erwiderte das Männchen mit sichtbarer Angst.

(譯) 「叟はカルミルハンを捜しに (um nach dem Carmilhan zu sehen) 來たのぢや (komme)。

「カルミルハンを [捜しにと言はるゝか] (dem Carmilhan?) 是はしたり (Um Gottes Willen) 夫れは何で御座る (Was ist das?)」と此漁師は夫れが聞きたさに (der begierige Fischer) 叫んだ (rief)。

小きき人は (das Männchen)、戦慄しながら (mit sichtbarer Angst) 「叟は (ich) 恁る風に (auf diese Weise) 叟になす (die man mir.....tut) 質問には (auf Fragen) 決して答を與へぬ (gebe.....keine Antwort)」と答へた (erwiderte)。

(註三五) nach im. sehen は誰某を捜す意。— Um Gottes willen は Uns Himmels willen, großer Gott (五の二三、四の百六四等を見よ) 等と同じく驚愕悲嘆の際に發する間投詞。— der begierige Fischer 「聞きたがつて居る漁師。— Antwort geben は antworten (答へる) と同じ「問に對して答を與ふ」と云ふ時は Antwort auf Fragen geben である。— mit sichtbarer Angst 目につく程の恐怖の念を以て。

„Nun,“ schrie Falke, „was ist der Carmilhan?“ — „Der Carmilhan ist jetzt nichts, aber einst war es ein schönes Schiff, mit mehr Gold beladen, als je ein anderes Fahrzeug getragen.“

(譯) 「然らば (nun) カルミルハンとは何で御座る」とフアルケは叫んだ。「カルミルハンは今 (jetzt) 何でも無い (ist.....nichts)、併し (aber) 嘗ては (einst) 莊麗な (schönes) 何れの他の船が (je ein anderes Fahrzeug) 運んだ (getragen)

より以上の黄金を積んだ (mit mehr Gold beladen) 船 (ein Schiff) であつた (war es)。

(註三六) nun は種々の譯あり「扱て」「遮莫」を普通とす併し又「な-に」の意をなす場合もあり、例へば「美-ちやん」「な-に、nun」の如し。— als je ein anderes Fahrzeug getragen 「何れの外の船が乗せて運んだより」、mit mehr Gold beladen 「より多くの黄金を積んだ」で世界の船の中で最も多くの黄金を積載せる莊麗な船の意也、mit etwas beladen sein は何々を積載する(又は擔ぐ)の意。— mehr Gold は「より多くの黄金である」。

„Wo ging es zu Grunde, und wann?“

„Es war vor hundert Jahren; wo, weiß ich nicht genau; ich komme, um die Stelle aufzusuchen und das verlorene Gold aufzufischen; Willst Du mir helfen, so wollen wir den Fund mit einander teilen.“

(譯) 「其船の沈みし所は何處ぞ (wo ging es zu Grunde?) 而して何時 (und wann?)」。

「數百年前 (vor hundert Jahren) のこと (Es war)、何處なりやは (wo) 詳しくは知らず (weiß ich nicht genau)、叟が來たのは (ich komme) 其場所を搜し出し (die Stelle auf-

fuchen) 失はれし黄金を (das verlorene Gold) 取り上げん (aufzufischen) が爲めである (um.....) 若し汝が叟を助けて呉れるなら (willst du mir helfen) 掘出したものは (den Fund) 兩人で (mit einander) 分けやうぢやないか (wir wollen teilen)。

(註三七) wo ging es zugrunde? は直譯すれば「何處で夫れが沈没した (ging zu grunde) か」である zu Grunde gehen の zu Grunde は zugrunde とも zu grunde とも書く。— es war の es は es ging zugrunde を承けたものである。— vor hundert Jahren は年數を明示せず漠然と數百年前の意を表はす。— um.....zu は兩語で目的を表はす語 (文法自修 2 189)。— auffischen は元來漁獵するの意であるが漁師の言葉だから之を直ちに黄金を漁するに用ゐたのである。— willst du mir helfen は wenn du mir helfen willst の wenn を省き willst を最初に持つて來たのである。— 人を助けるは im. retten (生命若くは苦境より) と im. helfen (何々する事に於て手傳するの意) とある。— so は前文の條件を承けて「そ-すれば」の意。— Fund は finden (發見する) より出來た語である。

„Mit ganzem Herzen, sag mir nur, was muß ich tun?“

„Was du tun mußt, erfordert Mut; du

mußt dich gerade vor Mitternacht in die wildeste und einsamste Gegend auf der Insel begeben, begleitet von einer Kuh, die du dort schlachten und dich von jemand in ihre frische Haut wickeln lassen mußt.

(譯) 「手傳ひするは勿論なれば (mit ganzem Herzen) 唯だ (nur) 私のなさればならぬこと (was muß ich tun?) 丈を (nur) 曰つて下さい (sag mir)」。

「汝がなさればならぬ仕事には (Was du tun mußt) 勇氣が要る (erfordert Mut) 丁度 (gerade) 夜の十二時少し前 (vor Mitternacht) 一匹の牝牛を引き連れて (begleitet von einer Kuh) 島の内で (auf der Insel) 最も開けざる淋しき地方へ (in die wildeste und einsamste Gegend) 行かればならぬ (du mußt dich.....begeben)、而して其牝牛を (die) 其處で (dort) 屠り (schlachten) 其生々しい皮で (in ihre frische Haut) 誰かに (von jemand) 汝の身體を (dich) 包ませればならぬ (wickeln lassen mußt)。

(註三八) mit ganzem Herzen は「满腔の悦を以て」の意で喜んで承知するを云ふ、.....sag' mir nur, was muß ich tun? に於て was muß ich tun? は副文ではない sag mir nur と同格で主文である副文ならば was ich tun muß として Fragezeichen „?“ は要らぬ。— was du tun mußt,

erfordert Mut (汝の爲さればならぬものは勇氣を要す) に於て erfordert の主格は was du tun mußt の全句である即ち事柄が主格となつて居る。— begleitet von einer Kuh 一匹の牝牛に伴はれては直譯で即ち一匹の牛を引連れての意。— irgendwohin (何處々々へ) sich begeben は「赴く」の意。

Dein Begleiter muß dann dich niederlegen und allein lassen, und ehe es ein Uhr schlägt, weißt du, wo die Schätze des Carmilhan liegen."

(譯) 夫れから (dann) 汝の供は (dein Begleiter) 汝を (dich) 下に下ろし (niederlegen) て (und) 獨りで置か (allein lassen) ねばならぬ (muß)、然うすれば (und) 一時を打つ (es ein Uhr schlägt) 前に (ehe) カルミルハンの寶の (die Schätze der Carmilhan) 横はる (liegen) 所を (wo) 知るに至るであらう (weißt du)。

(註三九) in. allein lassen は「或人を孤りぼつちで捨て置く」意。— es schlägt ein Uhr に於て ein Uhr は時計を云ふ意でなく es schlägt eins と同じく一時と云ふ時間を表はす補助言である、(自修、後 §31 の 1, 2 を参考せよ)。—weißt du, wo die Schätze liegen は直譯すれば「何處に寶が横はつて居るかを知る」で即ち寶の所在を知るの意。

„Auf diese Weise fiel der alte Engrol mit

Leib und Seele ins Verderben!" rief Wilm mit Entsetzen. „Du bist der böse Geist," fuhr er fort, indem er hastig davon ruderte, „geh zur Höhle! Ich mag nichts mit dir zu tun haben."

(譯) 「昔しのエンゲロルが (der alte Engrol) 心身を滅ぼすに至りし (fiel.....mit Leib und Seele ins Verderben) は恠々な風で (auf diese Weise) あつたとウキルムは懼然として (mit Entsetzen) 叫んだ (rief)」汝は「悪い靈 (der böse Geist) である」とあわたいしく (hastig) 漕ぎ去りながら (indem er davon ruderte) 續けて言つた (fuhr er fort) 「地獄に歸れ (geh zur Höhle!) 私は汝さんの對手にはなりたくない (Ich mag nichts mit dir zu tun haben)」。

(註四〇) mit Leib und Seele は心身共にの意。— ins Verderben fallen は墮落する、滅亡する意。— mit Entsetzen は mit Schrecken と同じく懼然としての意。— geh' zur Höhle! (地獄に歸れ) の geh' は gehen の命令法で行けの意歸れと譯したのは元來悪魔は地獄に屬するものであるから其郷土に行くは即ち歸るのである。— mit jm. etwas zu tun haben は或人と關係する又は或人と事を共にするの意、夫からして mit jm. nicht zu tun haben は或人と無關係になること。

Das Männchen knirschte, schimpfte und fluchte ihm nach; aber der Fischer, welcher zu beiden Rudern gegriffen hatte, war ihm bald aus dem Gehör und nachdem er um einen Felsen gebogen, auch aus dem Gesichte.

(譯) 小きき人は (das Männchen) 齒ぎしりをなし (knirschte) フアルケの後より悪口雑言を浴びせかけた (schimpfte und fluchte ihm nach) が (aber) フアルケの方では (der Fischer, welcher) 兩方の櫂をとつて (zu beiden Rudern gegriffen) [漕ぎ去つたので]、間もなく (bald) 小きき人には聲の達せざる所に到り (war ihm aus dem Gehör) 一つの岩角を曲がつてからは (nachdem er um einen Felsen gebogen) 亦見えなくなつた (auch aus dem Gesichte)。

(註四一) jm. nachschimpfen und nachfluchen は人が去りた後で悪口雑言するを云ふ。— zu etwas greifen は § 28 にあつた nach etwas greifen と同じく或物を取る意。— jm. aus dem Gehör sein は或人に聲の達せざる所に居る意。— nachdem er um einen Felsen gebogen の後には war が略されてある、um einen Felsen biegen で岩角を曲る意。— jm. aus dem Gesicht sein は或人に見えぬ所に在る意。

Aber die Entdeckung, daß der böse Geist sich seinen Geiz zunutze zu machen und mit Gold in seine Schlingen zu locken suchte, heilte den verblendeten Fischer nicht, im Gegenteil, er meinte die Mitteilung des gelben Männchens benutzen zu können, ohne sich dem Bösen zu überliefern;

(譯) 併し悪靈が (der böse Geist) フアルケの慾心に乗じ (sich seinen Geiz zunutze zu machen) 黄金を以て (mit Gold) 網に (in seine Schlingen) 誘ひ入れんとした (zu locken suchte) ことに氣が附いた (der Entdeckung) が (aber) [慾に] 目の眩らめるフアルケの眼は醒めず (heilte den verblendeten Fischer nicht) 反つて (im Gegenteil) 自分は自分を (sich) 悪魔[の手に] (dem Bösen) 渡さずして (ohne zu liefern) 黄色の小さき人の (des gelben Männchens) 報告を (die Mitteilung) 利用し得ると (benutzen zu können) 考へた (er meinte)。

(註四二) sich seinen Geiz zunutze zu machen フアルケの慾心を自分に利用する (zunutze machen)、sich (三格) は für sich (四格) の意である、die Entdeckung.....heilte den verblendeten Fischer nicht 「發見が眩惑せる漁師を癒さなかつた」、主格は die Entdeckung 也。——im Gegenteil は反對に、sich im. überliefern は自身を誰々に提供する、獻する、

meinte は Meinung (意見) から來て「斯々の意見である」の意 der Meinung sein と同じ。

und indem er fortfuhr, an der öden Küste nach Gold zu fischen, vernachlässigte er den Wohlstand, den ihm die reichen Fischzüge in anderen Gegenden des Meeres darboten, so wie alle andern Mittel, auf die er ehemals seinen Fleiß verwendet, und versank von Tag zu Tage nebst seinem Gefährten in tiefere Armut, bis es endlich oft an den notwendigsten Lebensbedürfnissen zu fehlen anfing.

(譯) 荒涼たる海岸に於て (an der öden Küste) 黄金を漁ることを (nach Gold zu fischen) 續け (fortfuhr) 海の他の方面に (in anderen Gegenden des Meeres) 群れ來る豊富な魚群が (die reichen Fischzüge) 興ふる (darboten) 繁榮をも (den Wohlstand) 以前 (ehemals) 自分の勤勉を注ぎし (auf die er seinen Fleiß verwendet) 他の凡ての飯の種 (alle andern Mittel) をも (so wie) 怠り (vernachlässigte) 自分の連と共に (mit seinem Gefährten) 一日一日に (von Tag zu Tage) 貧亡の深間へ (in tiefere Armut) 沈んで行き (versank) 遂に (bis.....endlich) なくてはならぬ其日のものにさ

へ (an den notwendigsten Lebensbedürfnissen) 事を缺くこと (zu fehlen) 屢々なるに (oft) 至つた (anfang)。

(註四三) nach Gold fischen 黄金を漁る、nach には探索の意がある。——魚族が興ふる繁榮とは魚群を漁れば繁榮する、其の魚族を捕えずに捨て、居るから魚群の興ふる繁榮を疎略にしたと曰へる也、則ち魚族を捕らざること也、Fischzüge は水族の隊也。——……verwendet の次には助動詞 hatte が略されたるなり。—— von Tag zu Tag in tiefere Armut versinken 今日昨日より更に深き貧乏の底に沈み行く。

Aber obgleich dieser Verfall gänzlich Falke's Halsstarrigkeit und falscher Begierde zugeschrieben werden mußte, und die Ernährung beider jetzt Kaspar Strumpf allein anheimfiel, so machte ihm doch dieser niemals den geringsten Vorwurf;

(譯) 併し (aber) 此の零落は (dieser Verfall) 如何しても (mußte) 全然 (gänzlich) フアルケの執拗 (Halsstarrigkeit) と誤れる慾望 (falscher Begierde) とに歸せられる (zugeschrieben werden) 可き (mußte) もので兩人を養ふことは (die Ernährung beider) 今や (jetzt) カスパル ストルンプのみ (allein) の仕事である (anheimfiel) にも關らず (ob-

gleich) カスパルは (dieser) 嘗て些したりとも フアルケを責めた事はない (macht ihm niemals den geringsten Vorwurf)。

(註四四) 「邦語の何々なるに拘らず」を獨譯するは時と場合とにより obgleich, obwohl, ob schon (是等は ob と其附加語を分離するもよし), trotzdem 等を用ふ。—— im. od. einer Sache etwas (四格) zuschreiben は或人又は物に何々を歸する、例へば或人に罪を歸するは im. die Schuld zuschreiben なり、本例に於ては zuschreiben の Passiv (受働) 形を用ゐたるが故に der Verfall は主格となれり。—— Halsstarrigkeit も falschen Begierde も三格なり。—— im. anheimfallen は「手に落つる」「所有となる」の意 (五の三) にして茲にては die Ernährung が Kaspar Strumpf に所有となるとは Kaspar Strumpf の持ものとなるの意なり。—— im. den Vorwurf machen は im. vorwerfen と同じく「或人を責める」「告める」意。

ja er bezugte ihm immer noch dieselbe Untermwürfigkeit, dasselbe Vertrauen in seinen besseren Verstand, als zur Zeit, wo ihm seine Unternehmungen allezeit glücklich waren.

(譯) 否其れのみならず (ja) カスパルは (er) 相變らず今猶ほ (immer noch) フアルケの企てが (seine Unternehmungen) 何時も (allezeit) 成功した (wo…… ihm glücklich waren)

時と (als zur Zeit) 少しも變らず従順に (dieselbe Unterwürfigkeit) 少しも變らずファルケの己れに勝れる理性を信頼して居た (bezeugte ihm dasselbe Vertrauen in seinen besseren Verstand)。

(註四五) ja の意味に就きては文法 § 372 を見よ。—— immer noch は今猶ほの義。—— das Vertrauen in etwas の in は邦語の對しての意を有す即ち何々に對する信頼也、im. sein Vertrauen bezeugen は或人を信頼し其證據を事實に表すなり、單に或人を信頼するは im. sein Vertrauen schenken なり、er bezeugte ihm dieselbe Unterwürfigkeit, dasselbe Vertrauen in seinen besseren Verstand の直譯「彼は (er) 證據立てた (bezeugte) 同じ従順と (dieselbe Unterwürfigkeit) 彼のより勝れたる理性に對する (in seinen besseren Verstand) 同じ信頼を (dasselbe Vertrauen)」—— es im. glücken (文法 § 248 頁 57) は直譯すれば「夫れが或人に幸する」にて或人が成功するの意 die Unternehmungen が im. glücken すとは或人が其企に於て成功するを云ふ。—— als zur Zeit, wo ihm..... の wo は zur Zeit の關係副詞である、時其物の説明ならば welche なる關係代名詞を用ふべけれども茲にては然らずして其時は時間的副詞に止まり其間に起れる事件が主にて之を説明するを以て宜しく wo を用ふべし。

Dieser Umstand vermehrte Falkes Leiden um ein Großes, aber es trieb ihn, noch mehr nach Gold zu suchen, weil er dadurch hoffte, auch seinen Freund für sein gegenwärtiges Entbehren schadlos halten zu können.

(譯) 此事情が (dieser Umstand) ファルケの苦惱を (Falkes Leiden) 非常に (um ein Großes) 増した (vermehrte) が併し (aber) 彼を驅つて (trieb ihn) 更に (noch mehr) 黄金を求め (nach Gold zu suchen) しめた、蓋し (weil) 彼は之によりて (dadurch) 自分の友人にも (auch seinen Freund) 現在の不自由の甲斐あらしめん事を (für sein gegenwärtiges Entbehren schadlos halten zu können) 望んだのである (hoffte)。

(註四六) um ein Großes は sehr の意。—— im. treiben zu..... (或は antreiben 註十八を見よ) は或人を驅りて何々せしむるとの意。—— nach etwas suchen は或物を目的として探す意。—— dadurch は nach Gold suchen を承けたるものなり。—— auch seinen Freund für sein gegenwärtiges Entbehren schadlos halten を直譯すれば「現在の缺乏の爲めに (für sein gegenwärtiges Entbehren) 彼の友人をも (auch seinen Freund) 損害なく (schadlos) 保つ (halten)」で即ち現在の不自由の爲めに友人に迷惑をかけずに一儲けして友人にも現在の不自由の甲斐ある様にするを云ふ。

Dabei verfolgte ihn das teuflische Geflüster des Wortes Carmilhan noch immer in seinem Schlummer.

(譯) 加るに (Dabei) 彼が微睡(マドロ)むと云ふと (in seinem Schlummer) 今尙ほ (immer noch) カルミルハンと云ふ言葉の (des Wortes C.) 悪魔の如うな囁きが (das teuflische Geflüster) 聞えてならぬ (verfolgt ihn)。

(註四七) in. verfolgen は或人にうるさくつき纏ふ也、(頁 31 の譯を見よ)。— in seinem Schlummer の直譯は微睡中にて其意は「微睡むと云ふと」である。

Kurz, Not, getäuschte Erwartung und Geiz trieben ihn zuletzt zu einer Art von Wahnsinn, so daß er wirklich beschloß, das zu tun, was das Männchen angeraten, obgleich er, nach der alten Sage, wohl wußte, daß er sich damit den Mächten der Finsternis übergab.

(譯) つまり (Kurz) 困難 (Not) と、外れたる期待 (getäuschte Erwartung) と、慾心 (Geiz) とが彼を (ihn) 驅つて (trieben) 一種の狂氣に (zu einer Art von Wahnsinn) なした、夫れが爲に (so daß) かくすれば (damit) 冥界の勢力に (den Mächten der Finsternis) 自分を渡す (sich.....

übergab) ものであること (daß) は昔の話により (nach der alten Sage) 能く知つては居たが (obgleich.....wohl wußte) 小きき人の (das Männchen) 勧めた (ihm angeraten) ことを (das....., was) やつてのけやうと (zu tun) 實際心から (wirklich) 決心した (beschloß)。

(註四八) Kurz は以上述べたることの繁雜を避くる爲めに其要を摘指する時に用ふる辭で、「要するに」「畢竟」「所詮」「約言すれば」等の意、Kurz und gut も同意。— beschließen は「決心」「決定」する意。— das....., was は「何でも.....所のことを」と事柄を指す。— im. etwas (od. zu.....) anraten は或人に何々を又は何々せよと勧むる意、茲の das Männchen ihm angeraten の次には hat が略せられたるなり。— sich im. (od. etwas) übergeben は自身を或人又は或物に渡す (四二の sich überliefern と同じ)。— den Mächten der Finsternis は dem Teufel (悪魔) に同じ。

Alle Gegenvorstellungen Kaspar's waren vergebens. Falke ward nur um so heftiger, je mehr jener ihn anflehte, von seinem verzweifelten Vorhaben abzustehen.

(譯) カスパルは色々と (alle) 反對の事實を指摘して止めさせやうとしたが (Alle Gegenvorstellungen) 徒勞であつた (waren vergebens) カスパルが (jener) フアルケに望な

き企より (von seinem verzweifelten Vorhaben) 手をひくやう (abzusehen) 歎願す (ihn ansehte) ればする程 (je mehr) 只 (nur) 更に烈しく (um so heftiger) なる計りであつた (ward nur)。

(註四九) Gegenstellungen 友人の見てる方面よりも他の方面の事實、例へば彼の友人が良き方面のみを見て乘氣になつて時他の暗黒な方面を示して止めさせんと説くが如き也。——……um so heftiger は je mehr……と相對照せるもので「何々すればする程 (je mehr) 却つて益々激しく (um so heftiger)」と云ふ意である。——jn. um etwas (od. zu……) ansehn は或人に何々を又は何々することを歎願す。——von etwas absehen は或事を見捨てる、ab は離れる意なる故或物又は人より離れ立つとは之を見捨てることになるなり。——Vorhaben は vorhaben (企畫する) である動詞より來る、vor は前にして haben は持つなれば前に持つは即ち企畫することになる。

Und der gute, schwache Mensch willigte endlich ein, ihn zu begleiten und ihm seinen Plan ausführen zu helfen.

(譯) 夫れだから (Und) 此善良にして弱き人間 (カスバル) は (der gute schwache Mensch) 遂に (endlich) フアルケに躰いて行き (ihn zu begleiten) 彼が自分の企畫を實行するを

(seinen Plan ausführen) 助けることを (ihn zu helfen) 承諾した (willigte ein)。

(註五〇) der gute, schwache Mensch 善良にして弱き人、gute とは友人に對する親切を指し schwache とは自己の意志を貫徹せざる即ち意志の弱きを指す。——den Plan ausführen は其計畫せることを遂行する意。——jn. helfen zu…… は或事柄をなすに當りて人を助けるなり、即ち普通何々の手傳をなすと譯す、(三七、四の六六 forthelfen, 六八 verhelfen)。——willigte……ein は分離動詞 einwilligen (同意する) の三人稱 (一人稱) 單數過去形なり。Will (意志) が einigen (一致する) の意で即ち eintwilligen は同意となる。

Beider Herzen zogen sich schmerzhaft zusammen, als sie einen Strick um die Hörner einer schönen Kuh, ihr letztes Eigentum, legten, die sie vom Kalbe aufgezo-gen, und die sie sich immer zu verkaufen geweigert, weil sie's nicht übers Herz bringen konnten, sie in fremden Händen zu sehen.

(譯) 兩人が (sie) 自分等の最後の財産である (ihr letztes Eigentum) 一匹の美麗な牝牛の (einer schönen Kuh) 兩の角に (um die Hörner) 一條の綱を (einen Strick) まきつけた

(legten) 時には (als) 二人の心は (beider Herzen) 苦しげに (schmerzhaft) 固くなつた (zogen sich zusammen) 此牛たるや (die) 彼等が (sie) 犢牛の時より (vom Kalbe) 育て上げ (aufgezogen) 他人の手に渡すのが (sie in fremden Händen zu sehen) 忍びぬとて (weil sie's nicht übers Herz bringen konnten) 何時も (immer) 賣るを (zu verkaufen) 拒んだものである (sich geweigert hatten)。

(註五一) beider Herzen の beider は二格で即ち Herzen beider の意。—— sich zusammenziehen は引緊まる凝集するで die Wolken sich zusammenziehen とは雲が凝集して暴風雨の模様を呈することを云ひ die Herzen が sich zusammenziehen とは心が緊くなることを云ふ。—— ihr letztes Eigentum は一寸間に挾んで Ruh の説明をしたるものなり。—— vom Kalbe aufziehen は犢牛の時代より (vom Kalbe 又は vom Kalbe an [auf]) 育て上げるなり、幼少よりは von Jugend, von Jugend an (od. auf) なり、序に言んに an は開始の意を有し auf は將來に向つてといふ未來の意を有す。—— weil sie's..... の sie's は sie es を約束したものである、es は zu kaufen を指す。—— etwas übers Herz bringen は或事を欲する、希ふ意で etwas nicht übers Herz bringen können は或事を希ふを得ぬ即ち希ふに忍びぬ也。

Über der böje Geist, welcher sich Wilms be-

meisterte, erstickte jetzt alle besseren Gefühle in ihm, und Kaspar wußte ihm nichts zu widerstehen. Es war im September, und die langen Nächte des schottländischen Winters hatten angefangen.

(譯) 併し (aber) ウキルム を征服した (sich Wilms bemästerte) 惡靈は (der böje Geist) 今や (jetzt) ウキルム の長き感情を残らず (alle besseren Gefühle in ihm) 枯死せしめた (erstickte) 而して (und) カ スパルは彼に反抗する術を知らなかつた (wußte ihm nichts zu widerstehen) 時は九月のことで (es war im September) スコットランドの冬の永き夜 が (die langen Nächte des schottländischen Winters) 始まつた (hatten angefangen) 頃である。

(註五二) sich jß. (od. einer Sache) bemästern は或人又は或事を支配する、左右する。—— erstickten は窒息せしめる義。—— in ihm は in seinem Herzen (彼の心中の) の義。—— 何々の術を知らぬと云ふは wissen nicht zu+Infinitiv の形を用ふ。—— jm. widerstehen は jm. Widerstand leisten と同じく或人に反抗するなり。—— 話題を轉じて或他の事を述べんとするに當りては本文に示す如く es war..... の形を用ふ即ち「時は九月の事であつた (es war im September)」。

Die Nachtwolken wälzten sich schwer vor dem rauhen Abendwinde und türmten sich wie Eisberge im Glydestrom, tiefer Schatten füllte die Schluchten zwischen dem Gebirge und den feuchten Torfsümpfen, und die trüben Bette der Ströme blickten schwarz und furchtbar wie Höllenschlünde.

(譯) 夜の雲は (die Nachtwolken) 荒き夕の風に吹かれて (vor dem rauhen Abendwinde) 重々しく (schwer) 漂ひ來り漂ひ去り (wälzten sich 轉がる) クレド河の氷山の如に登え立ち (türmten sich) 深き影は (tiefer Schatten) 山岳と濕潤なる沼澤との間に挟まれる (zwischen dem Gebirge und den feuchten Torfsümpfen) 谿谷に漂へり (füllte die Schluchten) 濁りて悲しげなる河床は (die trüben Bette der Ströme) 地獄へ導く大穴の如く (wie Höllenschlünde) 黒くも亦恐ろしげに (schwarz und furchbar) 見えた (blickte)。

(註五三) vor dem rauhen Abendwinde は荒き夕の風の爲めに妨げられての意。— Glydestrom は Gläddstrom と讀むべし、南方スコットランドの河なり。— das Bett eines Stromes は河床なり。— Schlund は適譯なきを以て「大穴」と譯せり、物を呑み込む大きな穴若しくは墜道の如き

もの也、動物の咽喉の如きをも大なるものを Schlund と云ふことあり。

Falke ging voran und Strumpf folgte, schauernd über seine eigene Kühnheit und Tränen füllten sein schweres Auge, so oft er das arme Tier ansah, welches so vertrauensvoll und bewusstlos seinem baldigen Tode entgegenging, der ihm von der Hand werden sollte, die ihm bisher seine Nahrung gereicht.

(譯) フアルケは先に立ち (ging voran) ストルンプは自らの大膽さに (über seine eigene Kühnheit) 戦慄しながら (schauernd) 彼の後について行つた (folgte ihm)、斯く迄 [自分等を] 信じ (so vertrauensvoll) 何にも知らずに (bewusstlos) 程なく來る可き死に (seinem baldigen Tode) 向つて行く (entgegenging) 憐れなる動物を (das arme Tier) 見ては (so oft er ansah) 重き眼に涙が充ちた (Tränen füllten sein schweres Auge) 其死たるや (der) 彼に (ihm) 之れ迄 (bisher) 食物を (seine Nahrung) 與へた (gereicht) [人の] 手からして (von der Hand.....die.....) 來るのである (werden sollte)。

(註五四) vorangehen は先きになつて歩くを云ふ、例
Bitte, gehen Sie voran! (何卒御先きに)。— Strumpf
folgte は Strumpf folgte ihm (Falke) なり。— schauernd
は schauern の現在分詞なり。— Tränen füllten sein
schweres Auge を直譯すれば「涙が彼の重々しき眼を充たし
た」にて即ち彼の目に涙が一杯に充てる意、schweres Auge
とは 險(マヅタ)のたれて光の無き重々しき目を云ふ。—
ansah 見た ansehen は「ちつと見る」意、牡牛の身の上を思
ひつくづくと眺むる也。— so oft er.....ansah の直譯「彼
が.....眺めた度毎 (so oft)」。

— im. (od. einer Sache) en-
gegengehen 人又は事に向つて行く。— seine Nahrung ge-
reicht の次ぎには hat の略せられたるに注意すべし。

Mit Mühe kamen sie in das enge, sumpfige
Bergtal, welches hier und da mit Moos und
Heidekraut bewachsen, mit großen Steinen
übersät war, und von einer wilden Gebirgs-
kette umgeben lag, die sich in grauen Nebel
verlor, und wohin der Fuß eines Menschen
sich selten verstieg.

(譯) 兩人は (sie) 困難を重ねて (mit Mühe) 狭き沼澤の
性を帯びたる谷へ (in das enge, sumpfige Bergtal) 入り込

んだ (kamen) 此谷には (welches) 彼處此處に (hier und da)
蘚苔及び雜草生へ (mit Moos und Heidekraut bewachsen)
大ひなる岩石所々に聳え立ち (mit großen Stein übersät
war) 荒涼なる連山に取圍まれて居る (von einer wilden Ge-
birgskette umgeben lag) 此連山[の頂]は (die) 灰色の霧の中
に (in grauen Nebel) 消えて (sich verlor) 我慢心に驅られ
たる人も (der Fuß eines Menschen) 登りしこと (sich verstieg)
至つて稀れなる (selten) 山である (wohin)。

(註五五) hier und da は hier und dort と同じく「此所
彼所に」「時々」の意あり、茲にては第一の意にとる。—
mit etwas bewachsen sein は何々にて掩はれてある、即ち
何々が生じて或物を掩へる意、茲の mit Moos und Heide-
kraut bewachsen の次には mit großen Steinen übersät war
の war を補ひ見るべし。— übersäten は一面に種を蒔く
意よりして石の谷を掩へる苔を種子を以て土壤を掩ふに譬
へたるなり。— umgeben lag の umgeben は umgeben
(圍む) の過去分詞にて茲では mit großen Gebirgsketten
umgeben にて das Bergtal の形容句なり。— sich in etwas
(四格) verlieren は自分の形體を或物の中に入れて隠して
仕舞ふ意、茲では上の Gebirgskette の中に。其次の wohin
も Gebirgskette を受けて Gebirgskette....., wohin der
Fuß eines Menschen sich selten verstieg の直譯は：連山、
其處へ (wohin) 人間の足が稀れに上がった處の (wohin へ

返る)で意味は人間の足が稀れに上がった山、*sich versteinen* は上る可らざる所に上ること、或は危険なしには再び歸り来る能はざる處迄登るを云ふ。

Sie näherten sich auf wankendem Boden einem großen Stein, welcher in der Mitte stand, und von welchem ein verschauchter Adler krächzend in die Höhe flog.

(譯) 兩人は (sic) 揺れる土地を通りて (auf wankendem Boden) 中央に (in der Mitte) 立てる (welcher.....stand) 大きな石に (einem großen Stein) 近づいた (näherten sich) 其石からは (von welchem) 一羽の鷲が驚いて (ein verschauchter Adler) 一聲高く (krächzend) 空に舞ひ上つた (in die Höhe flog)。

(註五六) auf wankendem Boden は直譯すれば「揺れる土地の上に於て」にて即ち堅固ならざる崩れかいらんとする土地なり auf は其上に於てなる故其上を通りての意。— sich im. (od. etwas) nähern は人又は物に近くを云ふ。— ein verschauchter Adler は「一羽の驚いたる鷲」とするは直譯にて即ち二人の近づく足音に驚かされての意なり。— krächzend は krächzen の現在分詞にて直譯すれば「がつかつと鳴き乍ら」なり。— in die Höhe flog は高空に飛んだにて空中に舞上ること。

Die arme Kuh brüllte dumpf, als erkenne sie die Schrecknisse des Ortes und das ihr bevorstehende Schicksal, Kaspar wandte sich weg, um sich die schnellfließenden Tränen abzuwischen.

(譯) 此牝牛は憐れにも (die arme Kuh) 此場所の恐る可き所なること (die Schrecknisse des Ortes) 及び自分の前に迫れる運命 (das ihr bevorstehende Schicksal) とを認るもの如く (als erkenne) 陰鬱に (dumpf) 哮えた (brüllte) カスパルは顔をそむけ (wandte sich weg) 速かに流れ出る涙を (die schnellfließenden Tränen) 拭ひ去つた (um sich abzuwischen)。

(註五七) die arme Kuh は「此不憫なる牝牛」にて「不憫なる」は此牝牛に附屬する性質に非ず只だ記者の此牝牛に對する感情を述べたるに過ぎざるを以て「此牝牛は憐れにも」とするを得。— das ihr bevorstehende Schicksal は彼女に將に來らんとする運命にて ihr bevorstehende は das Schicksal の間に挟みたる形容句なり。— 邦語の「恰も何何するものゝ如く」「何々かの如く」は獨逸語にては „als ob.....“ の形を用ふるが此 ob を略する時は動詞が直ちに als の次に來るものなり (文法 2 196, 3; 340; 341, 3; 344 (d)) 及び叢書註四の四六、四二、五二、六三、一七一; 五の十

一、十八等を見よ)、即ち本例に於て als erkenne は als ob sie.....erkenne と同じ。—— brüllen は鹿、獅子、虎等の哮ふる聲なり。—— sich wegtwenden は身を反らす又は顔丈けをそむける意、sich abwischen 自分を拭ふとは即ち自分の涙を拭ふなり。

Er blickte hinab durch die Felsenöffnung, durch welche sie heraufgekommen waren, von wo aus man die ferne Brandung des Meeres hörte; und dann hinauf nach den Berggipfeln, auf welche sich ein kohlschwarzes Gewölk gelagert hatte, aus welchem man von Zeit zu Zeit ein dumpfes Murmeln vernahm.

(譯) カスパルは (er) [彼等兩人が] 上る時に通り來つた (durch welche sie heraufgekommen waren) 岩の穴より (durch die Felsenöffnung) 下を瞰下した (blickte hinab) 其處からは (von wo aus) 遙かの海の澎湃が (die ferne Brandung des Meeres) 聞える (man.....hört)、次に (und dann) 山の頂を見上げた (blickte hinauf nach den Berggipfeln)、山の頂には (auf welche) 一群の眞黒な雲 (ein kohlschwarzes Gewölk) 集まりたるに (sich gelagert hatte)、其中からは (aus welchem) 折々 (von Zeit zu Zeit) いやな唸り聲が (ein dumpfes Murmeln) 聞える (man.....vernahm)。

(註五八) hinabbliden は瞰下するにて hinaufbliden は見上げる也。—— von wo aus は眼線の出發點を示す。—— die ferne Brandung des Meeres は遙か遠方の海上に於ける澎湃たる波浪の音なり。—— und dann は「而して夫より」にて即ち「次に」なり。—— ein kohlschwarzes Gewölk の kohlschwarz は石炭の如く眞黒なる色なり、Gewölk は雲の集合名詞にして一群の雲の意。—— sich lagern は割營する意よりして其場所に駐まる雲の靉靄たるを云ふ。—— von Zeit zu Zeit は成語にして折々、時々之意。—— vernahmen, hören は共に聞くと譯するけれども hören は單に或物單に吾人の耳に或印象をなす時に其響を聞くを云ひ vernahmen は進んで其印象をなせしものを區別して其物を知覺認識するを云ふ即ち本例に於て ein Murmeln を hören してそれを dumpf なりと知覺するが如し。—— Vernunft (理性) と云ふ語が此の vernahmen より來りたるは殊に注意すべきなり。

Als er sich wieder nach Wilm umfah, hatte dieser bereits die arme Kuh an den Stein gebunden und stand mit aufgehobener Axt im Begriff, das gute Tier zu fällen.

(譯) 再び (wieder) ウキルムの方を [如何にと] (nach Wilm) 見廻はせば (sich umfah) 此者は (dieser) 既に (bereits)

憐れな牝牛を (die arme Kuh) 石に (an den Stein) 結び附
け終つて (hatte.....gebunden) 今や斧を振り上げて (mit
aufgehobener Axt) 此罪なき動物を (das gute Tier) 將さに
切り倒さんとして居た (stand im Begriff zu fällen)。

(註五九) wieder は sich umfah に係る即ち彼は牝牛の嗉
ゆるを見兼ねて落つる涙を拭かんとて顔を反けたるが
Wilm はいかにすらんと Wilm の方に再び見反りたる也。
— 或物を何々に結び附けるは etwas (四格) an etwas
(四格) binden なり。— mit aufgehobener Axt は「振り上げ
たる斧を以て」にて即ち斧を振り上げて也。— im Begriff
stehen.....zu は「將に何々せんとす」と其意向を示すなり、
(自修後 2 16 の 28)。— das gute Tier の gute 通常善良
と譯すべきも茲にては善良と云はんよりは寧ろ何の殺さる
べき罪もなくして殺さるゝ罪なき不憫なるの意なり。—
fällen は倒す fallen は倒れる、落つるなり (文法 2 288 に
就き此の種の動詞を知れ)。

Dies war zu viel für seinen Entschluß, sich
in den Willen seines Freundes zu fügen.
Mit gerungenen Händen stürzte er sich auf
die Knie.

(譯) フアルケは一度自分の友人の意志に (in den Willen
seines Freundes) 従はんと (sich zu fügen) 決心はしたもので

(für seinen Entschluß) 目の當り此有様を見ては (dies) 實に
忍び兼ね (war zu viel) 両手をふり上げて (mit gerungenen
Händen) あわたいしく跪まついた (stürzte er sich auf die
Knie)。

(註六〇) dies war zu viel für seinen Entschluß は直譯す
れば「彼の決心に對して餘りに多すぎた」即ち「彼の決心は
之を忍び得る程に強くなかつた」也、sich 以下 zu fügen
迄は seinen Entschluß の説明也。— sich in jß. Willen fügen
誰々の意志に従ふ也、sich in etwas fügen (何々に従ふ)。—
mit gerungenen Händen 振り下す斧の下に牛を掩はんとし
て「手を悶く」なり、西洋にては落膽絶望の時は往々手を悶
くことあり。— sich auf die Knie stürzen は急激に跪坐す
る也、stürzen に急激に倒れる、座するの意あり。

„Um Gottes willen, Wilm Falke!“ schrie
er mit der Stimme der Verzweiflung,
„schone dich, schon die Kuh! schon dich
und mich, schon deine Seele! — Schone dein
Leben! Und mußt du Gott so versuchen,
so warte bis morgen und opfere lieber ein
anderes Tier, als unsere liebe Kuh!“

(譯) 彼は (er) 絶望の聲を擧げて (mit der Stimme der

Verzweiflung) 「御生だから (Um Gottes willen) ウキルム
 フアルケよ、汝を助けよ (schone dich!), 此牝牛を助けよ
 (schone die Kuh!), 汝と私とを助けよ (schone dich und mich!)
 汝の精霊を助けよ (schone deine Seele!), — 汝の命を助
 けよ (schone dein Leben!), [什麼しても] (mußt) 汝が神様を
 (Gott) 恣に (so) 試めさねばならぬと (mußt versuchen)
 なら明朝迄 (bis morgen) 待つて私達の愛らしき牝牛よりは
 (als unsere liebe Kuh) 寧ろ (lieber) 他の動物を (ein anderes
 Tier) 犠牲にせよ (opfere)」と叫んだ (schrie)。

(註六一) Um Gottes willen に就きては五の三五を見
 よ。— Falke とのみ言はずして、Wilm Falke と叫びた
 る、カスバルの内心の眞摯と崇嚴と迫まれる心の状態を示
 して鬼氣人に迫る、注意すべし、「神を試む」新約聖書路加
 傳四の二、馬太傳四の一、七、馬可傳一の十三に惡魔來り
 て基督に宮殿の頂より地上に飛び降りよ神は天使をして汝
 の足の地に觸れざる様保護せしめんと云ひたるに答へて
 「神を試むる勿れ」と答へると對照して其意義を知るべし。
 — schonen は勞はる、惜むの意あり。

„Kaspar, bist du toll?“ schrie Wilm wie
 ein Wahnsinniger, indem er noch immer die
 Axt in der Höhe geschwungen hielt. „Soll ich
 die Kuh schonen und verhungern?“

(譯) ウキルムは依然 (noch immer) 斧を空に振り上げた
 まい (indem er die Axt in der Höhe geschwungen hielt)
 狂人の如くに (wie ein Wahnsinniger) 「カスバルよ、汝は
 氣でも狂ふて居はせぬか (bist du toll?) 此牝牛を助けて
 (soll ich die Kuh schonen) 私に餓死せよと言ふのか (soll ich
 verhungern?)」と叫んだ (schrie)。

(六註二) Wahnsinn は狂氣、wahnsinnig は其形容詞
 Wahnsinniger は形容詞的名詞にして定冠詞を附すれば der
 Wahnsinnige (男性)、die Wahnsinnige (女性) 不定冠詞を附
 すれば ein Wahnsinniger (男性)、eine Wahnsinnige (女性)
 となる (文法 291)。— die Axt in der Höhe geschwungen
 hielt は直譯すれば「斧を空中に振り上げて保つ」にて即ち斧
 を空中に振り上げたまいなり。— indem は「……し乍ら」
 なり。— soll ich…… は willst du, daß の意「……と言ふ
 のか」と先方の意向を問ひ質すなり。

(評) Kaspar 叫び次に亦 Wilm 叫ぶ必迫の光景手に取
 るが如し。

„Du sollst nicht verhungern,“ antwortete
 Kaspar entschlossen. „So lange ich Hände
 habe, sollst du nicht verhungern. Ich will
 vom Morgen bis in die Nacht für dich
 arbeiten. Nur bring' dich nicht um deiner

Seele Seligkeit, und laß mir das arme Tier leben!"

(譯) カスバルは確乎として (entschlossen) 「汝を餓死させはしない (du sollst nicht verhungern) 私に雙つの手がある (ich Hände habe) 間 (so lange) 汝に餓死はさせぬ (sollst du nicht verhungern) 私は朝から深夜に至る迄 (vom Morgen bis in die Nacht) 汝を養ふ爲めに (für dich) 働かう (ich will arbeiten) [其方面の心配はないから] 只 (nur) 汝の精靈の幸福を失はず (bringe dich nicht um deiner Seele Seligkeit) 御生だから (mir) 此可愛相な動物は (das arme Tiere) 生かして置いて呉れ (laß.....leben) と答へた (antwortete)。

(註六三) du sollst nicht verhungern は ich will dich nicht verhungern lassen と同じ此 will は意志を示すなり (此れと類似の言ひ方は四の九九にあり参考すべし)。—— vom Morgen bis in die Nacht 早朝より深夜に至る迄、朝は夙に起き夜は遅く寐ぬの義。—— für dich は汝の爲め也然るに Wilm は今や食に餓え可愛の牝牛をも殺さんとする程の時なるを以て茲にては即ち其食物の爲めの意なり。—— einen um etwas bringen は或人の物を奪ふ茲にては einen の代りに sich um etwas bringen となれるを以て自分の或物を奪ふ即ち或物を失ふ意。—— um deiner Seele Seligkeit は um die Seligkeit deiner Seele なり。—— laß

mir das arme Tier leben の mir は für mich の意にて何卒私の爲めと思ふて、後生だからの意。

„Dann nimm die Axt und spalte mir den Kopf,“ schrie Falke mit verzweifelttem Tone, „ich gehe nicht von diesem Fleck, bis ich habe, was ich verlange.“

(譯) フアルケは絶望の調子で (mit verzweifelttem Tone) 「夫れならば (dann) 此斧を執つて (nimm die Axt und) 私の頭を打ち割れよ (spalte mir den Kopf) 私は欲するものを (was ich verlange) 得る迄は (bis ich habe) 此場を去らぬ (ich gehe nicht von diesem Fleck)。

(註六四) spalte mir den Kopf の mir は für mich の意に非ず mir den Kopf にて meinen Kopf の意。—— ich gehe nicht von diesem Fleck を直譯すれば「私は此場所より去らぬ」にて即ち私は此處を立ち退かぬの意。

— Kannst du die Schätze des Carmilhan für mich heben? Können deine Hände mehr erwerben als die elendesten Bedürfnisse des Lebens? — Aber sie können meinen Jammer enden — komm, und laß mich das Opfer sein!"

(譯) 汝は私の爲めにカルミルハンの寶を (die Schätze des Carmilham für mich) 掘り上げることが出来るか (Kannst du heben) 汝の兩手には (deine Hände) 取るに足らぬ日常の必需品 (die elendesten Bedürfnisse des Lebens) より以上を (mehr.....als) 儲ける (erwerben) 力があるか、—— 夫れとは異なり (aber) 汝の兩手は (sie) 私の不幸を (meinen Jammer) 止める力がある (können enden) きーさー (komm und) 私を (mich) 其の犠牲 (das Opfer) たらしめよ (laß.....sein)。

(註六五) die elendesten Bedürfnisse des Lebens には Wohnung (住)、Kleidung (衣)、Nahrung (食) の三あるは勿論なりと雖も今茲にては主に Nahrung を指す、Kaspar が vom Morgen bis in die Nacht arbeiten すれば兩人の Nahrung 位は elend と云ふ程に至らざるべきも Wilm の眼中カルミルハンの寶のみありて他なき時なるを以て die elendesten Bedürfnisse des Lebens と言切つて友人の親切を酌む餘裕なきなり。—— aber sie können..... の sie は上の deine Hände を指す而して全文の意は「汝の兩手は取るに足らぬ日常の必需品以上のものは儲けられぬが汝の手は私の不幸を止めることが出来る」(即ち汝が私を殺してくれれば)。—— komm und は「きーさー」と人を促す時に云ふ意味は「きーさー私を殺して犠牲にせよ」。—— laß mich das Opfer sein! は牝牛を殺すと云ふなら私を殺して其犠牲とせよとなり。

„Wilm, töte die Kuh, töte mich! Es liegt mir nichts daran, es ist mir ja nur um deine Seligkeit zu tun. Ach! dies ist ja der Pfitenaltar, und das Opfer, was du bringen willst, gehört der Finsternis.“

(譯) 「ウキルムよ、此牝牛を (die Kuh) 殺せ (töte)、私を殺せ! 牝牛を殺し私の殺さるゝは (daran) 何でもない (es liegt mir nichts [daran]) 只私の氣遣ふのは實に汝の幸福のみ (es ist mir ja nur um deine Seligkeit zu tun) 噫! 止みぬる哉 (ja) 此處はピクテンの祭壇にして (dies ist ja der Pfitenaltar, und) 汝の捧げんとする (was du bringen willst) 犠牲は (das Opfer) 冥界に (der Finsternis) 屬す (gehört)。

(註六六) es liegt mir nichts daran (自修、後 28, 3 及び文法 248 を見よ) の es は虚字にして別に意義なく唯だ文法上主格として存在するのみ事實上の主語は寧ろ daran 中にあり daran は即ち上文を承けたるものにして牝牛と共に自分 (Kaspar) の殺さるゝことを云ふ、之れを詳しく書き換ふれば es liegt mir nichts daran, daß du die Kuh und mich tötest なり。—— es ist mir ja nur um deine Seligkeit zu tun は直譯すれば「私にとりては (mir) 只だ (nur) 汝の幸福について (um deine Seligkeit) 懸念する (es ist.....zu tun) 許りだ (ja nur)」にて只私の氣遣ふのは汝の幸福のみ

と云ふ意、*Seligkeit* は「幸福」なれども本来は「精霊の救済」と云ふ意也「幸福」は其結果也。——ヒクテン人は紀元前今日の蘇克士蘭人の祖先なるスコーテン人と共に住みたる英國北部の住民なり、彼等は基督教徒より言へば未だ眞の神を信ぜざる民故其の犠牲も冥界に屬すべきものなり。

„Ich weiß von nichts dergleichen,“ rief Falke wild lachend, wie einer, der entschlossen ist, nichts wissen zu wollen, was ihn von seinem Vorsatz abbringen könnte.

(譯) *フアルケ* は 自分の企畫を翻さしめんとする如うな事 (was ihn von seinem Vorsatz abbringen könnte) は 耳にもかけまい (nichts wissen zu wollen) と決心した (entschlossen ist) 人の如うに (wie einer, der) 荒々しげにカラカラと笑ひながら (wild lachend) 「そんなことは些とも知らぬ (Ich weiß von nichts dergleichen)」と叫んだ (rief)。

(註六七) *von nichts dergleichen* は左様なることは少しもの意。——*nichts wissen wollen* は力めて知るを欲せざる意。茲の *wissen* は寧ろ *erhören* (聞入れる) の意なり、*nichts* は *was ihn.....* の *was* を承けのことについては何にもと云ふ意。——*in. von etwas abbringen* は或人をして或事を止めさせる、或事より轉ぜしむるを云ふ、*in. von seiner*

Meinung abbringen は或人を變説させるなり、又 *könnte* はでもすることの出来やうとの意、接續法なり。

„Kaspar, du bist toll und machst mich toll — aber da,“ fuhr er fort, indem er das Beil von sich warf und das Messer vom Steine aufnahm, wie wenn er sich durchstoßen wollte, „da behalte die Ruh statt meiner!“

(譯) 「カスパーよ、汝は狂氣である (du bist toll) 而して私をも狂氣にする (machst mich toll) ——併し夫れでは (aber da)」と *フアルケ* は斧を投げ出し (indem er das Beil von sich warf) 自らを貫かんとするものの如く (wie wenn er sich durchstoßen wollte) 石の上より (vom Steine) 小刀を (das Messer) 執り上げ (aufnahm) 夫れでは私を助ける代りに (statt meiner) 此牝牛を助けよ (behalte die Ruh)」と言葉を繼げた (fuhr er fort)。

(註六八) *das Beil von sich warf* は手に持ちし斧を投げ出す也。——*sich durchstoßen* は自身を貫き殺す也、*wie wenn* は *als ob* に同じ(五七)。——*behalte die Ruh* は牝牛を保存せよにて即ち生かして置けとのこと *statt meiner* は *statt du mich behältest* と意同じ、*statt* は二格支配の前置詞なり。

Raspar war in einem Augenblick bei ihm, riß ihm das Mordwerkzeug aus der Hand, er faßte das Beil, schwang es hoch in die Luft und ließ es mit solcher Gewalt auf des geliebten Tiers Kopf fallen, daß es ohne zu zucken und tot zu seines Herrn Füßen niederstürzte.

(譯) カスパルはフアルケの側へ飛んで行き (war in einem Augenblick bei ihm) 彼の手より (aus der Hand) 凶器をもぎ執り (riß ihm das Mordwerkzeug) 自ら斧を執つて (erfaßte das Beil)、高く振り上げ (schwang es hoch in die Luft) 非常な勢を以て (mit solcher Gewalt....., daß) 愛する動物の頭上に (auf des geliebten Tiers Kopf) 下した (ließ es fallen) [れば無惨や? 牝牛は (es) 輕擧もせず] に (ohne zu zucken) 死んで (tot) 彼の主人の足許に (zu seines Herrn Füßen) 倒れた (stürzte)。

(註六九) R. war in einem Augenblick bei ihm は「カスパルが瞬間に (in einem Augenblick) フアルケの側にあつた」にて即ちフアルケの側に飛んで行くなり。——jm. etwas abreißen は或人より物を奪ひ取る意。——das Mordwerkzeug は殺人に用ひる道具にて茲にては即ち das Messer (小刀) を云ふ。——schwang es hoch in die Luft はin

die Höhe と同じく高く振り上げる意。——ließ es mit solcher Gewalt auf des geliebten Tiers Kopf fallen, daß es ohne zu zucken und tot zu seines Herrn Füßen niederstürzte 此動物が (es) けいれんも起さず死んで自分の足下に倒れた程の勢を以て (mit solcher Gewalt....., daß) 愛する動物の頭上に斧を下した。也、注意: daß 以下は文法上より論ずれば結果を示す副文章なるが故に本文の如く譯するも決して誤謬に非ず。——auf des geliebten Tiers Kopf は auf den Kopf des geliebten Tiers なり。

Ein Blick, begleitet von einem Donnerschlage, folgte dieser raschen Handlung, und Falke starrte seinen Freund mit den Augen an, womit ein Mann ein Kind anstauen würde, das sich das zu tun getraute, was er selbst nicht gewagt.

(譯) 雷鳴をともなへる (begleitet von einem Donnerschlage) 電光が (ein Blick) 此急激なる活劇に (dieser raschen Handlung) 次いで起つた (folgte) 而してフアルケは大人が (ein Mann) 自分が成す氣になれなかつた程の事を (das, was er selbst nicht gewagt) 成し遂げた (sich zu tun getraute) 小兒を驚き眺むる時の如うな (womit.....anstauen würde) 眼附で (mit den Augen) 自分の友人を (seinen Freund) 凝視(ミツ)めた (staunte.....an)。

(註七〇) begleitet von einem Donner Schlag (雷鳴に依りて伴はれたる) は ein Blick の形容句と見るべし。— im. (einer Sache) folgen は或人又は事に續くを云ふ。— das sich zu tun getraute の getraute は wußte と同意にして……をなすべき術を知つて居た、即ち……をなし遂げ得たり。

Strumpf schien aber weder von dem Donner erschreckt, noch durch das starre Erstaunen seines Gefährten außer Fassung gebracht, sondern fiel, ohne ein Wort zu reden, über die Kuh her und fing an, ihr die Haut abzuziehen.

(譯) 併しストルンプは雷鳴に驚さることもなく (weder von dem Donner erschreckt) 亦、友人の固くなつた驚愕の爲めに (durch das starre Erstaunen) 氣を失ふことなく (noch……außer Fassung gebracht) 一言も口にせず (ohne ein Wort zu reden) 牝牛の上に掩はれかゝり (über die Kuh her) 其皮をはぎ (ihr die Haut abzuziehen) 始めた (fing an)。

(註七一) weder……, noch は……でもなければ、又……でもなしとの意、weder von dem Donner erschreckt, noch durch das starre Erstaunen……gebracht に於て von dem Donner と durch das Erstaunen seines Gefährten とは相

對照して共に原因を言ひ表はし erschreckt と außer Fassung gebracht とも相對照せり、weder……, noch……の反對は entweder……, oder……なり。— im. außer Fassung bringen は或人をして正氣を失はしむるを云ふ。— ohne ein Wort zu reden は之を書き換ふれば ohne daß er ein Wort redete なり。— anfangen + Infinitiv は邦語にて「……し初む」に當る。— ihr (der Kuh) die Haut abzuziehen は ihre Haut abzuziehen の意なり。

Als Wilhelm sich einwenig erholt hatte, half er ihm in diesem Geschäfte, aber mit so sichtbarem Widerwillen, als er vorher begierig gewesen war, das Opfer vollendet zu sehen.

(譯) ウィルムが少しく (einwenig) 元氣ついた (sich erholt hatte) 時 (als) カスパルを助て皮を剥いた (half er ihm in diesem Geschäfte) 併し (aber) これまで (vorher) 犠牲を了えて終はんと (das Opfer vollendet zu sehen) あせつた (begierig gewesen war) に反して今度はいやいややつてるのが眼に就く程である (mit so sichtbarem Widerwillen)。

(註七二) sich (wieder) erholen は恢復する、元氣づくなり普通 wieder を伴ふこれ再び舊の健康體に復するを云ふなり。— half er ihm in diesem Geschäfte ウィルム (er)

は此仕事に於て (in diesem Geschäft = ihr die Haut ab-
 ziehen 牝牛の皮を脱ぐ事に於て) カスパルに (ihm) 手傳
 ひした (half), (helfen に就きては註三七を見よ)。— mit
 so sichtbarem Widerwillen, als er vorher begierig gewesen
 war, das Opfer vollendet zu sehen 「彼が以前 (vorher) 犠
 牲を (das Opfer) 了せんことを (.....vollent zu sehen) 熱
 心に欲して居たと (begierig gewesen war) 同じき (so) 眼に
 つく程嫌厭の情を以て (mit sichtbarem widerwillen)」即ち
 以前は犠牲を了えて終はんとやきもきしたが今度はまた皮
 を剥ぐのを非常に厭がつてる、其やきもきした度と嫌厭の
 情の程度とが等しいのである。— begierig sein nach etwas
 od. zu.....は何々したがる意。

Während dieser Arbeit hatte sich das Gewitter
 zusammengezogen, der Donner brüllte laut im
 Gebirge, und furchtbare Blitze schlängelten sich
 um den Stein und über das Moos der Schlucht
 hin, während der Wind, welcher diese Höhe
 noch nicht erreicht hatte, die unteren Täler
 und das Gestade mit wildem Heulen erfüllte.

(譯) 此仕事に従事してゐる間に (während dieser Arbeit)
 暴風雨に伴ふ雲 (das Gewitter) 密に成り (hatte sich zu-

sammengezogen) 雷公は (der Donner) 聲高く (laut) 山中に
 唸り (brüllte im Gebirge) 物凄き電光は (furchtbare Blitze)
 石の周圍に (um den Stein) 曲折し (schlängelten sich) 谿間
 の苔の末に消えて行く (über das Moos der Schlucht hin)
 更に (während) 風は[如何にと云ふに]未だ (noch) 此高地へ
 は達せざりし (diese Höhe nicht erreicht hatte) が故に下な
 る谷間 (die unteren Täler) 及び海岸 (das Gestade) を荒々
 しき叫聲を以て (mit wildem Heulen) 充した (erfüllte)。

(註七三) das Gewitter zieht sich zusammen は暴風雨の
 起るを云ふ、されど茲にては暴風雨の前に暗雲が天を掩ひ
 凄じき光景を呈するを云ふ、(sich zusammenziehen に就き
 ては五一を参考せよ)。— brüllen は前にも述べし如く
 (五七) 鹿、獅子、虎等の鳴聲にして此等動物の哮聲の如く
 雷鳴するを der Donner brüllt と云ふ。— sich schlängeln
 迂餘曲折、河川平野を流れ庭中の小徑迂餘曲折するが如き
 皆 sich schlängeln 也、例へば Der Weg schlängelt sich durch
 den Garten 徑は庭中を迂餘す、Der Fluß schlängelt sich
 durch blumenreiche Wiese 川は花多き草原を曲折して流る。

Und als die Haut endlich abgezogen war,
 fanden beide Fischer sich schon bis auf die
 Haut durchnäßt. Sie breiteten jene auf den
 Boden aus, und Kaspar wickelte und band

Falken, so wie dieser es ihn geheißen, in derselben fest ein.

(譯) 遂に (endlich) [牝牛の]皮が (die Haut) 剥がれた (abgezogen war) 時 (als)、氣がついて見れば (fanden sich) 兩人の漁師は (beide Fischer) 皮膚迄濡れて居た (bis auf die Haut durchnäßt) 兩人は (sie) 剥いだ例の皮を (jene) 地上に (auf dem Boden) 廣げ (breiteten.....aus) カスパルは フアルケ (dieser) 命令通り (so wie es ihn geheißen) フアルケ を (Falken) 其皮の内へ (in derselben) 巻いて (wickelte und) 堅(シツ)かりと (ich) 縛り込んだ (band ein)。

(註七四) bis auf die Haut durchnäßt は「びつしより濡れて」といふ形容句なり、bis auf die Haut naß werden, durch und durch naß werden, ganz naß werden は何れも「びつしより濡れる」と云ふ意。—— fanden sich bis auf die Haut durchnäßt は直譯すれば「びつしより濡れて見出した」にて即ち「氣が附いて見たらびつしより濡れて居た」との義。—— Falken は Falke の四格なり、固有名詞の三格四格に en の語尾を附するは舊式にして今は用ゐられず尙ほ詳しくは文法自修書前篇一一四頁固有名詞の變化の條を参照。—— wie er.....geheißen の次には hatte が略されたるなり。—— in.....heißen は「或人に何々を命ずる」なり、

例へば in. gehen heißen は「或人に行けと命ずる」の如し、(文法 § 161. IV. 註一)。

Dann erst, als dies geschehen war, brach der arme Mensch das lange Stillschweigen, und indem er mitleidig auf seinen betörten Freund hinablickte, fragte er mit zitternder Stimme: „Kann ich noch etwas für dich tun, Wilm?“

(譯) これが済んで (als dies geschehen war) 後始めて (dann erst) 此可愛相な人間(カスパル)は (der arme Mensch) 同情を以て (mitleidig) 自分の迷へる朋友を見下ろし (auf seinen betörten Freund hinablickte) 聲振らせて (mit zitternder Stimme) 「ウキルムよ、まだ何か用事はないか (Kann ich noch etwas für dich tun, Wilm)」と尋ねた (fragte er)。

(註七五) als dies geschehen war は上文 Sie breiteten jene.....in derselben fest ein を承く之を直譯すれば「此事が起つてしまつた時」にて即ち此事が済んだこととなる。—— mitleidig は Mitleid (同情、憐憫) より來る、Leid は悲哀にて mit は共にする意。—— auf in. hinablicken 或人を見下す、即ち R. は立つて下に横はる W. を見下ろしたるなり。—— Kann ich noch etwas für dich tun? 「未だ何か (etwas) 汝の爲めに (für dich) することが出来るか (kann

ich tun) で意味は「未だ此の外私の出来ることで汝の爲めになることがあるか、あれば出来ることなら仕てやるから言へ」。

„Nichts mehr“ erwiderte der andere, „Lebewohl!“

„Lebewohl,“ erwiderte Kaspar, „Gott sei mit dir, und vergebe dir, wie ich es tue!“

(譯) 「最う何んにも [ない] (nichts mehr)、「おさらば (lebewohl)」「對方は (der andere) 答えた (erwiderte)。

「おさらば、神が汝と共にあり (Gott sei mit dir)、「余のゆるす如く (wie ich es tue) 神の汝をゆるさんことを祈る (vergebe dir)」「カスパーは曰つた (erwiderte)。

(註七六) lebewohl は直譯すれば「健全に生活せよ」にて即ち「健在なれ」と云ふ別れの挨拶なり、然れども之は直ちに再會の機なき人に對し云ふ言葉にして日常の挨拶にて「左様なら」は auf Wiedersehen, adieu 等なり。—— Gott sei mit dir は「神汝と共にあれ」との願意、神汝と共にありて汝が身の上を守り給へかしの意。—— vergebe dir 汝を免せ、im. vergeben は或人を免す、は或人の罪を免す、im. entschuldigen は或人の過失を免す、im. etwas od. zu..... erlauben は或人に何々するを許す。

Dies waren die letzten Worte, welche Wilm von ihm hörte, denn im nächsten Augenblick war er in der immer zunehmenden Dunkelheit verschwunden.

(譯) これが (dies) ウキルムがカスパーより (von ihm) 聞いた (hörte) 最後の挨拶 (die letzten Worte) であつた (waren) 瞬くひまに (im nächsten Augenblick) カスパーは (er) 絶えず其度を増し來る暗黒の内に (in der immer zunehmenden Dunkelheit) 消えて見えなくなつた (war verschwunden)。

(註七七) die Worte は複數にして文章の意味なり、單語と云意の時は Wörter なり混同す可らず (文法 § 43 注意二を見よ)。—— den Augenblick, im Augenblick, in einem Augenblick, augenblicklich, im nächsten Augenblick 何れも瞬間にの意。—— in der immer zunehmenden Dunkelheit は in der Dunkelheit (暗黒の中に) の間に immer zunehmenden (益々其度を増す所の) を挾みたるものなり。—— in etwas (三格) verschwinden は何々の中に消失する、隠れるなり。

Und in demselben Augenblick brach auch einer der fürchterlichsten Gewitterstürme, die Wilm je gehört hatte, aus.

(譯) 此れと同時に (in demselben Augenblick) 又 (auch) 最も恐ろしき雷鳴電光をともなへる暴風雨が (einer der fürchterlichsten Gewitterstürme, die Wilm je gehört hatte) 俄然起つた (brach.....aus)。

(註七八) in demselben Augenblick は直譯すれば「同一の瞬間に於て」(七七を見よ)。— einer der.....Gewitterstürme, die Wilm je gehört hatte ウキルムが是迄 (je) 聞いた (gehört hatte) 最も恐ろしき暴風雨の中の (der fürchterlichsten Gewitterstürme) 一つ (einer)。

Er fing an mit einem Blitze, welcher Falken nicht nur die Berge und Felsen in seiner unmittelbaren Nähe, sondern auch das Thal unter ihm, mit dem schäumenden Meere und den in der Bucht zerstreut liegenden Felseninseln zeigte, zwischen welchen er die Erscheinung eines großen fremdartigen und entmasteten Schiffes zu erblicken glaubte, welches auch im Augenblick wieder in der schwärzesten Dunkelheit verschwand.

(譯) 暴風雨は (er) 一條の電光を以て (mit einer Blitze) 始まつた (fing.....an) 此電光が (welcher) フアルケに

(Falken) 自分の直接近傍にある (in seiner unmittelbaren Nähe) 山岳岩石を (Berge und Felsen) 見せた (zeigte) のみならず亦 (nicht mir.....sondern auch) 自分の下にありて (unter ihm) 泡立てる海洋 (mit dem schäumenden Meere) 及び入江に (in der Bucht) 碁布散在する (zerstreut liegenden) 島嶼と (mit den.....Inseln) 一幅の畫中にある谷をも (auch das Thal) 示した (zeigte)、此等の島嶼の間に (zwischen welchen) 大きな (großen) 外國の (fremdartigen) 艦を取り去りたる (entmasteten) 船の (eines.....Schiffes) あらはるるを (die Erscheinung) 見る如うに思つた (zu erblicken glaubte) が瞬く間に (im Augenblick) 再び (wieder) 最も濃き暗黒の中に (in der schwärzesten Dunkelheit) 消えて無くなつた (verschwand)。

(註七九) er (der Gewittersturm) fing an mit einem Blitze 「暴風雨が一條の電光を以て始まつた」即ち ein Blitzが Gewittersturmの開幕をなすなり。— nicht nur....., sondern auch は「.....のみならず、亦.....」と云ふ時に用ふる形なり。— das Thal mit dem schäumenden Meere und den in der Bucht zerstreut liegenden Felseninseln を直譯すれば「泡立てる海洋と (mit dem schäumenden Meer) 入江に (in der Bucht) 碁布散布せる島嶼と (den.....zerstreut liegenden Felseninseln)」で mit は dem schäumenden Meer と den.....Felseninseln とに係る、und den in der Bucht zerstreut

liegenden Felseninseln の den の前には mit の略せられたるものにして又 in der Bucht zerstreut liegenden なる形容詞は mit den と Felseninseln との中に挟めるものなり(如斯冠詞と名詞との間に他の品詞を挟むことの出来るは獨逸語の特色なり自修後 8 106 に就きて研究すべし)。— zwischen welchen は zwischen den Felseninseln に同じ。— die Erscheinung 現れ出ること、姿、現象、動詞 erscheinen (現出する) より来る。— im Augenblick (七七、七八を見よ)。

Die Donnerschläge wurden ganz betäubend. Eine Masse Felsenstücke rollte vom Gebirge herab und drohte ihn zu erschlagen.

(譯) 雷鳴は (die Donnerschläge) 耳を聳する許りになつた (wurden ganz betäubend) 一團の岩石片が (eine Masse Felsenstücke) 山より (vom Gebirge) 轉がり下り (rollte herab) 彼を打ちこるすかと思はれた (drohte ihn zu erschlagen)。

(註八〇) betäubend は betäuben (襲ならしむる) の現在分詞 betäuben は taub (聳なる) なる形容詞より来る。— eine Masse Felsenstücke は意複數なれども形の上に於て單數なるを以て従つて其動詞も之れに伴ふ。— drohte ihn zu erschlagen, drohen は元來脅やかす意なるが drohen..... zu の如く Infinitiv を伴ふ時は「.....せんとす」のすに當る、例 es droht zu regnen (將に雨降らんとす) (廿六)。

Der Regen ergoß sich in solcher Menge, daß er in einem Augenblick das enge Sumpftal mit einer hohen Flut überströmte, welche bald bis zu Wilms Schultern hinaufreichte, denn in glücklicher Weise hatte ihn Kaspar mit dem oberen Teil des Körpers auf eine Erhöhung gelegt, sonst hätte er auf einmal ertrinken müssen.

(譯) 雨は篠を束れて (in solcher Menge) 降り灌ぎたれば (ergoß sich) 瞬く間に (in einem Augenblick) 狭き沼澤をなせる谷は (das enge Sumpftal) 高き潮に (mit einer hohen Flut) 漂ひぬ (überströmte) 而して此潮は (welche) 間もなく (bald) ウキルムの兩肩に (zu Wilms-Schultern) 達した (hinaufreichte)、カスパルはウキルムの腰から上を (ihn mit dem oberen Teil des Körpers) 高き所に (auf eine Erhöhung) 載せて置いた (hatte.....gelegt) から長かつたもの (denn glücklichweise) 夫れでなければ (sonst) ウキルムは忽ち (auf einmal) 溺死を免かれなかつたのである (hätte ertrinken müssen)。

註八一) der Regen ergoß sich in solcher Menge, daß er in einem Augenblick das enge Sumpftal mit einer hohen Flut überströmte は直譯すれば「雨は (der Regen) 彼れが (er)

瞬く間に (in einem Augenblick) 狭き沼澤をなせる谷を (das enge Sumpftal) 高き潮を以て (mit einer hohen Flut) 充溢せしめた (überströmte) 程の (daß) 左様の多量に於て (in solcher Menge) 降り灌いだ (ergoß sich) にて、daß より前は原因にて daß 以下は其結果なるを以て譯文の如く in solcher Menge を篠を束ねてとし daß を故にの意に譯する方繁雜を避け得て宜しとす。— ihn.....mit dem oberen Teil des Körpers は den oberen Teil seines Körpers の意。— auf einmal は忽然、偶然。— hätte ertrinken müssen は假設法にして müssen は違いないと譯す即ち溺死したに違ひなかつたらうよとの意。— hätte.....müssen と云ふ様な言ひ方に就きては自修後 99 特に müssen, sollen 等の處にて學ぶべし。

Das Wasser stieg immer höher, und je mehr Wilu sich anstrenzte, sich aus seiner gefahr-vollen Lage zu befreien, desto fester umgab ihn die Haut. Umsonst rief er nach Kaspar. Kaspar war weit weg.

(譯) 水は (das Wasser) 次第々々に高く (immer höher) 昇つて來た (stieg)、危険なる位置から (aus seiner gefahr-vollen Lage) 身を脱せんと (sich.....zu befreien) もがけばもがく程 (je mehr.....sich anstrenzte) 皮は (die Haut) 更に

固く (desto fester) 彼を緊き縮めた (umgab ihn) ウキルムは (er) カスパルを (nach Kaspar) 呼んで見たが (rief) 更に應へもない (umsonst)、カスパルは最早遠く離れて (weit weg) 居つたのである (war)。

(註八二) das Wasser steigen は増水するを云ひ又 das Wasser zunehmen と云ふこともある。— je mehr....., desto (=um so) fester..... は「.....すればする程益々しつかり」、je の次ぎにも desto の次ぎにも形容詞の比較級を置くものとす茲では je mehr (viel の比較級)、desto fester (fest の比較級)。— sich befreien aus..... は或境涯の中より身を救ひ出す意、sich befreien von etwas は何々を免れる意。— nach jm. rufen は或人を尋ね呼ぶなり。— umsonst は vergebens, vergeblich, erfolglos, ohne Erfolg の意「無効に何々した」とは「何々したけれども駄目だつた」の意 (卅三)。

Gott in seiner Not anzurufen, wagte er nicht, und ein Schauer ergriff ihn, wenn er die Mächte anflehen wollte, deren Gewalt er sich hingegeben fühlte.

(譯) 苦しき時の神頼み (Gott in seiner Not anzurufen) もやる氣にならなかつた (wagte er nicht) 而して自分が (er) 悪靈達 (die Mächte) に嘆願せんかと思つた (anflehen wollte)

時に (wenn) [思はず] ヲツトした (ein Schauer ergriff ihn) 此悪靈の勢力に (deren Gewalt) 自分は (er) 屈伏したやうに (hingegen) 感じて居つた (sich.....fühlte)。

(註八三) Gott in seiner Not anzurufen は直譯「苦境に於て (in seiner Not) 神を呼び掛くる (anrufen)」にて即ち邦語にて俗にいふ、「苦しき時の神頼み」に當る。— ein Schauer ergriff ihn は直譯「戦慄が彼を襲撃した」にて即ち彼が思はずぞつとする意。— deren Gewalt の deren は die Mächte の關係代名詞にして其意は der Gewalt der Mächte に同じ、im. (od. einer Sache) sich hingeben は或人又は或事に身を委する、即ち屈服するなり。

Schon drang ihm das Wasser in die Ohren, schon berührte es den Rand der Lippen. „Gott, ich bin verloren!“ schrie er, indem er einen Strom über sein Gesicht hinstürzen fühlte —

(譯) 水は (das Wasser) 既に (schon) 彼の耳へ (ihm in die Ohren) 這入り込んだ (drang) 水は (es) 既に兩唇の端に (den Rand der Lippen) 觸れた (berührte)、一浪 (einen Strom) 自分の顔の上を (über sein Gesicht) 通り越して行くを (über.....hinstürzen) 感じながら (fühlte) 「駄目だ (Gott, ich bin verloren!)」と叫んだ (schrie er)。

(註八四) das Wasser drang ihm in die Ohren は das Wasser drang in seine Ohren の意。— es berührte den Rand der Lippen は邦語に譯せば「水が兩唇の邊端に觸つた」なれど獨逸文にては「水が兩唇の邊端を觸つた」と云ふ蓋し berühren なる動詞が四格を支配するを以てなり。— indem er einen Strom über sein Gesicht hinstürzen fühlte を直譯すれば「彼は彼の顔の上に (über sein Gesicht) 落ち来る (hinstürzen) 一起の浪を (einen Strom) 覚え乍ら (indem er.....fühlte)」なり、即ち über sein Gesicht hinstürzen は einen Strom の形容句なるを見る、依て「彼は一起の波浪其顔上に落ち来るを覺えつゝ」と譯すべし。— Gott, ich bin verloren 神よ余は失はれぬ=萬事休矣。

aber in demselben Augenblick drang ein Schall, wie von einem nahen Wasserfall, schwach in sein Gehör, und sogleich war auch sein Mund wieder unbedeckt.

(譯) 併し之と同時に (in demselben Augenblick) 近くに
ある瀧の音の如うな (wie von einem nahen Wasserfall) 音が (ein Schall) 微かに (schwach) 彼に聞えて來た (drang in sein Gehör)、而して直ちに (sogleich) 自分の口も亦 (auch sein Mund) 水を離れた (war.....wieder unbedeckt)。

(註八五) in demselben Augenblick 七七、七八を見よ。

— wie von einem nahen Wasserfall は wie ein Schall von einem nahen Wasserfall の ein Schall を省きたるものなれば之を譯する時は ein Schall を入れて譯すべし。— war auch sein Mund wieder unbedeckt の unbedeckt は 掩はれず にて即ち水に掩はれざる意なれば war wieder unbedeckt にて「水を離れたる」こととなる。

Die Flut hatte sich durch das Gestein Bahn gebrochen. Und da zu gleicher Zeit der Regen etwas nachließ, und das tiefe Dunkel des Himmels sich etwas verzog, so ließ auch seine Verzweiflung nach, und es schien ihm ein Strahl der Hoffnung zurückzukehren.

(譯) 潮は (die Flut) 岩石の間に (durch das Gestein) 途を作つて流れ去つた (hatte sich.....Bahn gebrochen) 同時に (zu gleicher Zeit) 雨が (der Regen) 少し (etwas) 小降りになり (sich nachließ) 深き天の暗黒も (das tiefe Dunkel des Himmels) 少し (etwas) 薄らいだ (sich verzog) から (da) 彼の絶望の度も (auch seine Verzweiflung) 衰へた (so ließ.....nach) そうして一縷の希望の光が (ein Strahl der Hoffnung) 彼に歸り來た (zurückzukehren) やうに思はれた (es schien ihm)。

(註八六) sich Bahn brechen には二義あり、一は道を開くにして他は之より轉じて濫觴を開くの意に用ゐらる、茲にては第一の意義に用ゐらる。— zu gleicher Zeit は zugleich と同意の成語なり。— nachlassen は「等閑に附する」「衰ふる」の意。— sich verziehen は「止む」「消失する」にて das Getwitter verzieht sich は暴風雨の止むを云ひ、das Dunkel verzieht sich は暗黒が薄らぐを云ふ。— es scheint im.....zu..... は「或人に.....と思はれる」即ち或人が何となく如何々々と思ふことを云ふ。

Aber obgleich er sich wie von einem Todeskampfe erschöpft fühlte und sehulich wünschte, aus seiner Gefangenschaft erlöst zu sein, so war doch der Zweck seines Strebens noch nicht erreicht, und mit der verschwundenen, unmittelbaren Lebensgefahr kam auch die Habsucht mit all ihren Furien in seine Brust zurück.

(譯) 併し生命の取り遣りの戦 (Todeskampf) をやつた如うに (wie) [全然] 疲れ切つて (.....sich erschöpft.....fühlte) 連りに (sehulich) 自分の捕虜に均しき境遇より (aus seiner Gefangenschaft) 解放せられんことを (erlöst zu sein) 希望

した (wünschte) けれども (obgleich....., doch) 肝じんの望なき彼の努力の目的は (der Zweck seines verzweifelten Strebens) 未だ (noch) 達しなかつた (war.....nicht erreicht), 而して直接生命の危険がなくなると同時に (mit der verschwundenen unmittelbaren Lebensgefahr) 以前の慾心も亦むらむらと (mit allen ihren Furien) 自分の胸へ起つて來た (kam in seine Brust zurück)。

(註八七) obgleich er sich wie von einem Todeskampf erschöpft fühlte は直譯すれば「彼は生命の遣り取りの戦によりて (von einem Todeskampf) 疲れ果て、(erschöpft) 覺えた (sich fühlte) けれども (obgleich)」なり、sich.....fühlen は「氣がする」に當る、例 ich fühle mich kalt (寒氣がする)。—— sehlich は sich sehnen (慕ふ) なる動詞より來る。—— aus etwas erlöst (=befreit) sein は「或境遇を脱する」を云ふ。—— mit der verschwundenen unmittelbaren Lebensgefahr は直譯すれば「消失せる直接の生命に関する危険」なり。—— kam.....zurück 歸つて來た。—— auch die Habsucht 「例の慾心も亦」、次に zurückkommen (歸り來る) と曰ふ動詞あるが故に之に對して「以前」なる字を附加して意義を明瞭ならしめたり。—— Furien は Furie (暴怒或は復讐の女神又た暴怒、狂亂其のものを言ふ) の複數にて Habsucht mit all' ihren Furien 「凡ての暴怒を持たる慾心」とは慾心が怒り狂ふを言ふ即ち上文に「むらむらと」譯せり。

Aber überzeugt, daß er in seiner Lage ausharren müsse, um sein Ziel zu erreichen, hielt er sich ruhig und fiel vor Kälte und Ermüdung in einen festen Schlaf.

(譯) 併し自分の目的を達するには (um sein Ziel zu erreichen) 如何しても此位置に (in seiner Lage) 我慢して居らねばならぬ (ausharren müsse) ことを (daß) 自覺して居る (überzeugt) から、靜かに (ruhig) 身を處して居た (hielt er sich) が、寒氣と疲勞との爲めに (vor Kälte und Ermüdung) グツスリと寢込んでしまつた (fiel in einen tiefen Schlaf)。

(註八八) überzeugt, daß..... は直譯すれば「.....と云ふことを自覺して」にて da er überzeugt war, daß..... の意なり。—— in seiner Lage ausharren は「現今の状態に我慢して居る」意、又 im Unglück ausharren は「不幸の境遇に於て我慢する」なり。—— sich halten は身を處するを云ひ、sich ruhig halten は身を靜肅に處する意。—— vor Kälte 「寒氣の爲めに」、vor は原因を示す前置詞。—— fiel in einen tiefen Schlaf は直譯すれば「深き眠に落ちた」にて「グツスリ寢込む」事となる。

Er mochte ungefähr zwei Stunden geschlafen haben, als ihn ein kalter Wind, der ihm

übers Gesicht fuhr, und ein Rauschen, wie von herannahenden Meerestwogen, aus seiner glücklichen Selbstvergessenheit aufrüttelte.

(譯) 彼は約二時間も (ungefähr zwei Stunden) 寝て居たらう (mochte geschlafen haben)、其時 (als) 冷めたき風が (ein kalter Wind) 自分の顔を撫で (ihm übers Gesicht fuhr) 岸に打寄する海波の立つる如うな (wie von herannahenden Meerestwogen) 音がして (ein Rauschen) 幸福なる無可有の郷より (aus seiner glücklichen Selbstvergessenheit) 彼を揺り起した (.....ihn.....aufrüttelte)。

(註八九) ungefähr の類語には etwa, beinahe 等あり、詳しく云へば ungefähr は略ぼの意、etwa は約にて beinahe は殆んど(近し)なり。——mochte geschlafen haben 寝て居たらう mochte は mögen の過去形にして茲にては想像を示す。——der ihm übers Gesicht fuhr 顔の上を渡る風、ihm über Gesicht は über sein Gesicht の意。——aufrüttelte の主語は ein kalter Wind と ein Rauschen との二つなり之を合し一物と見做すが故に動詞は單數の形をとり、aufrüttelte とせり。

Der Himmel hatte sich aufs neue verfinstert.
Ein Blitz, wie der, welcher den ersten Sturm

herbeigeführt, erhellte noch einmal die Gegend umher, und er glaubte abermals, das fremde Schiff zu erblicken, das jetzt dicht vor der Steenfollklippe auf einer hohen Welle zu hängen und dann jählings in den Abgrund zu schießen schien.

(譯) 空は再び (aufs neue) 黒くなつた (hatte sich verfinstert) 最初の暴風雨を (den ersten Sturm) 導き來つた (herbeigeführt) 電光と同じやうな (wie der, welcher) 電光が (ein Blitz) 再び (noch einmal) 此地方を (die Gegend) 殘る隈なく照し渡つた (erhellte umher) 而してフアルケは (er) 再び (abermals) 例の外國船を (das fremde Schiff) 見る如うに (zu erblicken) 思つた (glaubte)、此船は (das) 今度は (jetzt) ステーンフォル断崖のすぐ前 (dicht vor der Steenfollklippe) に當り一條の高き波の上に (auf einer hohen Welle) 懸ると (zu hängen) 見えし (schien) が (und dann)、あつと思ふ間もなく (jählings) 矢を射るやうに海底へ沈み去りし如うに (in den Abgrund zu schießen) 思はれた (schien)。

(註九〇) aufs neue は再び、更に、新にの意。——sich verfinstern は「空模様暗黒となる」こと、Finsternis (暗黒) より來れる動詞なり。——umher は「邊り残らず」即ち殘

る隈なくの意なれど herum は周圍を巡る意なり。—— dicht は dicht vor....., dicht neben... .., dicht an..... など用ゐられ直譯すれば接近しての意なれば直ぐ前、側云々と譯すべし。—— in den Abgrund zu schießen schien 「海底に (in den Abgrund) 射るべく (zu schießen) 見えた (sahen)」は「弓矢の行く如く迅速に海底に沈むやうに見えた」の義。

Er starrte noch immer nach dem Phantom, denn ein unaufhörliches Blitzen hielt jetzt das Meer erleuchtet, als sich auf einmal eine berg hohe Wasserhose aus dem Tale erhob und ihn mit solcher Gewalt gegen einen Felsen schleuderte, daß ihm alle Sinne vergingen.

(譯) フアルケは (er) 電光絶えず閃めきて (ein unaufhörliches Blitzen) 今や (jetzt) 海面を (das Meer) 明かるくして居たから (hielt erleuchtet) 例の幻像が起りはせぬかと (nach dem Phantom) 瞬きもせずに見て居た (starrte) 其時 (als) 忽ち (auf einmal) 谷間より (aus dem Tale) 山と高き旋風(タツマキ) (eine berg hohe Wasserhose) 舞ひ上り (sich erhob) 非常な勢力を以て (mit solcher Gewalt) フアルケを (ihn) 岩角に (gegen einen Felsen) 投げつけた (schleuderte) れば (daß) フアルケは正氣を失ふた (ihm alle Sinne vergingen)。

(註九一) der Blitz と das Blitzen とを能く區別して讀む可し、上の文に於て ein unaufhörlicher Blitz と曰はば所謂ノーンセンス(無意味)成り了せん「電光」と曰ふは運動に非ずして寧ろ状態なり之に「止まざる」てふ形容詞は附す可くも非ず之に反して „Blitzen“ と云はば閃く電光の動作なり故に止むことあり止まざることあり之に unaufhörliches なる形容詞を附すもノーンセンスならず則ち「電光が絶えず閃きて」なり。—— hielt das Meer erleuchtet は直譯すれば「海を照して保つた」。

—— Starren は側目もふらず一圖に見詰むるを云ふ。—— daß ihm alle Sinne vergingen の直譯は「彼に凡ての感覺が消え去る」にて即ち彼が凡ての感覺を失ふを云ふ。

Als er wieder zu sich selbst kam, hatte sich das Wetter verzogen, der Himmel war heiter, aber das Wetterleuchten dauerte noch immer fort.

(譯) 己に歸つて見れば (als er wieder zu sich selbst kam) 暴風雨は衰へて (das Wetter hatte sich verzogen) 空は (der Himmel) 晴れ々々として居た (war heiter) 併し電光は (das Wetterleuchten) 相變らず (noch immer) 續いて閃いて居た (dauerte.....fort)。

(註九二) wieder zu sich selbst kommen は直譯すれば「再び自分に迄歸る」にて即ち 正氣付く を云ふ。—— das

Wetter verzieht sich (sich verziehen に就きては八六を参考せよ)、茲の Wetter は das Sturmwetter = das Gewitter の意なれば das Gewitter verzieht sich 暴風雨が止むと同意。
— das Wetterleuchten 電光の閃き = das Blitzen.

Er lag dicht am Fuße des Gebirges, welches dieses Tal umschloß, und er fühlte sich so zerschlagen, daß er sich kaum zu rühren vermochte.

(譯) 彼は此谷を (dieses Tal) 圍繞せる (welches umschloß) 山岳のちき麓に (dicht am Fuße des Gebirges) 横はつて居た (lag)、あちらの岩角こちらの樹根にぶつかつてきたので (er fühlte sich so zerschlagen) 身動きも出来ぬ程であつた (daß er sich kaum zu rühren vermochte)。

(註九三) am Fuße des Berges 山麓に。— er fühlte sich so zerschlagen 氣が付いて見ればくたくたに打たれて居た。— daß er sich kaum rühren vermochte の sich rühren は「自分を動かす」で「動く」の意、kaum は打消に同じ、vermochte は vermögen の過去にて können (能ふ) と同意なり、können と使用上異なる點は können は他の動詞の不定法と結合する際他の不定法に zu を附することを許さぬに反し vermögen は必ず zu を要するのである。

Er hörte das stillere Brausen der Brandung, und mitten drinnen eine feierliche Musik, wie Kirchengesang. Diese Töne waren anfangs so schwach, daß er sie für Täuschung hielt.

(譯) 彼は打ち寄する浪の靜なる澎湃を (das stillere Brausen der Brandung) 聞いた (hörte)、而して其真中に (mitten drinnen) 教會で歌ふ歌 (Kirchengesang) の如うに (wie) 崇嚴なる音樂を (eine feierliche Musik) 聞いた (hörte)、此等の音響は (diese Töne) 始めは (anfangs) 非常に弱かつた (waren so schwach) が爲めに (daß) 彼は (er) 之を (sie) 自分の空ら耳と (für seine Täuschung) 思つた (hielt) 程である (daß)。

(註九四) mitten drinnen (その真中に)、drinnen は in dem Brausen der Brandung の意。— so schwach, daß er sie für Täuschung hielt; so schwach, daß は「……程 (daß) 左様に (so) 弱く (schwach) ……」の意にて so schwach は原因にて daß 以下結果なれば斯かる場合には so は sehr の意にして「非常に弱く……、夫故に……」と譯すべし sie は die Töne なり。— einen (od. etwas) für etwas halten 或人又は或物を何々と思ふ (三の五二頁、六〇頁。四の七六等)。

Aber sie ließen sich immer wieder aufs neue

vernehmen, und jedesmal deutlicher und näher, und es schien ihm zuletzt, als könne er darin die Melodie eines Psalms unterscheiden, die er im vorigen Sommer an Bord eines holländischen Heringfängers gehört hatte.

(譯) 併し此等の音響は (sie) 繰り返し繰り返し (immer wieder) 新たに (aufs neue) 聞えて来て (ließen sich vernehmen, und) 其度毎に (jedesmal) 明かになり且近づいて来て (deutlicher und näher) 遂には (zuletzt) [自分が] 昨年の夏 (im vorigen Sommer) 和蘭の鯨魚捕の船の上で (an Bord) 聞いた (gehört hatte) 讚美歌のメロディーが (die Melodie eines Psalms) 其内に (darin) [交つて居るのを] 聞き分け得る如うに (als könne er unterscheiden) 思はれた (es schien ihm)。

(註九五) vernehmen は前にも述べし如く hören したものを知覚、認識するを云ふ、sich vernehmen lassen は「自身を聞かしむる」にして即ち「聞こえる」なり (五の二二等を参考)。— als könne er darin die Melodie eines Psalms unterscheiden; als könne..... は als ob er..... unterscheiden könne と同じ (三の三頁。四の四二、四六、六三、一七一、五二。五の十一、十八、二八、五七)、darin は in den Tönen にして即ち波浪の澎湃たる音響中に讚美歌の音律の交ざり居

るを識別するなり、Psalm は舊約聖書の詩編を言ふ。— an Bord..... は又何々船にて(航す)といふ場合に用ゐらる、例 Er geht am Bord Minnesoda nach Amerika (彼はミネソダ號に乗り渡米す)。

Endlich unterschied er sogar Stimmen, und es dächte ihm, als vernehme er sogar die Worte jenes Liedes.

(譯) 遂には (endlich) 人々の聲々すらも (sogar Stimmen) 解り (unterschied) 自分には例の讚美歌の文句すらも (sogar die Worte jenes Liedes) 聞く如うに (als vernehme er) 思はれた (es dächte ihm)。

(註九六) unterschied er sogar Stimmen 那れは甲の人聲這れは乙の人の聲と區別が出来た。— es dächte ihm 思はれた、es schien ihm も同じく思はれたと譯するが dünken の方は自己心中何となく我が思ふ様をいひ scheinen は外部事件に對する表面的觀察なり。— jenes Liedes 例の歌の、die Worte は語句又は文句なり、die Wörter 一語二語といふ語の複數) と混同すべからず (文法 243、註二、等を参考せよ)。

Die Stimmen waren jetzt in dem Tale, und als er sich mit Mühe zu einem Stein hin-

geschoben, auf den er den Kopf legte, erblickte er wirklich einen Zug von menschlichen Gestalten, von welchen diese Musik ausging, und der sich gerade auf ihn zu bewegte.

(譯) 聲は (die Stimmen) 今や (jezt) 谷間へ這入つて来た (waren in dem Tale) 苦心して (mit Mühe) 一つの石の側へ (zu einem Stein) すり行き (sich hingeschoben) 其上へ (auf den) 頭を載せて (den Kopf legte) 見れば (erblickte er) 人間らしきものゝ行列 (einen Zug von menschlichen Gestalten) が来る、例の音楽は (diese Musik) 此行列から (von welchen) 来るので (ausging)、此行列は (der) 當に (gerade) 自分の方に向つて (auf ihn zu) 動いて来た (..... sich bewegte)。

(註九七) die Stimmen waren jetzt im Tale を直譯すれば「聲々は (die Stimmen) 今や (jezt) 谷間に (im Tale) あつた (waren)」にして最早谷間にありて聞えたるなり。——erblickte er einen Zug von menschlichen Gestalten を直譯すれば「彼は人間の體を具へたる者の行列を見た」にて即ち「人間らしき者の行列の来るを見る」、Zug は ziehen (曳く) なる動詞より来るによりて其意知るべし。—— sich auf ihn zu bewegte 彼に向つて動いた、auf は目的を示し zu は其到着點を示す、即ち彼を目がけて行き彼に達して止む

意なり。—— sich bewegen 「自分を動かす」で「動く」と譯すべし、bewegen 丈なれば「何々を動かす」。

Summer und Angst lag auf den Gesichtern der Leute, deren Kleider von Wasser zu triefen schienen.

(譯) 此等の人々の顔の上には (auf den Gesichtern der Leute) 心配と恐怖と (Summer und Angst) [の色] が 見え た (lag) 而して此等の人々の衣服 (deren Kleider) からは 水が点滴をなして落ちる如うに (von Wasser zu triefen) 見えた (schien)。

(註九八) Summer und Angst lag auf den Gesichtern der Leute は直譯すれば「心配と恐怖とが 此等の人々の顔面に (auf den Gesichtern) 横つて居た (lag)」にして即ち其顔面に心配と恐怖の色見ゆるを云ふ。—— deren Kleider von Wasser triefen は直譯すれば「其人々の衣服が水に依りて滴る」にて其衣服より水滴の垂るゝ意なり、triefen = in Tropfen herabfallen 点滴がたれる。

Jetzt waren sie dicht bei ihm und ihr Gesang schwieg.

(譯) 今や (jezt) 此等の人々は (sic) 彼の眞側に来た

(waren.....dicht bei ihm) 而して歌は (ihr Gesang) 沈黙した (schwieg)。

(註九九)waren sie dicht bei ihm は直譯すれば「彼等は彼れの直き側にあつた」にて即ち來て居たの意。—— ihr Gesang schwieg は擬人法を用ひたるものにして sie hörten auf ihren Gesang zu singen (彼等は歌を歌ふを止めた) の意。

An ihrer Spitze waren mehrere Musikanten, dann mehrere Seelenleute, und hinter diesen kam ein großer, starker Mann in altväterlicher, reich mit Gold besetzter Tracht, mit einem Schwert an der Seite und einem langen dicken spanischen Rohr mit goldnem Knopf in der Hand.

(譯) 先登には (an ihrer Spitze) 多くの音樂をやる人々が (mehrere Musikanten) 居り (waren) 次は (dann) 多くの水夫 (mehrere Seelenleute)、其の次に (hinter diesen) 來るのが (kam) 大きな強そうな人で (ein großer, starker Mann) 古風な (altväterlicher) 黄金を (mit Gold) 燦爛と (reich) 彫り飾めたる (besetzter) 衣服を身に纏い (in.....Tracht)、側には (an der Seite) 一振の太刀を附け (mit einem Schwert)

手には (in der Hand) 金ボタン附の (mit goldnem Knopf) 長くして太きスペインの荻蘆竹を持つて (mit einem langen dicken spanischen Rohr) 居る。

(註一〇〇) an ihrer Spitze waren..... は「彼等の頭にあつた」即ち「彼等の長としてあつた」の意。又 an der Spitze stehen とも云ふ。—— hinter diesen は此等の後又は次ぎ。—— in altväterlicher, reich mit Gold besetzter Tracht は in altväterlicher Tracht (古風の粉装にて) の間に reich mit Gold besetzter (金を以てたつぶり彫り飾めたる) の形容句を挾めるなり。—— hinter diesen kam ein Mann..... に於て Mann 以下は凡て其説明にして「斯々の人が來た」なり故に最初に於て「次ぎに來たのが (hinter diesen kam)」と譯し以下其人に就ての説明するを却て繁雜を避けてよるとす。

Ihm zur Linken ging ein Negerknabe, welcher seinem Herrn von Zeit zu Zeit eine lange Pfeife reichte, aus der er einige feierliche Züge tat und dann weiter schritt.

(譯) 彼の左側には (ihm zur Linken) 一人の黒奴の童子が (ein Negerknabe) 歩いて居る (ging)、此童子は (welcher) 折々 (von Zeit zu Zeit) 主人に (seinem Herrn) 長い煙管を (eine lange Pfeife) 渡すと (reichte)、主人は (er) 其煙

管で (aus der) 二三服殿めしき面持で吸い込んで (einige feierliche Züge tat) 更に悠々と歩いて来る (dann weiter schritt)。

(註一〇一) ihm zur Linken は zu seiner Linken に同じ「彼の左側に方りて」なり。— im. etwas reichen 或人に或物を手渡す。— aus der er einige feierliche Züge tat は直譯すれば「管中より (aus der [langen Pfeife]) 彼は二三回の殿めしき吸込み (Züge) をやつた (tat)」にして即ち吹管を以て殿めしく二三服薫ゆらすをいふ、einen Zug tun は「引く」にて即ち煙を引くなり。

Er blieb kerzengerade vor Wilm stehen, und ihm zu beiden Seiten stellten sich andere, minder prächtig gekleidete Männer, welche alle Pfeifen in den Händen hatten, die aber nicht so kostbar schienen, als die Pfeife, welche dem dicken Manne nachgetragen wurde.

(譯) 此人が (er) ウキルムの前に (vor Wilm) スツクと (kerzengerade) 立ち止まれば (blieb..... stehen) 他の服装の華麗稍劣れる人々は (andere, minder prächtig gekleidete Männer) 彼の兩側へ (ihm zu beiden Seiten) プラリと立ち並らんだ (stellten sich)、而して此等の人々は悉く (welche alle) 手に (in den Händen) 煙管を (Pfeifen) 持つて居た

(hatten) が、此等の煙管は (die) 例の肥れる人の後より持ち行く (dem dicken Manne nachgetragen wurde) 煙管程貴重なものとは見えなかつた (nicht so kostbar schienen, als die Pfeife, welche)。

(註一〇二) kerzengerade は gerade wie Kerzen (蠟燭の如く眞直に) 也。— bleiben は他の動詞と合して一の働作を表はすに用ゐらるゝ事あり sitzen bleiben, stehen bleiben の如し。— sich stellen は普通の意義に於ては「身を立てる」即ち立つ、なれども熟語に用ゐらるゝ時は「何々の風をする」「何々を装ふ」意なり、例 sich krank stellen 病氣を装ふ、sich klug stellen 利巧さうな風をする。— minder prächtig gekleidete (より少しく華麗に着飾れる) は andere と Männer の間に挟みたる Männer の形容句なり。— etwas im. nachtragen 「或人の後に附して或物を運ぶ」、又 etwas im. nachtragen は「或人に遺恨を懐く」といふ意あり、茲にては第一の意なり。

Hinter diesen traten andere Personen auf, worunter mehrere Frauenpersonen, von denen einige Kinder in den Armen oder an der Hand hatten, alle in kostbarer aber fremdartiger Kleidung.

(譯) 此等の次に (hinter diesen) 他の人々が (andere Per-

sonen) 現はれた (traten auf)、其内には (worunter) 多くの婦人 (mehrere Frauenspersonen) あり、中には (von denen) 腕或は手に (in den Armen oder an der Hand) 小兒を抱いて居る (Kinder.....hatten) の (einige) もある、皆 (alle) 金は掛かつては居るが外國の服装である (in kostbarer aber fremdartiger Kleidung)。

(註一〇三) *traten auf* 舞臺等に現れ出づるを曰ふ「場の上へ」。—— *von denen einige* 「其内の二三の人は」、*von denen* は *von den Frauenspersonen* なり、*hatten* の主格なりとす。—— *alle in kostbarer aber fremdartiger Kleidung* は *alle (= Personen) [waren] in kostbarer aber fremdartiger Kleidung* にして [] の *waren* を略したるものなり、*inKleidung* は「何々の服装にて、粉装にて」「.....の衣物を着て」なり。

Ein Haufen holländischer Matrosen schloß den Zug, deren jeder den Mund voll Tabak und zwischen den Zähnen ein braunes Pfeifchen hatte, daß sie in düsterer Stille rauchten.

(譯) 一群の和蘭の水夫が (ein Haufen holländischer Matrosen) 此行列の殿をなして居る (schloß den Zug) 各 (deren jeder) 口のはたに煙草の煙をたなびかせ (den Mund voll Tabak) 褐色の小さき煙管を銜へ (zwischen den Zähnen

ein braunes Pfeifchen hatte) 其パイプを (das) 陰氣な顔して黙つて (in düsterer Stille) 吸つて居る (rauchten)。

(註一〇四) *ein Haufen holländischer Matrosen* は直譯すれば「和蘭水夫の一群が」なりかゝる場合には大抵數量を表はす主語を形容詞と同様に取扱ふものとす。—— *deren jeder* は *jeder der Matrosen* なり。—— *den Mund voll Tabak* は *Tabak* の後に *hatte* を添へて解すべし *den Mund voll Tabak haben* は口一杯に煙草を含めるよりは寧ろ口元の見えざる程煙草の烟にて掩はれ居るを云へるなり。—— *den Zug schloß* を直譯すれば「其行列を閉ぢた」にて即ち「行列の殿をなす」。—— *zwischen den Zähnen ein braunes Pfeifchen hatte* を直譯すれば「上下の齒の間に (zwischen den Zähnen) 小さき褐色のパイプを (ein braunes Pfeifchen) 持つて居た」。—— *in düsterer Stille* は直譯すれば「陰氣なる静さに於て」にして即ち *Stille* は其態度を示し *düster* は顔附を表す。—— *rauchten* 「薫らす」。

Der Fischer blickte mit Grausen auf diese sonderbare Versammlung; aber die Erwartung dessen, daß da kommen werde, hielt seinen Mut aufrecht.

(譯) ウキルムは (der Fischer) ソツトしながら (mit Grausen) 此不思議な人群を (auf diese sonderbare Ver-

sammlung) 眺めた (blifte)、然し (aber) 當さに (da) 来る可き事を期待してゐるが爲めに (die Erwartung dessen, daß kommen werde) 勇氣を挫かずに居た (hielt seinen Mut aufrecht)。

(註一〇五) die Erwartung dessen, daß da kommen werde, hielt seinen Mut aufrecht は直譯すれば「將に (da) 来るべき (kommen werde) 所の (daß) それの (dessen) 期待が (die Erwartung) 彼れの元氣を (seinen Mut) 維持した (hielt aufrecht)」にして即ち譯文の如き意となる、「来る可きもの」とはカルミルハンの沈没せる地點の報告なり。

Lange standen sie so um ihn her, und der Rauch ihrer Pfeifen erhob sich wie eine Wolke über sie, zwischen welcher die Sterne hindurch blinkten.

(譯) 人々は (sie) 斯の如くにして (so) 長く (lange) ウキルムの周圍に (um ihn) 停立つて居た (standen)、[煙管より立ち登る] 煙は (der Rauch ihrer Pfeifen) 雲の如うになつて (wie eine Wolke) 彼等の上に (über sie) 靉靄めてる (erhob sich)、而して其間から (zwischen welcher) 星影が (die Sterne) きらめき見ゆる (hindurch blinkten)。

(註一〇六) lange は lange Zeit の意。— um ihn her は「彼を取り圍んで」なり。— der Rauch ihrer Pfeifen

「彼等の煙管の煙」とは即ち彼等の煙管より立ち上る煙なり。— hindurch blinkten 「雲間を通じて輝やき見ゆる」。

Der Kreis zog sich immer enger um Wilm her, das Rauchen ward immer heftiger, und dicker die Wolke, die aus Mund und Pfeifen hervorstieg.

(譯) ウキルムを取り巻ける (um Wilm her) 圈は (der Kreis) 次第に小さく (immer enger) なり (zog sich) 喫煙は (das Rauchen) 次第に烈しく (immer heftiger) なり (ward) [従つて] 口及び煙管より (aus Mund und Pfeifen) 立ち上る煙は (die Wolke, die) 次第に濃く (immer dicker) なつて来た (ward)。

(註一〇七) Der Kreis zog sich immer enger um Wilm her は直譯すれば「該一圈は (Der Kreis) 益々狭く(密に) (immer enger) ウキルムの周圍に (um Wilm her) 迫つた (zog sich)」にて益々ウキルムに接近して範圍の小さくなるを云ふ、der Kreis は die Versammlung を云ふ。— und dicker die Wolke, die..... は und (immer) dicker (ward) die Wolke, die..... なり。— ward は werden の Imperfekt にして通常は wurde と云ふ形を用ゆ。

Falke war ein kühner, verwegener Mann, er

hatte sich auf Außerordentliches vorbereitet; aber als er diese unbegreifliche Menge immer näher auf sich eindringen sah, als wolle sie ihn mit ihrer Masse erdrücken, da entsank ihm der Mut, dicker Schweiß trat ihm vor die Stirne, und er glaubte, vor Angst vergehen zu müssen.

(譯) フアルケは勇敢で (fühner) 冒険好きな (vertwegener) 男 (ein Mann) であつた (war) [から] 非常のことある可しとは (auf Außerordentliches) 兼ねて期して居た (hatte sich vorbereitet) 併し (aber) 此の怪しげなる群集が (diese unbegreifliche Menge) 一塊になつて (mit ihrer Masse) 自分を (ihn) 押し殺さんとする如うに (als wolle sie..... erdrücken)、次第に近く (immer näher) 自分に迫り来る (auf sich eindringen) を見た (sah) 時に (als....., da) 勇氣は失せ (entsank ihm der Mut)、玉の如き汗 (dicker Schweiß) 額に泌み出で (trat ihm vor die Stirne)、恐ろしさに (vor Angst) 正氣を失ふに定まつてると (vergehen zu müssen) 思つた (er glaubte)。

(註一〇八) er hatte sich auf Außerordentliches vorbereitet は直譯すれば「彼は (er) 非常なことに對し (auf Außerordentliches) [兼ねて] 用意して居た (hatte sich vorbereitet)」。

— sich auf etwas vorbereiten は將來に或事を豫想しそれに當りて差支なき様に準備するを云ふ。— hatte..... sich vorbereitet として大過去にせるは兼ねての意を含ませたるなり、Außerordentliches は außerordentlich (非常なる) である形容詞より來る、ordentlich は尋常にして außer (外に、以外、以上) なる前綴を附すれば非常となる。— als er diese unbegreifliche Menge immer näher auf sich eindringen sah は之を書き換ふれば als er sah, daß diese unbegreifliche Menge immer näher auf ihn eindringt なり。— da entsank ihm der Mut は直譯すれば「其時 (da) 元氣が (der Mut) 彼れに (ihm) 失せた (entsank)」にして主語を換ふれば da verlor er den Mut (其時彼は元氣を失つた) となる。— dicker Schweiß trat ihm vor die Stirne は直譯すれば「濃き汗が (dicker Schweiß) 彼れに額に (=彼の額に) 現はれた (trat)」なり、ihm vor die Stirne は vor seine Stirne の義。Über man denke sich erst seinen Schrecken, als er von ungefähr die Augen wandte und dicht an seinem Kopfe das gelbe Männchen steif und aufrecht sitzen sah, wie er es zum erstenmal erblickt, nur daß es jetzt, als wie zum Spotte der ganzen Versammlung, auch eine Pfeife im Munde hatte.

(譯) 併し (aber) 彼が (er) 偶然 (von ungefähr) 眼を (die Augen) 他に轉すると (wandte und) 自分の眞頭の所に (dicht an seinem Kopfe) 例の黄色の小さい人が (das gelbe Männchen) 始めて見た時の如くに (wie er es zum erstenmal erblickt) 直すぐに (steif und aufrecht) [人形の如くに] 坐つてたのを見た (sah) 時 (als) の驚きは如何ばかりぞ (man denke sich erst seinen Schrecken)、只だ (nur) [初めて見た時と異なる所は] 今は (jetzt)、此處に集まれる人人を笑はせんが爲めかと思はれる様に (als wie zum Spotte der Versammlung) 自分も亦口に煙管を (auch eine Pfeife im Munde) 喰へて居る (hatte) ことである (daß)。

(註一〇九) Aber man denke sich erst seinen Schrecken als er.....sah は「併し諸君彼がひよつと眼を轉じ自分の頭のまそばに例の小さい人の坐つてるのを見た時の (als er.....sah) 彼の眞の驚愕を (seinen Schrecken) 想像せよ (man denke sich)」、erst は邦語「マ一」と云は入計りの語勢なりと知るべし。— nur daß es jetzt を譯して「只だ初めて見た時と異なる所は」と云ふ所以は其前に wie er es zum erstenmal erblickt とありて jetzt と zum erstenmal (初めて) との對照比較せるを以てなり。— zum Spotte der ganzen Versammlung 「衆人の戲談の的になる」。

In der Todesangst, die ihn jetzt ergriff, rief

er zu der Hauptperson gewendet: „Im Namen dessen, dem Ihr dient, wer seid Ihr? Und was verlaugt Ihr von mir?“

(譯) 今や (jetzt) 彼を捕へた (die ihn ergriff)、死を恐るるの念慮に驅られて (in der Todesangst) 彼は (er) 主だてる人に向ひ (zu der Hauptperson gewendet) [聲を高く張り上げて]: 「包まず明白に言ひ給へ (im Namen dessen, dem Ihr dient) 貴君は誰で (wer seid Ihr?) 又私に何の用がありますか (Was verlaugt Ihr von mir?)」と尋れた (rief)。

(註一一〇) Im Namen dessen, dem Ihr dient を直譯すれば「貴君が (Ihr) 仕ふる (dient) 處の (dem) その者の (dessen) 名に於て (im Namen)」なり、「誰れその名に於て」とは「誰れその名を告白し或は名力を借りて」にてこは邦語にては無き言ひ方なり、意味は「貴君は神に仕へて善人なるや將た悪魔に仕へて居る者なりや明かに言へ」— Und was verlaugt Ihr von mir? を直譯すれば「して汝は予より何を要求するぞ」なり。

Der große Mann rauchte drei Züge, feierlicher als je, gab dann die Pfeife seinem Diener und antwortete mit schreckhafter Kälte:

(譯) 此丈高き人は (der große Mann) 最も嚴めしげに

(feierlicher als je)、三度吸つて (rauchte drei Büge)、夫れから (dann) 煙管を (die Pfeife) 自分の召使に (seinem Diener) 渡し (gab) 見るも恐ろしき程冷膽に (mit schreckhafter Kälte) 答へた (antwortete)。

(註一一一) feierlicher als je は直譯すれば「何時か一度 (je) よりも (als) よりいかめしく (feierlicher)」にて即ち從來になきいかめしさなれば「最も嚴めしく」なり。—— mit schreckhafter Kälte 「恐れを抱かせる冷膽さで」。

„Ich bin Alfred Franz van der Schwelber, Befehlshaber des Schiffes Carmilhan von Amsterdam, welches auf dem Heimwege von Batavia mit Mann und Maus an dieser Felsenküste zugrunde ging;

(譯) 「自分は アルフレッド、フランツ、ファン、デル、シユエルデル とて、アタビヤより歸る途中 (auf dem Heimweg von Batavia) 此岩多き海岸で (an dieser Felsenküste) 船員残らず共に (mit Mann und Maus) 沈没した (zugrunde ging) アムステルダムのカルミルハンと曰ふ船の船長 (Befehlshaber des Schiffes) である。

(註一一二) 何處々々よりの歸途 auf dem Heimweg (od. Rückweg) von.....、又何處々々の往途は auf dem Hinfahrtsweg

nach od. zu..... なり。—— mit Mann und Maus は成語にして直譯すれば「男と鼠と共に」にて男とは船員のことにして鼠とは鼠の如きものに至る迄で即ち悉く皆の謂なり之を言ひ換ふれば mit allem, was darauf war (船員、乗客、荷物諸共に)。—— zugrunde gehen は untergehen, nieder sinken と同義、zu Grunde gehen とも書く (三七を看よ)。—— Befehlshaber は字義通り解釋すれば「指令官」なり。

Dies sind meine Offiziere, dies meine Passagiere, und jenes meine braven Seeleute, welche alle mit mir ertranken.

(譯) これが (dies) 私の役員 (meine Offiziere) で、是れが私の船客 (meine Passagiere)、向うに居るのは (jenes) 私の勇敢なる船夫 (meine braven Seeleute) で、此等の人 (welche) 皆 (alle) 私と共に (mit mir) 溺死を遂げた (ertranken) のである。

(註一一三) dies は形は單數なれども意味は複數なりされば動詞は複數を用ゐたり。—— Passagiere は「パッサジール」と發音し外來獨逸語なり之れに對する純獨逸語は Fahrgast (pl. Fahrgäste) なり。—— trinken は飲む、betrinken は酒に酔ふ、ertrinken は溺死する。

Warum hast du uns aus unsern tiefen Boh-

nungen im Meere hervorgerufen? Warum störtest du unsere Ruhe?"

(譯) 何が故に (warum) 汝は (du) 海中の深き所にある住居 (スミカ) より (aus unsern tiefen Wohnungen) 我等を (uns) [此處に] 呼び上げた (hervorgerufen?) 何故に吾等の休息静謐 (unsere Ruhe) を妨ぐる (störtest du) のか?

(註一一四) die Ruhe stören 「安眠妨害をする」といふに用ゆる、序乍ら曰んに in. im Geschäft stören は「或人の仕事妨げをなす」をいふ又邦語にて「何卒御構ひなく」は獨逸語にては Lassen Sie sich doch meinetwegen nicht stören! なり。

„Ich möchte wissen, wo die Schätze des Carmilhan liegen.“

(譯) 「カルミルハンの寶の在處が (wo die Schätze des Carmilhan liegen) 知り度さに (ich möchte wissen)。」

(註一一五) möchte は mögen の一人稱若くは三人稱單數接續法過去形にして希望、歎願の意を表はす (自修後 2 63)。— wo die Schätze des Carmilhan liegen は直譯すれば「何處にカルミルハンの寶が横はれるかを」なり。

„Am Boden des Meeres.“

„Wo?"

„In der Höhle von Steenfohl.“

„Wie soll ich sie bekommen?"

(譯) 「海底に (am Boden des Meeres)。」

「何處の海底に (wo?)。」

「ステーンフォルの巖窟内 (in der Höhle von Steenfohl)。」

「其寶を捕り上げる方法は (wie soll ich sie bekommen?)。」

(註一一六) Am Boden des Meeres の前に Die Schätze des Carmilhan liegen を補足せば完全なる文章となる。— wie soll ich sie (die Schätze) bekommen) は直譯すれば「如何にして私はそを(寶を)獲得すべきや」にて即ち其方法如何を問ふなり。

„Eine Gans taucht in den Schlund nach einem Hering; sind die Schätze des Carmilhan nicht eben so viel wert?"

(譯) 鵞鳥は (eine Gans) 一尾の鯨の爲めに (nach einem Hering) 此窟内へ (in den Schlund) 這入る (taucht) [ではないか]、カルミルハンの寶は (die Schätze des Carmilhan) 一尾の鯨の價だになきものなるか (sind nicht eben so viel wert?)。

(註一一七) nach には搜索の意ありされば nach einem Hering は「一尾の鯨を得んとて」の意なり。— sind die

Schätze des Carmilhan nicht eben so viel wert の次に wie ein Hering を附加せば意自ら明かならん、「カルミルハンの寶は一尾の鯨の價だになきものなるか、否比較にならぬ程貴し、故に汝も之を得んとせば窟内へ下るを至當となす」の意なり。

„Wie viel davon werd' ich bekommen?“

„Mehr, als du je verzehren wirst.“ Das gelbe Männchen grinste, und die ganze Versammlung lachte laut auf.

(譯) 「其内 (davon) 私の得る所何程なるべき (wie viel werd' ich bekommen?)」。

「一代喰つても餘る程 (mehr, als du je verzehren wirst)」。
黄色の小さき人は (das gelbe Männchen) 齒をむきだし (grinst) 並び居る者は (die ganze Versammlung) カラカラと笑つた (lachte laut auf)。

(註一一八) wie viel davon は wie viel von den Schätzen なり、即ちカルミルハンの寶を指す。—— mehr, als du je verzehren wirst は (du bekommst) mehr, als..... なり、je verzehren は「一生の中何時か (je) 喰ひ盡す (verzehren)」、mehr, als du je verzehren wirst は「何時か喰ひ盡すよりも多く」にて即ち喰つても喰ひ切れない程の意。—— laut aufachen は「高聲にて笑ふ」もし室中ならば「笑聲堂に充つ」の類。

„Bist du zu Ende?“ fragte der Hauptmann weiter.

„Ich bin's. Gehab' dich wohl!“

(譯) 「それでおしまいか (bist du zu Ende?)」と船長が (der Hauptmann) 尋ねた (fragt.....weiter)。

「夫れに相違はありません (ich bin's)。左様なら (gehab' dich wohl!)」。

(註一一九) Bist du zu Ende? は直譯すれば「汝は終に於てあるか」にて「汝の話はもう終りか」「もう聞くことはないか (Hast du nichts mehr zu fragen?)」の意。—— fragteweiter 繼けて質問の矢を發した。—— ich bin's は ich bin es の約にして es は zu Ende を承けたるものなり (自修後 2 註(4)を讀み本文の如き es の使用法を學べ)。—— Gehab' dich wohl は別れの挨拶にして lebetwohl と同じく「御機嫌よく」又は「左様なら」の意。—— sich gehalten は leben に同じ。

„Lebwohl, bis aufs Wiedersehen;“ erwiderte der Holländer und wandte sich zum Gehen, die Musikanten traten aufs neue an die Spitze, und der ganze Zug entfernte sich in derselben Ordnung, in welcher er gekommen war,

(譯) 「御機嫌宜しう (sewohl)、再會(ツァイホイ)、船長は (der Holländer) かく答へ (erwiderte)、身をそむけて歩き出した (wandte sich zum Gehen) 音楽隊は (die Musikanten) 再び (aufs neue) 先頭に立つた (traten.....an die Spitze) 而して全列は (der ganze Zug) 来た時と (in welcher er gekommen war) 同じ順序で (in derselben Ordnung) 去つた (entfernte sich)。

(註一〇) bis aufs Wiedersehen は「復た御目にかりませう」の意平常は只だ auf Wiedersehen 丈でよるし(七六)。— der Holländer は der Hauptmann を指す。— wandte sich zum Gehen は直譯すれば「歩行に迄 (zum Gehen) 我身を (sich) 向けた、反らした (wandte)」にて其は結果を表はす前置詞なるを以て身を反けて歩き出したとの意なり。— an die Spitze treten は「先頭に立つ (treten 現はる)。— in derselben Ordnung, in welcher (=in der Ordnung) er (der ganze Zug) gekommen war は「其れに於て(其順序に於て)彼れが(全列が)最初来た(gekommen war) と同一の順序で (in derselben Ordnung)」なり。

und mit demselben feierlichen Gesang, welcher mit der Entfernung immer leiser und undeutlicher wurde, bis er sich nach einiger Zeit gänzlich im Geräusche der Brandung verlor.

(譯) 歌ふ歌も前と同じく崇嚴であつた (mit demselben feierlichen Gesang) 而して其歌は (welcher) 遠ざかるに従つて (mit der Entfernung) 愈々微けく (immer leiser) 又次第次第に解らぬやうに (immer undeutlicher) なり (wurde)、間もなく (nach einiger Zeit) 全く (gänzlich) 澎湃たる浪の音の中に (im Geräusche der Brandung) 消え去つた (bis er sich verlor)。

(註一一) mit demselben feierlichen Gesang の前に der ganze Zug entfernte sich を補へば其意明かとなる、mit demselben feierlichen Gesang は直譯すれば「同一の嚴さかなる歌を以て」なり。— mit der Entfernung は遠ざかると共に、に伴れ、に従ひの意、die Entfernung は「距離の意あれども、茲にては das Entfernen と同じく動作を意味す、je weiter sich der Zug entfernte の意なり。

Jetzt strengte Wilm seine letzten Kräfte an, sich aus seinen Banden zu befreien, und es gelang ihm endlich, einen Arm los zu bekommen, womit er die ihn umwindenden Stricke löste und sich endlich ganz aus der Haut wickelte.

(譯) 今や (jetzt) ウキルムは自分を取り巻いてる帯(皮な

り)より (aus seinen Banden) 身を脱せんとして (sich zu befreien) 残れる力をあり丈 (seine letzten Kräfte) 絞り出し (strengte.....an) 遂に (endlich) 片腕丈 (einen Arm) 自由にする事が (los zu bekommen) 出来た (es gelang ihm)、此腕で (womit) 己れを縛れる綱を (die ihn umwindenen Strick) 解き (löste)、遂に (endlich) 全然 (ganz) 皮から (aus der Haut) 脱け出した (sich wickelte)。

(註一二二) sich aus.....befreien は「何々より脱する」を云び、sich von.....befreien は「何々を免る」を云ふ。—— es gelang ihm endlich, einen Arm los zu bekommen は直譯すれば「夫れが (es) 遂に (endlich) 片腕を (einen Arm) 自由にすべく (los zu bekommen) 彼に (ihm) 成功した (gelang)」なり即ち er konnte endlich einen Arm los bekommen に同じ、etwas los bekommen は「或物を自由にする」也。

Ohne sich umzusehen, eilte er nach seiner Hütte und fand den armen Kaspar Strumpf in starrer Bewußtlosigkeit am Boden liegen.

(譯) 周圍をも見ずに (ohne sich umzusehen)、自分の小屋へ (nach seiner Hütte) 急ぎ行けば (eilte er)、カスパルストルムプは可哀想に (den armen.....) 氣を失つて (in starrer Bewußtlosigkeit) 床の上に (am Boden) 臥て居る (fand..... liegen)。

(註一二三) ohne sich umzusehen 「身邊を見廻すこと (sich umzusehen) なしに (ohne) = ohne daß er sich umfah. — eilte er nach seiner Hütte 「自分の小屋を目指して (nach seiner Hütte) 急いだ (eilte)。—— fand den armen Kaspar Strumpf in starrer Bewußtlosigkeit am Boden liegen は直譯すれば「可哀想なるカスパルストルムプを (den armen Kaspar Strumpf) 堅き失神に於て (in starrer Bewußtlosigkeit) 地上に (am Boden) 横つて (liegen) 見出した」なれば「見れば.....であつた」と譯すべし即ち本文章はer fand, daß der arme Kaspar Strumpf in starrer Bewußtlosigkeit am Boden lag に同じ。

Mit Mühe brachte er ihn wieder zu sich selbst, und der gute Mensch weinte vor Freude, als er den verloren geglaubten Jugendfreund wieder vor sich sah.

(譯) 漸くにして (mit Mühe) 彼を正氣づかしたが (brachte ihn wieder zu sich selbst) カスパルは (der gute Mensch) 死んだと思つた若き時よりの友人 (den verloren geglaubten Jugendfreund) が眼の前に居る (vor sich sah) ので (als) 嬉しさの餘り (vor Freude) 泣き出した (weinte)。

(註一二四)brachte er ihn wieder zu sich selbst を直譯すれば「彼は (er) 彼を (ihn) 再び (wieder) 自分自身に

(zu sich selbst) 持ちきした (brachte) にして即ち正氣附かしたるを云ふ此成語の組立は *in. wieder zu sich selbst bringen* なり。—— *vor Freude* 喜びの餘り、*vor Freude weinen* は感極りて流涕するに至るを云ふ。—— *den verloren geglaubten Jugendfreund* の *verloren geglaubten* は「無き物と (verloren) 思つていた (geglaubten)」なり、*Jugendfreund* は若き朋友には非ず幼少よりの即ち竹馬の友を云ふ。

Über dieser beglückende Strahl verschwand schnell, als er von diesem vernahm, *welch verzweifeltes Unternehmen er jetzt vor hatte.*

(譯) 併し此幸福をもたらせし光線は (dieser beglückende Strahl) *ストルムプ* が (er) *フアルケ* から (von diesem) 彼の現に (jetzt) 目論んでる企を (*welch verzweifeltes Unternehmen er vor hatte*) 聞いた (vernahm) 時 (als)、速かに (*schnell*) 消え去つた (*verschwand*)。

(註一二五) *von diesem* は「此者より」にて直ちに上文の *den verloren geglaubten Jugendfreund* を指す。—— *vernahmen* は前に *hören* と區別して聽覺の印象に對する知覺認識なりと云ひしが茲に於ては只だ 聞き知る の意なり。—— *welch verzweifeltes Unternehmen er jetzt vor hatte* は直譯すれば「如何に絶望的の (*welch verzweifeltes*) 企てを

(Unternehmen) 彼れが (er) 現今 (*jetzt*) 目論んで居た (*vor hatte*) かを (*welch*) なり。

„Ich wollt' mich lieber in die Höhle stürzen, als diese nackten Wände und dieses Elend länger ansehen — Folge mir oder nicht, ich gehe.“

(譯) 「此の裸かな四方の壁や (*diese nackten Wände und*) 此果敢なさを (*dieses Elend*) 見てるよりは (*als..... länger ansehen*) 寧ろ (*lieber*) 窟中へ (*in die Höhle*) 落ちて行かう (*ich wollt' mich..... stürzen*)。—— 汝が私に躓ひて來やうか (*comest du mit mir zusammen*)、來まいか (*Folge mir oder nicht*)、自分は行かう (*ich gehe*)」。

(註一二六) *Folge mir oder nicht,.....* は *ob du mir folgst oder nicht, es ist mir gleich, ich gehe* (汝が余に躓いて來ると否とは余の關する所に非ず、余は所信を斷行して行かん) と同じ。

mit diesen Worten faßte Wilm eine Fackel, ein Feuerzeug und ein Seil und eilte davon.

(譯) かく言つて (*mit diesen Worten*) *ウキルム* は松火 (*eine Fackel*) 鑽具 (*Feuerzeug*) (*ein Feuerzeug*) 綱 (*ein Seil*) を手にして (*faßte..... und*)、急ぎ去つた (*eilte..... davon*)。

(註一二七) mit diesen Worten は直譯せば「此等の言葉を以て」なり、Worte は複數なれども言葉又は文句の意なり、單語の複數を表はすには Wörter を用ひ兩者を混同すべからず(七七)。— davoneilen は「急ぎ去る」、davon (其處より) は去る意あり、davonkommen (逃げ去る) の如し。Kaspar eilte ihm nach, so schnell er's vermochte, und fand ihn schon auf dem Felsenstück stehen, auf welchem er vormals gegen den Sturm Schutz gefunden, und bereit, sich an dem Stricke in den brausenden schwarzen Schlund hinabzulassen.

(譯) カスパーは、出来る丈速かに (so schnell er's vermochte) 彼の後を追うて行つて (eilte ihm nach und) 見れば (fand) ウィルムは (ihn) 既に (schon) 嘗て (vormals) 自分の暴風雨を避けた (auf welchem er.....gegen den Sturm Schutz gefunden) 其岩の上に (auf dem Felsenstück) 立つて (stehen) 網をつたひて (an dem Stricke) 當さに (bereit) 澎湃として黒き穴の中へ (in den brausenden schwarzen Schlund) 降りんとして (sich hinabzulassen) 居た (fand..... ihn bereit)。

(註一二八) so schnell er's vermochte; er's の es は前文 Kaspar eilte ihm nach を指す意味は so schnell als möglich

に同じ。— im. nachteilen は「或人の後を逐驅けて急ぐ」なり。— auf welchem er vormals gegen den Sturm Schutz gefunden は直譯すれば「其上に於て彼れが以前暴風雨に對し庇護所を見出した所の」なり、gegen etwas Schutz finden は「何々に對し防禦を見出す」にて即ち何々を避けるなり。— fand ihn:.....stehen....., und bereit, sich.....hinabzulassen は直譯すれば「彼を何處々に立つて居るのを見出した而して又投身せんと (sich hinabzulassen) 用意して居るのを (bereit) 見出した」にて「見れば.....であつた」と譯すべし。

Als er fand, daß alle seine Vorstellungen nichts über den rasenden Menschen vermochten, bereitete er sich, ihm nachzusteigen, aber Falke befahl ihm zu bleiben und den Strick zu halten.

(譯) 様々の諫言も (alle seine Vorstellungen) 此狂氣の如うになつてゐる人間には (über den rasenden Menschen) 何の益にもたぬ (nichts vermochten) ことが (daß) 解つたから (als er fand) ウィルムに躓いて穴の中へ下らんと (ihm nachzusteigen) 用意したが (bereitete sich....., aber) フアルゲはカスパーに (ihm) 止まつて居て (zu bleiben und) 網を持つて居よと (den Strick zu halten) 言ひ付けた (befahl)。

(註一二九) alle seine Vorstellungen (凡ての彼れの諫言) は様々に説伏せんと諫言を試みたるが意、斯かる場合には alle は trotz (係らず) の意を含めり。— über in. (od. etwas) vermögen は或人又は物に對し勢力を有す、auf in. (od. etwas) wirken に同じ。— sich bereiten.....zu..... は「何々の支度す」との意。

Mit furchtbarer Anstrengung, wozu nur die blindeste Habsucht den Mut und die Stärke geben konnte, kletterte Falke in die Höhle hinab und kam endlich auf ein vorspringendes Felsenstück zu stehen, unter welchem die Wogen schwarz und mit weißem Schaume bekränfelt brausend dahin eilten.

(譯) 慾の盲執が (die blindeste Habsucht) なければ逆も出来ない (wozu nur.....den Mut und die Stärke geben konnte) 苦勞をして (mit furchtbarer Anstrengung) 穴を擇ち降り (kletterte.....in die Höhle hinab)、遂に (endlich) 突出せる岩の上に (auf ein vorspringendes Felsenstück) 足を止め得る如うになつた (kam.....zu stehen)、岩の下には (unter welchem) 波濤が (die Wogen) 黒く (schwarz) 自き泡を立て (mit weißem Schaume) 渦を巻きては (bekränfelt) 濤々と (brausend) 急ぎ行く (eilten)。

(註一三〇) Mit furchtbarer Anstrengung, wozu nur die blindeste Habsucht den Mut und die Stärke geben konnte 「恐ろしき苦勞艱難 (furchtbarer Anstrengung)、かゝる艱難を冒すに要する (wozu) 勇氣と (den Mut) 力と (die Stärke) を賦與し (geben) 得るものは (konnte) 只慾の盲執のみ (nur die blindeste Habsucht) である」 「慾の盲執に驅らるゝに非ずんば 恚んな艱難は逆でも冒す勇氣や力が出まい。— kam.....auf ein.....Felsenstück zu stehen 「足が立つ如うになつた。

Er blickte begierig umher und sah endlich etwas gerade unter ihm im Wasser schimmern.

(譯) のみとり眼で (begierig) あたりを見廻はした (er blickte.....umher) が (und) 遂に (endlich) 自分の足の眞下の水の中に (gerade unter ihm im Wasser) 何だか知らぬが (etwas) 光つてる (schimmern) のが、目についた (sah)。

(註一三一) begierig は「熱心に」なり。— sah etwas gerade unter ihm im Wasser schimmern は直譯すれば「彼の眞下、水中で輝ける (schimmern) 或物を (etwas) 見た」之を副文に書き換ふれば er sah, daß etwas gerade unter ihm im Wasser schimmerte なり。

Er legte die Fackel nieder, stürzte sich hinab,

und erfaßte etwas Schweres, das er auch heraufbrachte.

(譯) 松明を (die Fadel) 下に下ろし (legte nieder)、飛び降りて (stürzte sich hinab und)、何か重き物を (etwas Schweres) つかむで (erfaßte) 取り上げた (heraufbrachte)。

(註一三二) legte nieder (下ろした) は niederlegen の過去形なるが nieder (下に) なる副詞を legen (置く) なる動詞に前綴として附加して「下ろす」との意をなせり。— etwas Schweres は何か重き物、etwas Leichtes 何か軽き物、etwas Neues 何か新しき事。— erfaßte etwas Schweres, das er auch heraufbrachte は直譯すれば「何か重い物、それを (das) 彼が (er) 亦 (auch) 取上げた (heraufbrachte) 所の (das) 何か重い物を (etwas Schweres) 掴むだ (erfaßte)」なり。

Es war ein eisernes Kästchen voller Goldstücke. Er verkündigte seinem Gefährten, was er gefunden, wollte aber durchaus nicht auf sein Flehen hören, sich damit zu begnügen und wieder heraufzusteigen.

(譯) 夫れは金貨の満ちたる鐵の箱 (ein eisernes Kästchen voller Goldstücke) であつた (ward)、ウキルムは (er) 自分

の發見したものを (was er gefunden) 對手に (seinem Gefährten) 告げた (verkündigte) が (aber)、夫で満足して (sich damit zu begnügen) 昇つて來て呉れと云ふ (wieder heraufzusteigen) 歎願には (auf sein Flehen) 些とも (durchaus) 耳を貸さなかつた (wollte.....nicht hören)。

(註一三三) es は etwas Schweres を指す。— ein eisernes Kästchen voller Goldstücke 「金貨の充てる鐵製の匣」 Kästchen voller Goldstücke は Kästchen voll von Goldstück の意なり、von を用ゐざる時は voll は二格支配の前置詞なるを以て voll の後に來るべき名詞は二格なりと雖も普通名詞の變化を略す、例へば一杯の葡萄酒は ein Glas voll Weins と云はずして ein Glas voll Wein と云ふ。

Falke meinte, dies wäre nur die erste Frucht seiner langen Bemühungen. Er stürzte sich noch einmal hinab — es erscholl ein lautes Gelächter aus dem Meere und Wilm Falke ward nie wieder gesehen.

(譯) フアルケはこれに (dies) 只 (nur) 自分が永年の苦勞に結びし始めの果實に過ぎないと (wäre nur die erste Frucht seiner langen Bemühungen) 思つた (meinte) が再び (noch einmal) 飛び降りた (stürzte sich hinab)、此時、海中より (aus dem Meere) 高き笑聲が (ein lautes Gelächter) 響

き渡り (es erscholl) ウキルム フアルケは再び見る能はざる人となつた (ward nie wieder gesehen)。

(註一三四) dies wäre nur die erste Frucht seiner langen Bemühungen は直譯すれば「これは (dies) 只だ (nur) 彼の永年の勞苦の (seiner langen Bemühungen) 最初の結果 (die erste Frucht) に過ぎまい (wäre nur)」なり。—— es erscholl ein lautes Gelächter に於て es は普通虚字と稱するものにして即ち文法の主語なり、意義上の主語は ein lautes Gelächter なり。——ward nie wieder gesehen は直譯「決して再び見られなかつた。」なり。

Kaspar ging allein nach Hause, aber als ein anderer Mensch. Die seltsamen Erschütterungen, die sein schwacher Kopf und sein empfindsames Herz erlitten, zerrütteten ihm die Sinne.

(譯) カスパルは獨りで (allein) 家へ歸つた (ging nach Hause) が (aber) 全然人間が變つて終つて居た (als ein anderer Mensch) 元來精神薄弱 (sein schwacher Kopf) にして物に感じ易き性質 (sein empfindsames Herz) のカスパルの搦て、加へて恐しく心氣を惱ましたので (die Erschütterungen, die.....erlitten) 彼の神経は狂つてしまつた (zerrütteten ihm die Sinne) のである。

(註一三五) ging nach Hause 家へ歸つた、nach Hause gehen は成語にして歸宅するを云ふ。—— als ein anderer Mensch は er ging als ein anderer Mensch nach Hause にして即ち「他の人として(人間が異りて)歸宅したる」なり。—— die seltsamen Erschütterungen, die erlitten は直譯すれば「彼の弱き精神及び感じ易き心が受けし稀代の振動は彼の神経を壞つた。—— im. die Sinne zerrütteten は或人の精神を攪亂するを云ふ。

Er ließ alles um sich her verfallen, und wanderte Tag und Nacht gedankenlos vor sich starrend umher, von allen seinen vorigen Bekannten bedauert und vermieden.

(譯) 周圍のものは凡て (alles um sich her) 放擲して零落するに任せ (er ließ verfallen) 夜となく晝となく (Tag und Nacht) 忙然と (gedankenlos) 前を見つめては (starrend vor sich) 徘徊して歩いた (wanderte)、而して以前の彼の知人は皆 (von allen seinen vorigen Bekannten) 氣の毒な事だと云つて (bedauert und) 避けた (vermieden)。

(註一三六) Alles um sich her は「身の周圍に於ける (um sich her) 凡ての物 (alles)」なり、Alles は all なる形容詞に中性の語尾を附して中性名詞となし單數の形なれども意義に於ては複數なること勿論なり。—— etwas verfallen

lassen は「其零落するに任せて顧みざる」を云ふ。—— Tag und Nacht は又 Tag(e) und Nächte と書く晝夜を問はず、絶えずの意。—— gedankenlos vor sich starren は「忙然自失して眺め居るを云ふ。—— von allen seinen vorigen Bekannten bedauert und vermieden は直譯すれば「凡ての彼れの以前の知己より氣の毒がられ (bedauert) 敬遠されて (vermieden)」なり。

Ein Fischer will Wilm Falke in einer stürmischen Nacht mitten unter der Mannschaft des Carmilhan am Ufer erkannt haben, und in derselben Nacht verschwand auch Kaspar Strumpf.

(譯) ある漁師は (ein Fischer) 暴風雨烈しきある夜 (in einer stürmischen Nacht) 海岸で (am Ufer) ファルケがカルミルハンの乗組員の真中に雑つてゐるのを (mitten unter der Mannschaft des Carmilhan) 見たと云つて居る (willerkannt haben) 而して同夜の中に (in derselben Nacht) カスパル ストルンプも又 (auch) 行方知れずに成つた (verschwand)。

(註一三七) will erkannt haben の will は behaupten..... zu の意なり (自修後 300 頁脚註を看よ)。—— Wilm Falke

は四格なり古風にては Wilm Falke と固有名詞語尾の變化をなす。—— in derselben Nacht は上の in einer stürmischen Nacht を承け in dieser stürmischen Nacht の意なり。

Man suchte ihn allenthalben, allein nirgends hat man eine Spur von ihm finden können.

(譯) 残る所なく (allenthalben) 探した (man suchte ihn) が (allein)、些とも手掛りがなかつた (nirgends hat man eine Spur von ihm finden können)。

(註一三八) allenthalben は überall と同意にて「隈なく「到る處」の意、場合によりては in allen Ecken も同義に用ゐらる。—— man sucht ihn の man は カスパル ストルンプの郷人、知己、朋友等を併稱す。—— allein は文章の始めにある時は aber の意にして章句の中間にある時は獨りの意なり。—— eine Spur von ihm は「彼の (von ihm) 足跡さへも (eine Spur)」の意。—— nirgends hat man eine Spur von ihm finden können は直譯すれば「何處に於ても (nirgends) 彼の足跡さへ嗅ぎ付くことは出来なかつた (hat man.....finden können)」なり。

Aber die Sage geht, daß er oft nebst Falke mitten unter der Mannschaft des Zauberschiffes gesehen worden sei, welches seitdem zu regel-

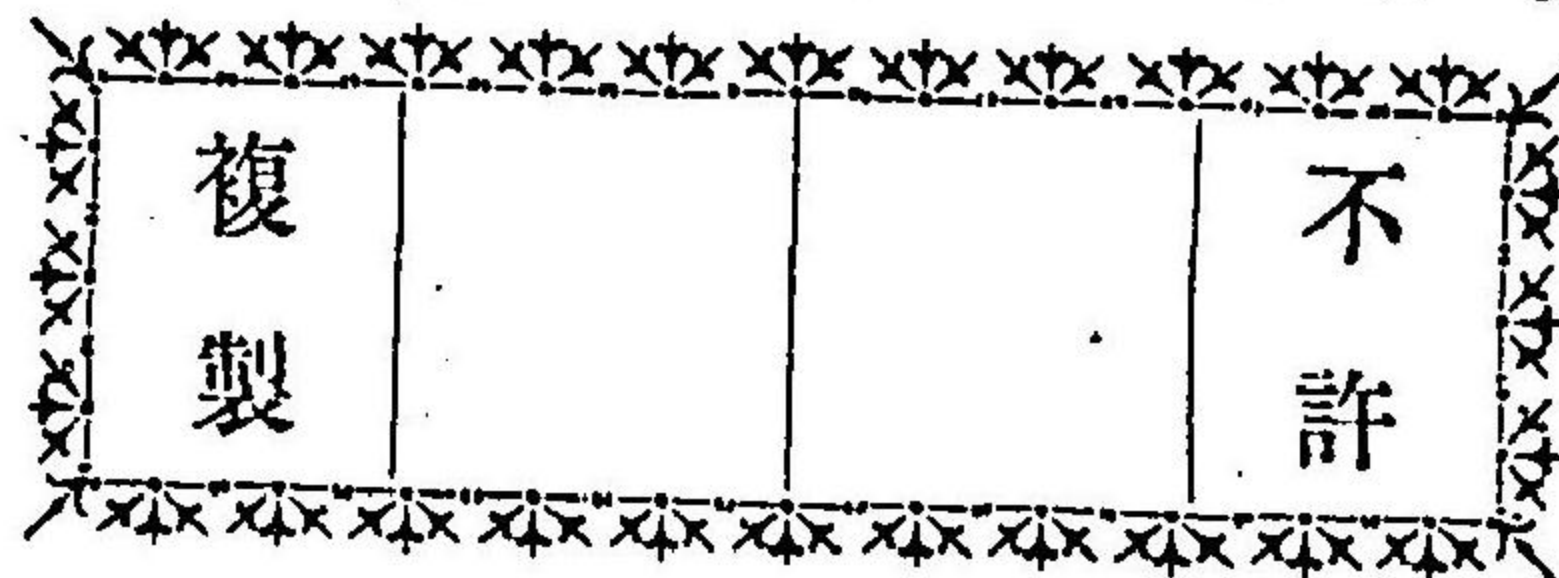
mäßigen Zeiten an der Höhe von Steenfohl erschien.

(譯) 併し彼は屢々 (oft) フアルケと共に (nebst Falke) 此[カルミルハンなる]魔船の (des Zauberschiffes) 乗組員の中に (mitten unter der Mannschaft) 居たと曰ふ (daß er..... gesehen worden sei) 傳説が (die Sage) 行はれてる (geht) 此魔船は (welches) 爾來 (seitdem) 時を定めて (zu regelmäßigen Zeiten) ステーンフォルの窟の邊に (an der Höhle von Steenfohl) 現はれる (erschien) との事である。

(註一三九) die Sage geht, daß..... は「.....との傳説がある」の意。——mitten unter der Mannschaft は「水夫の中間に交つて」なり、unter は中間の中にあるを云ふ。——gesehen worden sei は見られたにて即ち居た事を意味す。——zu regelmäßigen Zeiten 「規定の時に」「時を定めて」、又 zu gleicher Zeit は同時に、zu rechter Zeit は好い時に等、Zeit には zu の前置詞を附す。



明治四十三年七月十七日印刷
明治四十三年七月二十日發行



正價金貳拾參錢

譯註者 水野繁太郎

譯註者 奥野七郎

發行者 三浦理
東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷者 野村宗十郎
東京市京橋區築地三丁目十一番地

發行所 有朋堂書店
東京市神田區錦町一丁目十九番地
(振替貯金口座七一四八番)

印刷所 株式會社 東京築地活版製造所
東京市京橋區築地二丁目十七番地

—大賣捌所—

東京市神田區裏神保町壹番地 三省堂書店
大阪市東區南本町四丁目 三宅莊藏書店

Deutsche Jugendschriften.

獨逸文學叢書

{第一、二、三編正價各金拾八錢 郵稅各金貳錢}
{第四、五編正價各金貳拾參錢 郵稅各金貳錢}

第一編

あぎぶ王物語

Geschichte König Agibs des Einäugigen
„Tausend und eine Nacht.“

第二編

雪姫物語。兄妹物語

Aus Grimms Märchen.

第三編

偉人ペリクレス。天の鍵

Pericles.

第四編

一寸法師ムックー名侏儒物語

Die Geschichte von dem kleinen Muß.
von Hauff.

第五編

ステーエンフォルの窟

Die Höhle von Steenfall.

第六編

獨逸新聞の研究

近刊

